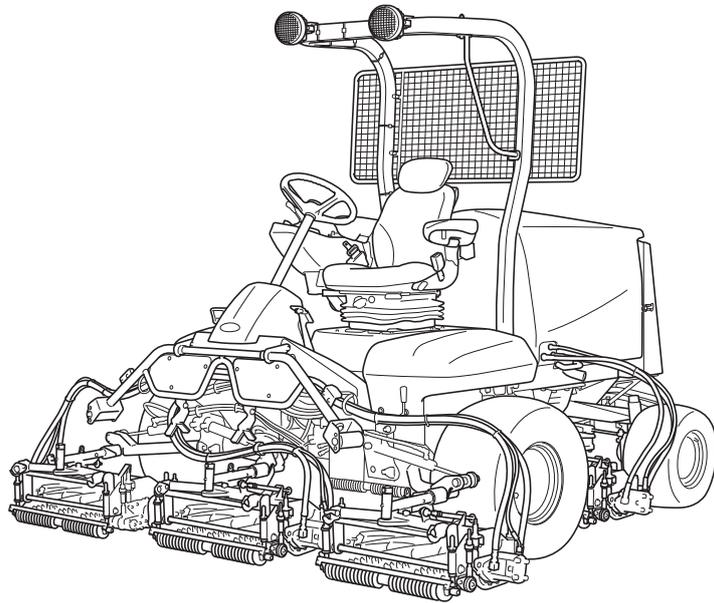


LM551A

乗用 5 連リールモア

取扱説明書



Serial No. LM551A : 20057-

「必読」
ご使用前に必ず本書をお読みください。

BARONESS[®]
Quality on Demand

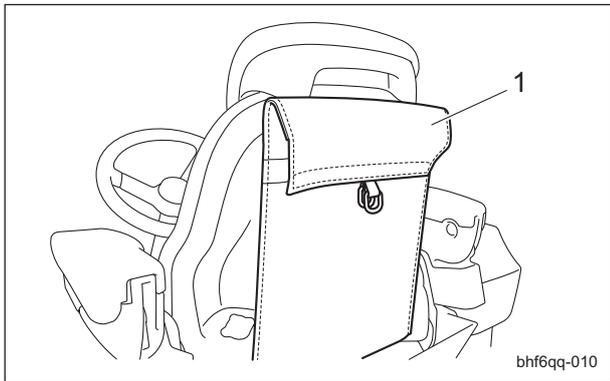
Ver.1.3

ごあいさつ

このたびは、バロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。
いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。
なお、アタッチメントの取り扱い方法と調整方法、また点検方法については、アタッチメントの取扱説明書を参照してください。

取扱説明書の保管場所

本書は、シート後ろのバッグにて保管してください。



取扱説明書の保管場所_001

1	バッグ
---	-----

本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽にバロネス販売代理店または弊社にお問い合わせください。

お問い合わせの際には、必ずこの製品の型式と製造番号をお知らせください。

この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡しく下さい。

株式会社 共栄社

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

 <small>696cq5-001</small>	危険警告記号
<p>この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。 いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。 これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。</p>	
<p>⚠ 危険</p> <p>その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。</p>	
<p>⚠ 警告</p> <p>その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。</p>	
<p>⚠ 注意</p> <p>その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるもの、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。</p>	
<p>重要</p> <p>製品の構造などの注意点を示しています。</p>	

はじめに

使用上の注意

注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。

部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。

純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- ・ バロネス製品の取扱説明書
- ・ エンジンの取扱説明書
- ・ バッテリーの取扱説明書

使用目的

この製品は、ゴルフ場の芝草刈り作業を目的とした機械です。

この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

また、この製品は特殊自動車の型式認定を取得していませんので、一般道路は走行できません。

安全	Page 1-1
安全上の注意事項	Page 1-2
廃棄	Page 2-1
リサイクルおよび廃棄処分	Page 2-2
製品概要	Page 3-1
仕様	Page 3-2
各部の名称	Page 3-4
規制ラベル	Page 3-4
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-6
取り扱い説明	Page 4-1
点検	Page 4-2
締め付けトルク	Page 4-14
使用前の調整	Page 4-17
エンジン始動・停止方法	Page 4-21
操作方法	Page 4-23
計器	Page 4-37
移動	Page 4-63
刈り込み	Page 4-64
運搬	Page 4-65
保管	Page 4-66
メンテナンス	Page 5-1
メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
DPF	Page 5-8
ジャッキアップ	Page 5-19
グリースアップ	Page 5-20
注油	Page 5-24
メンテナンスの方法	Page 5-26

安全上の注意事項	Page 1-2
トレーニング	Page 1-2
運転の前に	Page 1-2
運転操作	Page 1-3
保守と保管	Page 1-4

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

⚠ 危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転や検査を重ねた上で出荷しております。事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。この製品を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながるおそれがあります。以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。
各部の操作方法や警告ラベル、機械の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。
トレーニングはオーナーの責任です。特に以下の点についての十分な指導が必要です。
 - [1] 乗用機械を取り扱うときは注意と集中が必要である。
 - [2] 斜面で機体が滑り始めるとブレーキで制御することは非常に難しくなる。
斜面で制御不能となる主な原因：
 - タイヤのグリップ不足
 - 速度の出しすぎ
 - 不適切なブレーキ操作
 - 不適切な機種選定
 - 地表条件（凸凹、凍結、ぬかるみ）特に傾斜角度を正しく把握していない場合
 - 不適切な連結と重量分配
4. 子供（18才未満）や正しい運転知識の無い方には機械を操作させないでください。
地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。

6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。
7. ROPS は、転倒時保護装置です。
ROPS を取り外したり変更しないでください。
8. 損傷した ROPS は交換してください。
修理や改造をしないでください。
9. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
10. 通常操作位置から機械の左右を決めています。

運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリーやアタッチメントが必要かを判断してください。メーカーが認めた以外のアクセサリーやアタッチメントを使用しないでください。
2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を作業区域に入れないでください。
オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油をしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁とする。
喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。

6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。これらが正しく機能しないときには作業を行わないでください。
7. ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
8. マフラーが破損したら必ず交換してください。
9. 複数のリールカッターを持つ機械では、1つのリールカッターを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。
6. ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のまま運転しないでください。インターロック装置は絶対に取り外さないでください。正しく調整した状態で使用してください。
7. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
8. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。

運転操作

1. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。運転席に着座してエンジンを始動してください。シートベルトがある場合は着用してください。
4. 「安全な斜面」はありません。芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。転倒を防ぐために
 - [1] 斜面では急停止、急発進しない。
 - [2] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
 - [3] 斜面の走行や旋回は低速で行う。
 - [4] 凸凹や穴、隠れた障害物が無いか常に注意する。
 - [5] 斜面を横切りながらの作業は、そのような作業のために設計された機械以外では絶対に行わない。
 - [6] 決められた角度以上の傾斜地または転倒やスリップの危険がある場所では、絶対に作業を行わない。
5. グラスキャッチャーや他の作業機を使用して機械を操作しているときは、特別な注意を払ってください。それらは機械の安定性に影響することがあります。
9. 以下のような状況になった場合には、アタッチメントの駆動を停止し、エンジンを止め、キーを抜き取ってください。
 - [1] 燃料を給油するとき。
 - [2] グラスキャッチャーを取り外すとき。
 - [3] 刈高を調整するとき。ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
 - [4] 詰まりを取り除くとき。
 - [5] 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
 - [6] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
10. 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
11. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
12. オペレーター以外の人を乗せないでください。
13. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
14. 旋回するとき、管理道路やカート道、歩道を横断するときは減速し、周囲に十分注意してください。
15. 草地以外の場所では、刃の回転を停止してください。
16. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業機への駆動を止めてください。
17. 作業機を使用する場合、排出方向などに気をつけ、人に向けないようにしてください。また作業中は機械に人を近づけないでください。

18. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
19. 機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。
20. 機械を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
21. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
22. わき見運転、手放し運転はしないでください。
23. エンジンを停止するときにはエンジン回転を下げてください。
燃料コックが付いている場合は、燃料コックを閉じてください。
24. 落雷のおそれがあるときは、作業を中断して機械から離れてください。
7. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
8. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
9. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
10. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
11. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
12. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
13. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
14. 油圧機器を取り外すなど、油圧系統の整備をする場合は、必ず減圧してから行ってください。
15. 油圧系統のラインコネクターは十分に締まっているかを確認してください。
油圧をかける前に油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
16. 油圧回路のピンホール漏出やノズルの油漏れを確認する場合は、絶対に手ではなく、紙や段ボールなどを使用して漏出箇所を探してください。
高圧オイルは、皮膚を突き破ることがあり、人的事故を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
万一、油圧作動油が体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業機を下げ、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。
2. 機械から離れるときには必ずモアユニットを下げておいてください。
ただしモアユニットを上げた位置に確実にロックしておくことができる場合はこの限りではありません。
3. 火災防止のため、エンジンやマフラー、バッテリー、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。
オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
4. 閉めきった場所に機械を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
5. 機械にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が多冷えていることを確認してから行ってください。
6. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
17. 修理作業の前にはバッテリーケーブルを取り外してください。
先にマイナスケーブルを取り外してからプラスケーブルを取り外してください。
取り付ける場合は、プラスケーブルから取り付けてください。
18. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。
19. リールカッターとベッドナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。
[1] 必ず手袋を着用してください。
[2] 刃合わせ調整中は、リールカッターとベッドナイフの間に指が挟まれないように十分注意してください。
20. 複数のリールカッターを持つ機械では、1つのリールカッターを回転させると他も回転する場合がありますので注意してください。
21. 可動部に手足を近づけないでください。
エンジンが作動したまま調整作業をしないでください。

22. バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の
良い場所で行ってください。
バッテリーと充電器の接続や切り離しを行う
場合は、充電器をコンセントから抜いておいて
ください。
また、ゴム手袋や保護メガネなどを着用し、絶
縁された工具を使用してください。
23. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠
らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため
早期に交換してください。
24. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボル
ト、ねじ類が十分締まっているかを確認してく
ださい。
25. グラスキャッチャーの磨耗や劣化を、こまめに
点検してください。
26. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外
で作業を行ってください。
27. エンジンクーラントを飲み込むと、健康に害を
及ぼしたり死を引き起こすことがあります。
子供やペットの手の届かないところに保管し
てください。

リサイクルおよび廃棄処分Page 2-2

リサイクルについて Page 2-2

廃棄処分についてPage 2-2



リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。
また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。
(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

仕様	Page 3-2
仕様表	Page 3-2
音圧レベル	Page 3-3
音響レベル	Page 3-3
振動レベル	Page 3-3
各部の名称	Page 3-4
規制ラベル	Page 3-4
規制ラベル貼付位置	Page 3-4
規制ラベルの説明	Page 3-5
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-6
警告ラベルと指示ラベルについて	Page 3-6
警告ラベル・指示ラベル貼付位置	Page 3-6
警告ラベル・指示ラベルの説明	Page 3-7

製品概要

仕様

仕様表

型式	LM551A		
モアユニット仕様	22 インチ		
寸法	全長	295 cm	
	全幅	220 cm	
	全高	ルーフ	239 cm
ハンドル		160 cm	
質量	車両本体 (燃料タンク空)	LH52	(グルーマー、CR ブラシ、ROPS、ライト、防球ネット) 有、グラスキャッチャー無 1469 kg
		LH62	(グルーマー、CR ブラシ、ROPS、ライト、防球ネット) 有、グラスキャッチャー無 1560 kg
		LS62	(CR ブラシ、ROPS、ライト、防球ネット) 有、グラスキャッチャー無 1499 kg
	グラスキャッチャー (1 台分)		4.6 kg
最小回転半径	LH52	前輪 (外輪) 外側	306 cm
		ユニット外側	347 cm
	LH62	前輪 (外輪) 外側	306 cm
		ユニット外側	347 cm
	LS62	前輪 (外輪) 外側	306 cm
		ユニット外側	345 cm
エンジン	型式	Kubota V1505-T-E4B	
	種類	立形水冷 4 サイクルディーゼルエンジン	
	総排気量	1498 cm ³ (1.498 L)	
	最大出力	33.0 kW (44.9 PS) / 3000 rpm	
燃料タンク容量	軽油 51.0 dm ³ (51.0 L)		
燃料消費率	287 g/kW・h (定格出力時)		
エンジンオイル容量	6.0 dm ³ (6.0 L)		
冷却水容量	10.0 dm ³ (10.0 L)		
油圧タンク容量	30.3 dm ³ (30.3 L)		
作業幅 (刈幅)	254 cm		
作業範囲 (刈高)	LH52	5.0 - 20.0 mm	
	LH62	8.0 - 45.0 mm	
	LS62	10.0 - 46.0 mm	
駆動方式	走行	HST (無段変速) 方式 (フルタイム 4 駆)	
	作業部	油圧式 (ギヤモーター駆動)	
速さ (HST)	前進	16.0 km/h	
	後進	8.0 km/h	
速さ (メカ)	-		
能率	24,384 m ² /h (12.0 km/h x 刈幅 x 0.8)		
使用最大傾斜角度	15 度		

タイヤサイズ	前輪	26.5 x 14.00-12
	後輪	20 x 12.00-10
タイヤ空気圧	前輪	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)
	後輪	140 kPa (1.4 kgf/cm ²)
バッテリー		105D31L
スパークプラグ		-

出荷時のエンジン最高回転速度は、3,000 rpm

音圧レベル

音圧

この機械は、国際規格 ISO5395-1:2013 に則して同型機で測定した結果、オペレーターの耳の位置での連続聴感補正音圧レベルが 84dB 相当であることが確認されています。

音響レベル

音響

この機械は、国際規格 ISO5395-1:2013 に則して同型機で測定した結果、音響レベルが 103 dB であることが確認されています。

振動レベル

腕および手

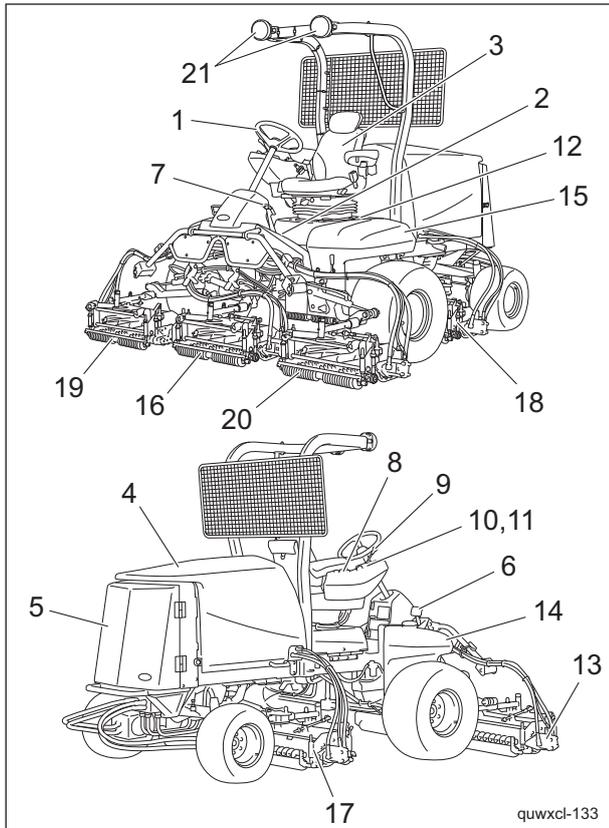
この機械は、国際規格 ISO 5395-1 : 2013 に則して同型機で測定した結果、手・腕部の振動レベルが 2.5 m/s^2 以下であることが確認されています。

全身

この機械は、国際規格 ISO 5395-1 : 2013 に則して同型機で測定した結果、全身の振動レベルが 0.5 m/s^2 以下であることが確認されています。

製品概要

各部の名称

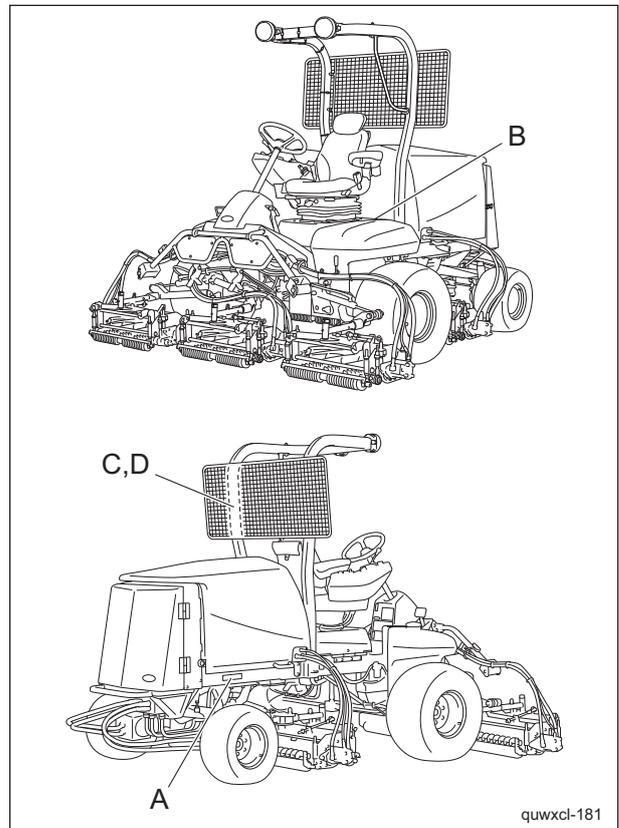


各部の名称_001

1	ハンドル
2	チルトレバー
3	シート
4	ボンネット
5	ラジエーターカバー
6	走行ペダル
7	ブレーキペダル
8	スロットルノブ
9	モアユニット昇降レバー
10	移動・作業切り替えスイッチ
11	リール回転スイッチ
12	リール正転・逆転スイッチ
13	リール回転・停止切り替えレバー
14	燃料タンク
15	油圧タンク
16	#1 モアユニット
17	#2 モアユニット
18	#3 モアユニット
19	#4 モアユニット
20	#5 モアユニット
21	ライト

規制ラベル

規制ラベル貼付位置



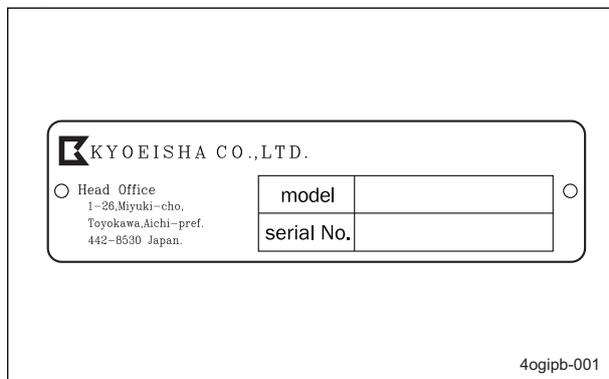
規制ラベル貼付位置_001

A	機番プレート
B	排ガス規制適合ラベル
C	ROPS 認証ラベル
D	ROPS 注意ラベル

規制ラベルの説明

機番プレート

機番プレートは、型式と機番が記載されています。



機番プレート_001

排ガス規制適合ラベル

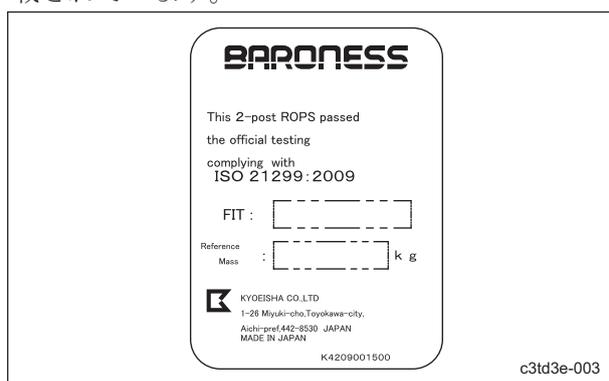
基準適合標示マークです。
 規制適用日以降に製作または輸入された特定特殊自動車は、基準適合表示などが付されたものでなければ日本国内で使用できません。



排ガス規制適合ラベル_001

ROPS 認証ラベル

ROPS 認証ラベルには、国際規格 ISO21299:2009 に則して、適合機械メーカー、モデルなどが記載されています。

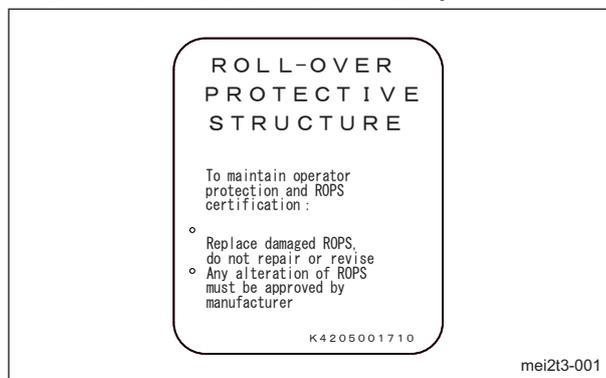


ROPS 認証ラベル_001

ROPS 注意ラベル

ROPS 注意ラベルには、以下の注意事項が記載されています。

- ・ ダメージを受けた ROPS は交換してください。
- ・ 修理や修正をしないでください。



ROPS 注意ラベル_001

製品概要

警告ラベルと指示ラベル

警告ラベルと指示ラベルについて

重要

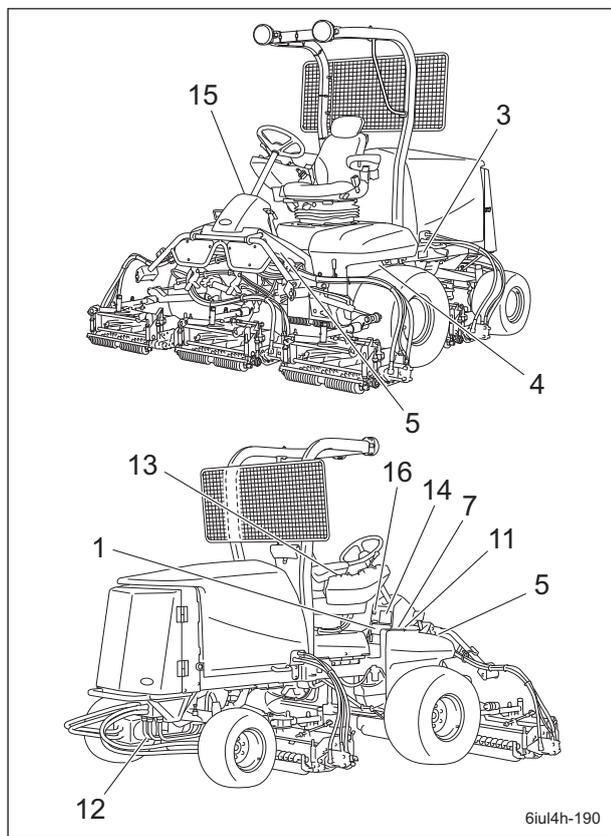
この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。

ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

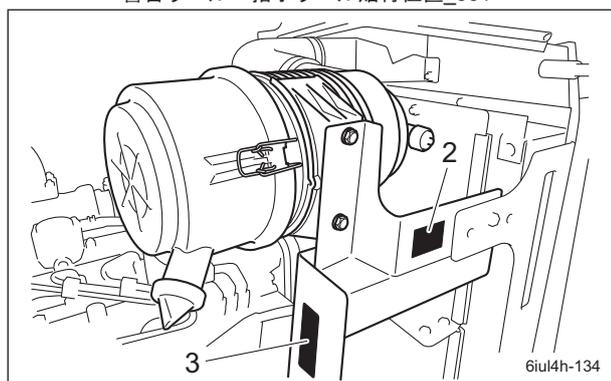
交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。

販売代理店または弊社に注文してください。

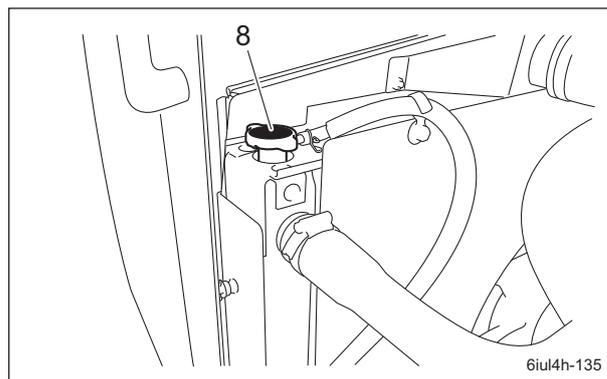
警告ラベル・指示ラベル貼付位置



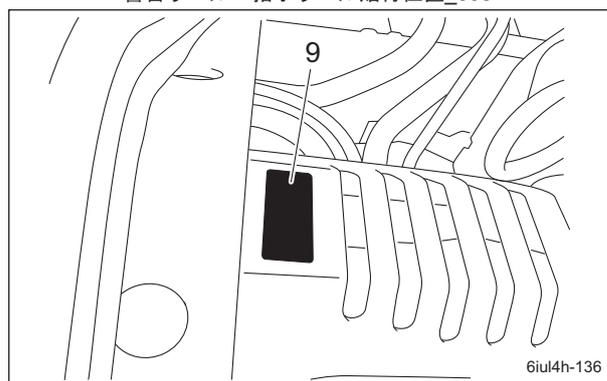
警告ラベル・指示ラベル貼付位置_001



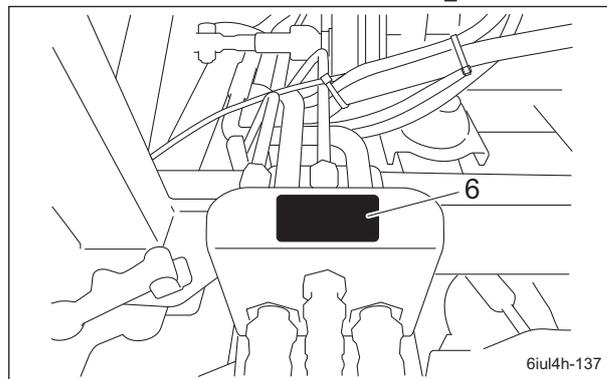
警告ラベル・指示ラベル貼付位置_002



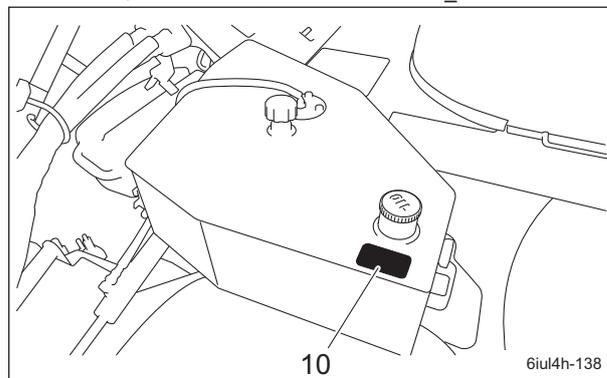
警告ラベル・指示ラベル貼付位置_003



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_004



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_005



警告ラベル・指示ラベル貼付位置_006

1	操作ラベル 2
2	回転物注意ラベル
3	高温部注意ラベル
4	はさまれ注意ラベル
5	モアロック注意ラベル
6	はさまれ注意ラベル
7	火気厳禁ラベル
8	高温部冷却液噴出注意ラベル
9	PTO 注意ラベル
10	油圧作動油マーク
11	軽油給油口マーク
12	ジャッキアップ禁止マーク
13	DPF 再生ランプマーク
14	DPF 再生注意ラベル
15	エンジン警告ランプラベル (英)
16	公道乗車禁止マーク

警告ラベル・指示ラベルの説明

操作ラベル 2

操作ラベル 2
LM2400-0918Z0

1.



取扱説明書をお読みください。

2.



駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、エンジンキーを抜いてから機械を離れてください。

3.



飛散物 - 人を機械から遠ざけてください。

4.



手足を切る - 可動部品に近づかないでください。

5.

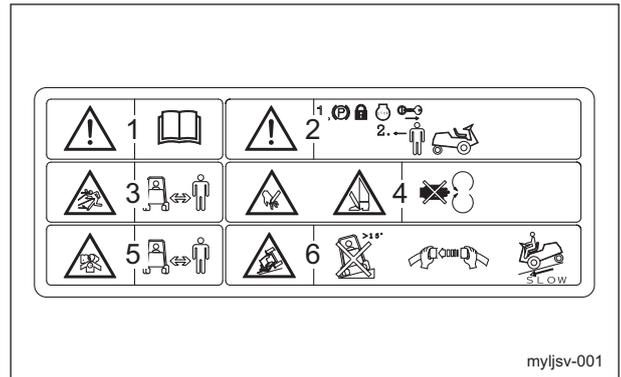


排ガスに注意

6.



転倒 - 15 度以上の傾斜の斜面での作業は行わないでください。
斜面を下るときは、モアユニットを下げ低速で走行してください。
シートベルトを着用してください。(ROPS 装着時)



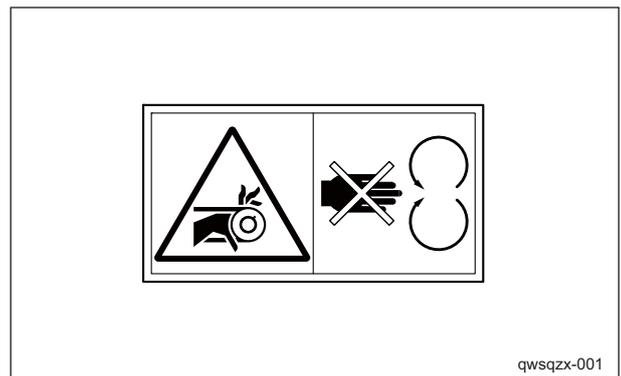
操作ラベル 2_001

回転物注意ラベル

K4205001530
回転物注意ラベル



回転物注意 - エンジン回転中はベルトに手を近づけないでください。



回転物注意ラベル_001

製品概要

高温部注意ラベル

K4205001540
高温部注意ラベル



高温 - 火傷をするので、触らないでください。



xekv4l-001

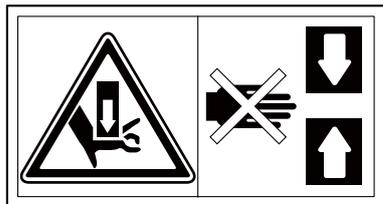
高温部注意ラベル_001

はさまれ注意ラベル

K4205001580
はさまれ注意ラベル



挟まれる - 挟まれる場合があります。



tgp289-001

はさまれ注意ラベル_001

モアロック注意ラベル

K4205001900
モアロック注意ラベル
移動または#4、#5 モアユニットを上げた状態で
保管するときは、ロックしてください。



vm5htg-001

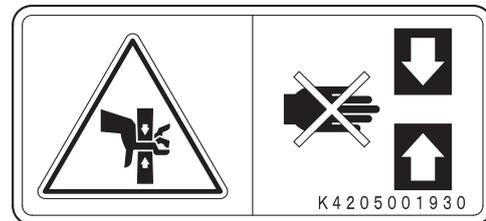
モアロック注意ラベル_001

はさまれ注意ラベル

K4205001930
はさまれ注意ラベル



挟まれる - 挟まれる場合があります。



tgp289-002

はさまれ注意ラベル_001

火気厳禁ラベル

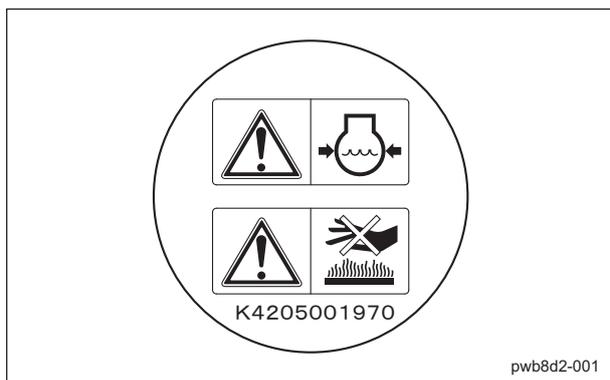
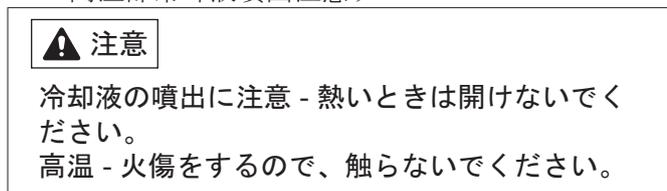
K4205001940
火気厳禁ラベル



火気厳禁ラベル_001

高温部冷却液噴出注意ラベル

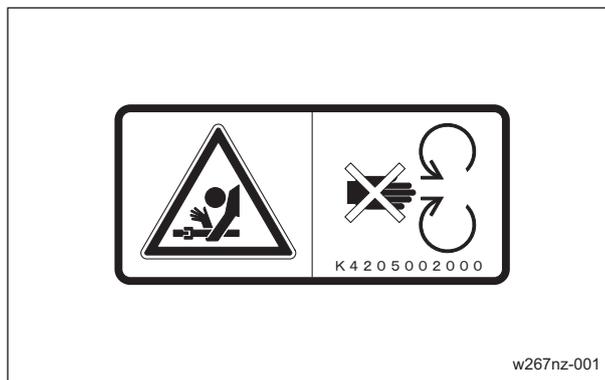
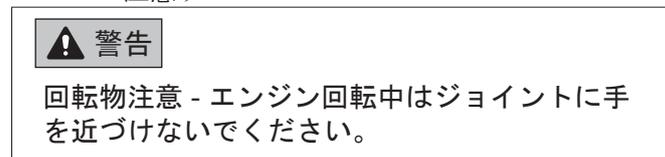
K4205001970
高温部冷却液噴出注意ラベル



高温部冷却液噴出注意ラベル_001

PTO 注意ラベル

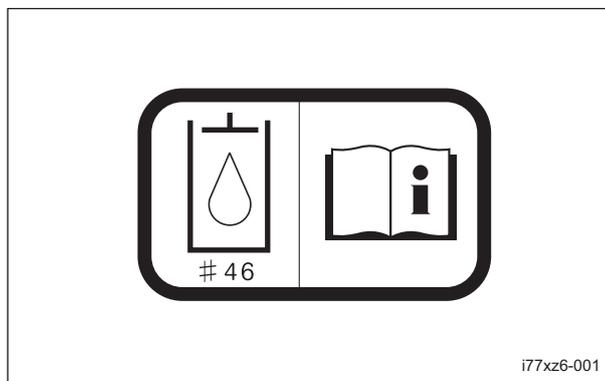
K4205002000
PTO 注意ラベル



PTO 注意ラベル_001

油圧作動油マーク

K4209000980
油圧作動油マーク
取扱説明書をお読みください。



油圧作動油マーク_001

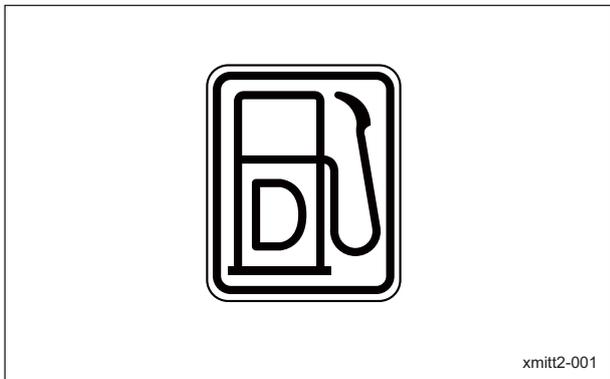
製品概要

軽油給油口マーク

K4209001000

軽油給油口マーク

軽油を使用してください。



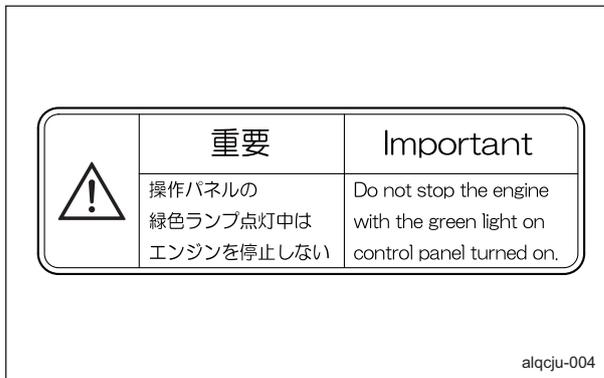
軽油給油口マーク_001

DPF 再生注意ラベル

LM551--1004Z0

DPF 再生注意ラベル

操作パネルの緑ランプ点灯中は、エンジンを停止しないでください。



DPF 再生注意ラベル_001

ジャッキアップ禁止マーク

K4205002220

ジャッキアップ禁止マーク

ジャッキアップをしないでください。

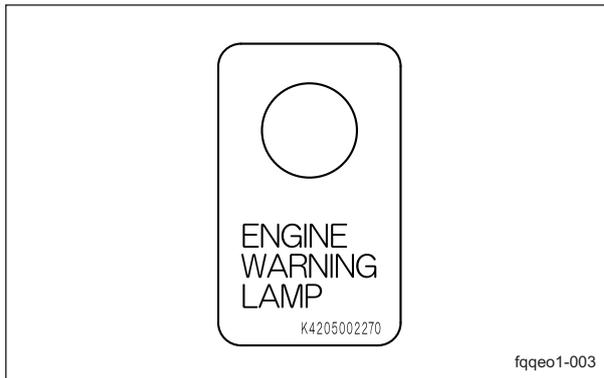


ジャッキアップ禁止マーク_001

エンジン警告ランプラベル (英)

K4205002270

エンジン警告ランプラベル (英)

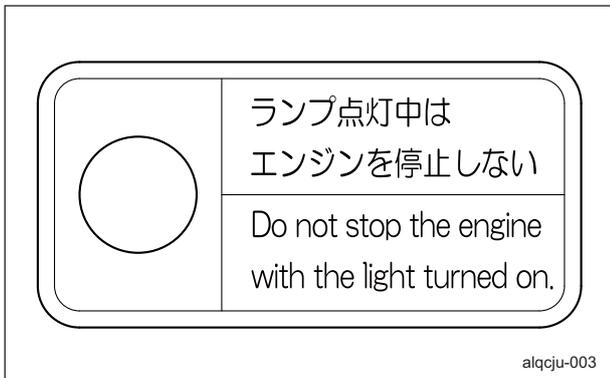


エンジン警告ランプラベル (英)_001

DPF 再生ランプマーク

DPF 再生ランプマーク

緑ランプ点灯中は、エンジンを停止しないでください。



DPF 再生ランプマーク_001

公道乗車禁止マーク

K4205001660

公道乗車禁止マーク



公道乗車禁止マーク_001

点検	Page 4-2	リレー	Page 4-29
ラジエーターカバー	Page 4-2	ライトスイッチ	Page 4-29
ラジエーター	Page 4-2	移動・作業切り替えスイッチ	Page 4-29
冷却水	Page 4-3	リール回転スイッチ	Page 4-30
オイルクーラー	Page 4-4	リール正転・逆転スイッチ	Page 4-30
油圧作動油	Page 4-5	リール回転・停止切り替えレバー	Page 4-31
エアクリナー	Page 4-6	モアロックレバー（ラッチ）	Page 4-31
バッテリー	Page 4-7	モアユニット昇降レバー	Page 4-31
タイヤ	Page 4-8	スロットルノブ	Page 4-32
ブレーキ	Page 4-8	DPF 自動再生禁止スイッチ	Page 4-32
ベルト	Page 4-8	DPF 駐車再生スイッチ	Page 4-33
ワイヤー	Page 4-8	走行ペダル	Page 4-33
エンジン周り	Page 4-8	ペダルストッパー	Page 4-34
エンジンオイル	Page 4-8	ブレーキペダル	Page 4-34
燃料	Page 4-9	開閉レバー	Page 4-35
ウォーターセパレーター	Page 4-11	ラジエーターカバー	Page 4-35
燃料フィルター	Page 4-13	ボンネット	Page 4-35
油漏れ	Page 4-13	シート下カバー	Page 4-36
グラスキャッチャー	Page 4-13	ステップカバー	Page 4-36
締め付けトルク	Page 4-14	計器	Page 4-37
標準締め付けトルク	Page 4-14	モニターの説明	Page 4-37
重要締め付けトルク	Page 4-16	表示アイコン	Page 4-37
使用前の調整	Page 4-17	メインメニュー項目	Page 4-38
ハンドルの調整	Page 4-17	DPF 再生ランプ	Page 4-63
シートの調整	Page 4-17	エンジン警告ランプ	Page 4-63
リール回転制御バルブの調整	Page 4-18	移動	Page 4-63
モアストッパー軸の調整	Page 4-19	移動操作	Page 4-63
モアスタビライザーの調整	Page 4-20	けん引方法	Page 4-63
ストッパーナットの調整	Page 4-20	刈り込み	Page 4-64
エンジン始動・停止方法	Page 4-21	刈り込み操作	Page 4-64
エンジン始動・停止	Page 4-21	グラスキャッチャーの脱着	Page 4-65
安全装置について	Page 4-22	運搬	Page 4-65
警報装置について	Page 4-22	運搬方法	Page 4-65
操作方法	Page 4-23	保管	Page 4-66
機械を離れるときの注意	Page 4-23	長期保管について	Page 4-66
操作ラベル貼付位置	Page 4-23		
操作ラベルの説明	Page 4-24		
近接センサー	Page 4-28		

取り扱い説明

点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、メンテナンススケジュールに従って点検をしてください。

ラジエーターカバー

ラジエーターカバーの点検

1. ラジエーターカバーに損傷が無いか確認してください。
2. ラジエーターカバーに汚れが無いか確認してください。

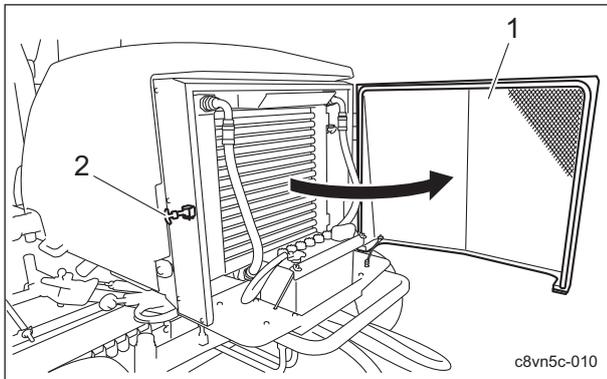
ラジエーターカバーの清掃

重要

清掃をしないと、エンジンのオーバーヒート、焼き付きの原因となります。また、油圧機器の故障の原因にもなります。

ラジエーターカバーに埃が付着している場合は、必ず取り除いてください。特に、埃の多い場所での作業は、早めに取り除いてください。

1. ラジエーターカバーを開けてください。



ラジエーターカバーの清掃_001

1	ラジエーターカバー
2	ゴムキャッチ

2. ラジエーターカバーの裏表を水または圧縮空気で丁寧に清掃してください。

ラジエーター

ラジエーターの点検

1. ラジエーターに損傷が無いか確認してください。
2. ラジエーターに汚れが無いか確認してください。

ラジエーターの清掃

重要

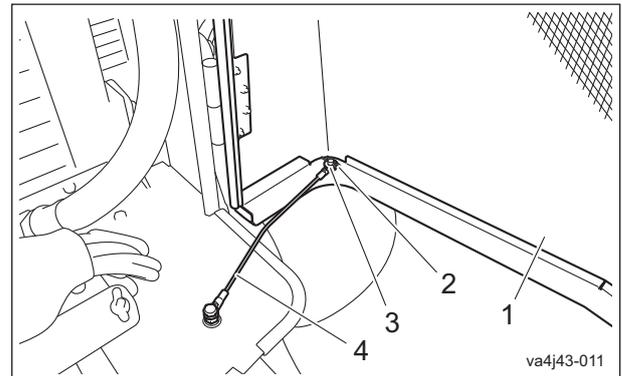
清掃をしないと、エンジンのオーバーヒート、焼き付きの原因となります。また、油圧機器の故障の原因にもなります。

重要

ラジエーターやオイルクーラーは、へらやドライバなどの固いものおよび、高圧洗浄で清掃しないでください。特殊フィンやチューブを傷め、冷却能力の低下や冷却水漏れの原因になります。

ラジエーターに埃が付着している場合は、必ず取り除いてください。特に、埃の多い場所での作業は、早めに取り除いてください。

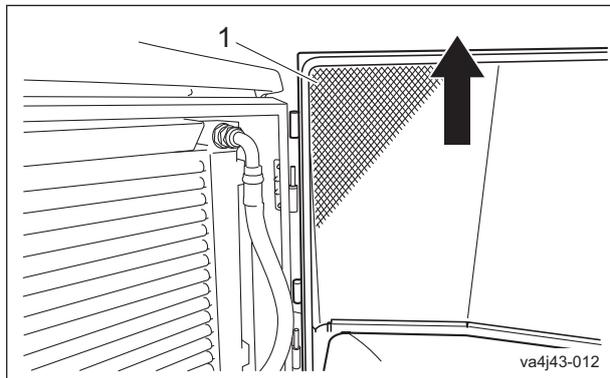
1. ラジエーターカバーを開けてください。
2. スナップピン、ワッシャーを取り外し、ケーブルを外してください。



ラジエーターの清掃_001

1	ラジエーターカバー
2	スナップピン
3	ワッシャー
4	ケーブル

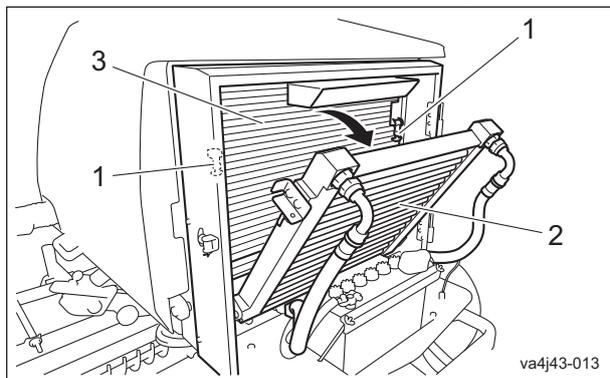
3. ラジエーターカバーを引き上げて取り外してください。



ラジエーターの清掃_002

- | | |
|---|-----------|
| 1 | ラジエーターカバー |
|---|-----------|

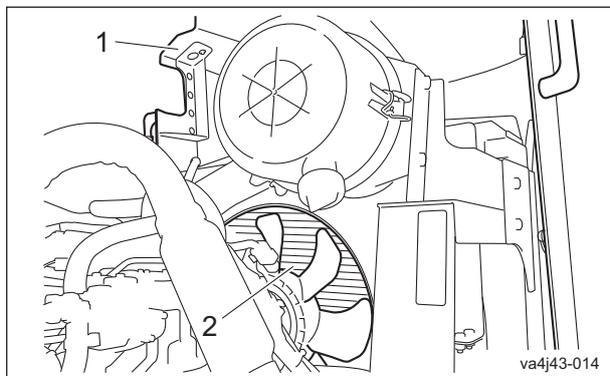
4. オイルクーラーの左右のゴムキャッチを外し、オイルクーラーを傾けてください。



ラジエーターの清掃_003

- | | |
|---|---------|
| 1 | ゴムキャッチ |
| 2 | オイルクーラー |
| 3 | ラジエーター |

5. ラジエーターを水または圧縮空気で丁寧に清掃してください。
6. ボンネットを開けてください。



ラジエーターの清掃_004

- | | |
|---|--------|
| 1 | ボンネット |
| 2 | ラジエーター |

7. ラジエーターを水または圧縮空気で丁寧に清掃してください。

冷却水

冷却水の点検

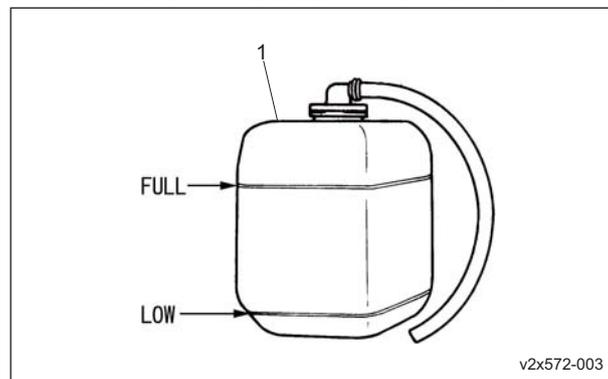
⚠ 注意

エンジン運転中および停止直後のラジエーター、冷却水には絶対に触れないでください。高温のため火傷をするおそれがあります。

⚠ 注意

点検はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

1. リザーブタンクの冷却水が「FULL」と「LOW」の間にあることを確認してください。



冷却水の点検_001

- | | |
|---|---------|
| 1 | リザーブタンク |
|---|---------|

取り扱い説明

冷却水の補給

▲ 注意

エンジン運転中および停止直後のラジエーター、冷却水には絶対に触れないでください。高温のため火傷をするおそれがあります。

▲ 注意

補給はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

▲ 注意

ラジエーターキャップは、加圧式です。エンジンが過熱した状態でラジエーターキャップを取り外すと高温の蒸気が吹き出し、火傷をするおそれがあります。水温および、圧力が下がってからキャップを厚手の布などを当て、徐々に開けてください。

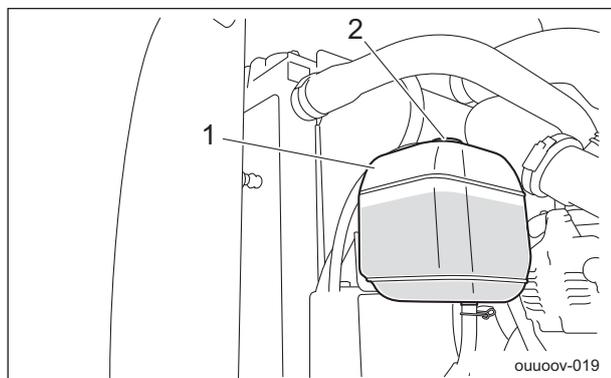
重要

冷却水を補給する場合は、必ずきれいな水を使用してください。

重要

ラジエーターキャップはしっかり閉めてください。キャップが緩んでいたり、不適切に取り付けられていると水が漏れてエンジンが過熱する可能性があります。

1. リザーブタンクの冷却水が「LOW」以下の場合、リザーブタンクのキャップを開け、「FULL」まできれいな水を補給してください。

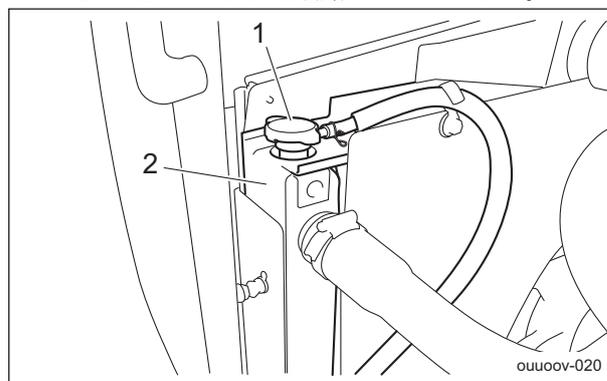


冷却水の補給_001

1	リザーブタンク
2	リザーブタンクキャップ

2. リザーブタンクの冷却水が無い場合は、以下の要領できれいな水を補給してください。

- [1] ラジエーターキャップを開け、口元まできれいな水を補給してください。
- [2] リザーブタンクのキャップを開け、「FULL」まできれいな水を補給してください。



冷却水の補給_002

1	ラジエーターキャップ
2	ラジエーター

オイルクーラー

オイルクーラーの点検

1. オイルクーラーに損傷が無いか確認してください。
2. オイルクーラーに汚れが無いか確認してください。

オイルクーラーの清掃

重要

清掃をしないと、油圧機器の故障の原因になります。

重要

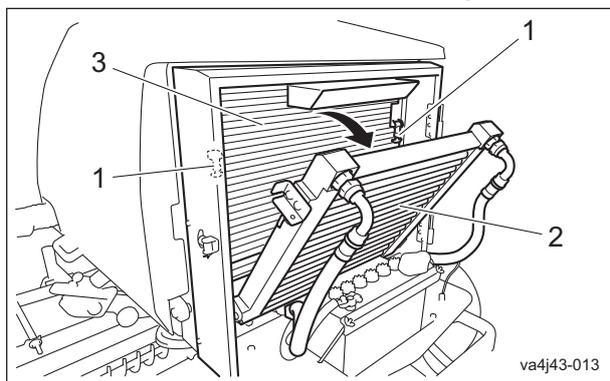
ラジエーターやオイルクーラーは、へらやドライバーなどの固いものおよび、高圧洗浄で清掃しないでください。特殊フィンやチューブを傷め、冷却能力の低下や冷却水漏れの原因になります。

オイルクーラーに埃が付着している場合は、必ず取り除いてください。

特に、埃の多い場所での作業は、早めに取り除いてください。

1. ラジエーターカバーを開けてください。

2. オイルクーラーの左右のゴムキャッチを外し、オイルクーラーを傾けてください。



オイルクーラーの清掃_001

1	ゴムキャッチ
2	オイルクーラー
3	ラジエーター

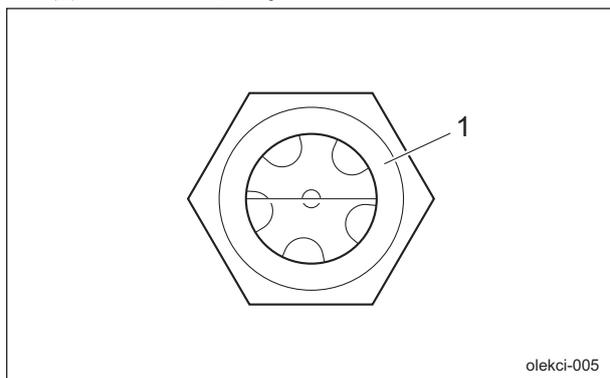
3. オイルクーラーの裏表を水または圧縮空気ですばりに清掃してください。

油圧作動油

油圧作動油の点検

油量ゲージは、油圧タンクの側面にあります。

1. 水平な場所でモアユニットを上げた状態にしてください。
2. 作動油が油量ゲージの中心まで入っているか確認してください。



油圧作動油の点検_001

1	油量ゲージ
---	-------

3. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

油圧作動油の補給

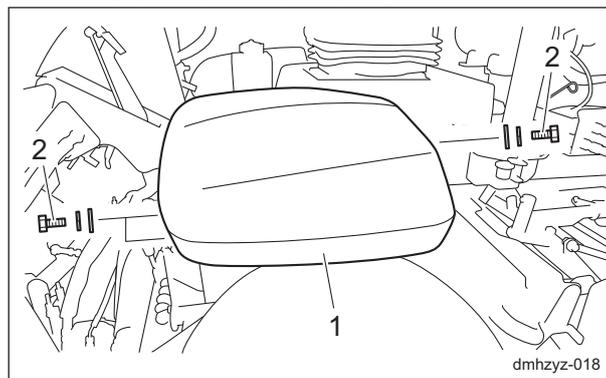
重要

異なった種類の作動油を混ぜないでください。

重要

作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

1. タンクカバーのねじを取り外し、タンクカバーを取り外してください。



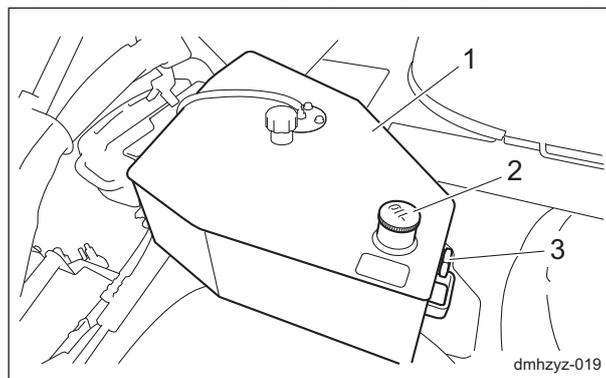
油圧作動油の補給_001

1	タンクカバー
2	ねじ

2. 以下の要領で、作動油が少ない場合は補給してください。

[1] タンクキャップを開け、注入口から作動油を油面が油圧タンクの油量ゲージの中心になるまで入れてください。

[2] タンクキャップを確実に閉めてください。



油圧作動油の補給_002

1	油圧タンク
2	タンクキャップ
3	油量ゲージ

3. エンジンを始動し、モアユニットを上げ下ろし、左右にハンドルを切ってください。前後進を数度繰り返してください。
4. 水平な場所でモアユニットを上げた状態で油面が、油量ゲージの中心にあるか確認し、必要があれば補給してください。
5. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

取り扱い説明

6. タンクカバーを取り付けてください。

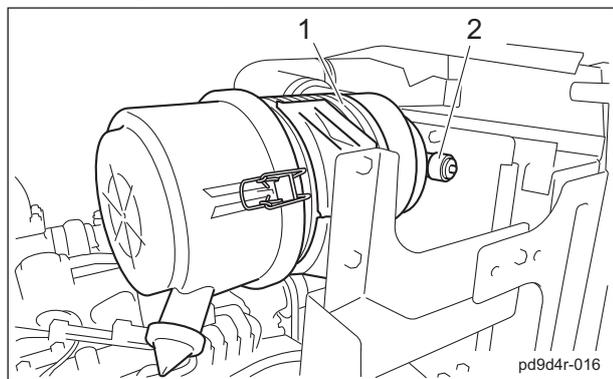
エアクリーナー

エアクリーナーの点検

エアクリーナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの磨耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

1. エアクリーナーの点検は、バキュームインディケーターで行ってください。
エアクリーナーエレメントが汚れてくると、バキュームインディケーターに赤いリングが見えてきます。



エアクリーナーの点検_001

1	エアクリーナー
2	バキュームインディケーター

2. エアクリーナーに損傷が無いか確認してください。
3. エアクリーナーエレメントに汚れが無いか確認してください。

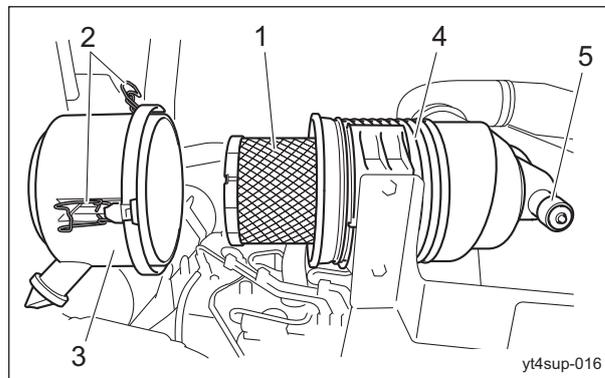
エアクリーナーの清掃

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

1. 以下の要領で清掃をしてください。
 - [1] クリップを外し、エアクリーナーキャップを取り外し、エアクリーナーエレメントを取り外してください。
 - [2] エアクリーナーエレメントを傷つけないように注意し、エアクリーナーエレメントの固い部分を軽く叩くか、内側から圧縮空気を吹き付けて埃や屑を取り除いてください。もし、極端に汚れている場合は、新しいエアクリーナーエレメントに交換してください。

[3] エアクリーナーボディにエアクリーナーエレメントを取り付けてください。

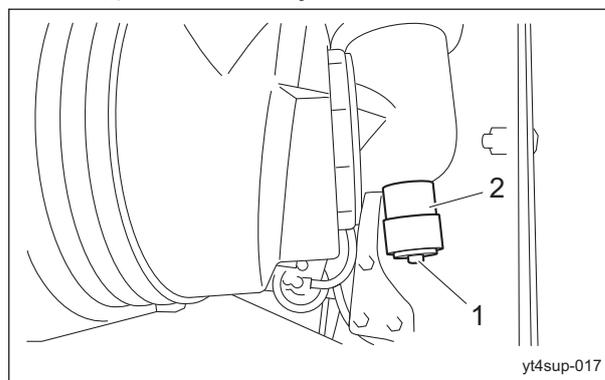
[4] エアクリーナーキャップを取り付け、クリップで確実に固定してください。



エアクリーナーの清掃_001

1	エアクリーナーエレメント
2	クリップ
3	エアクリーナーキャップ
4	エアクリーナーボディ
5	バキュームインディケーター

2. バキュームインディケーターのリセットボタンを押してください。



エアクリーナーの清掃_002

1	リセットボタン
2	バキュームインディケーター

バッテリー

バッテリーの点検

⚠ 危険

バッテリーの点検・充電は火気厳禁です。
バッテリーが爆発するおそれがあります。

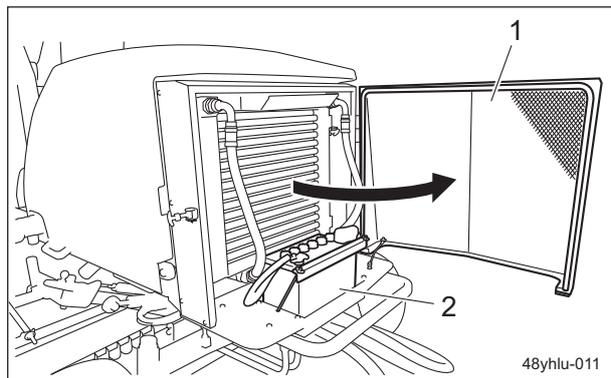
⚠ 警告

バッテリー液の液面を「LOWER LEVEL」（最低液面線）以下にしないでください。
バッテリー液の液面が「LOWER LEVEL」（最低液面線）になったまま使用または、充電するとバッテリーが爆発するおそれがあります。

⚠ 注意

DPF やエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。
火傷をするおそれがあります。

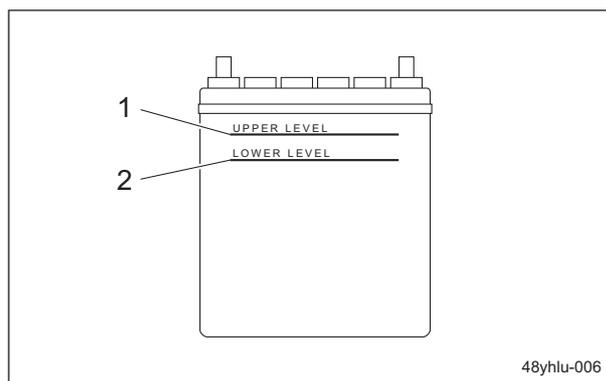
1. ラジエーターカバーを開けてください。



バッテリーの点検_001

1	ラジエーターカバー
2	バッテリー

2. 水で湿らせた布で液面線の周囲を清掃してください。
3. バッテリー液の液面が「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間にあることを確認してください。



バッテリーの点検_002

1	UPPER LEVEL
2	LOWER LEVEL

バッテリー液の補給

⚠ 危険

バッテリー液が身体や目、服などに付着したり、飲んだりしないように注意してください。
バッテリー液が身体や服に付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

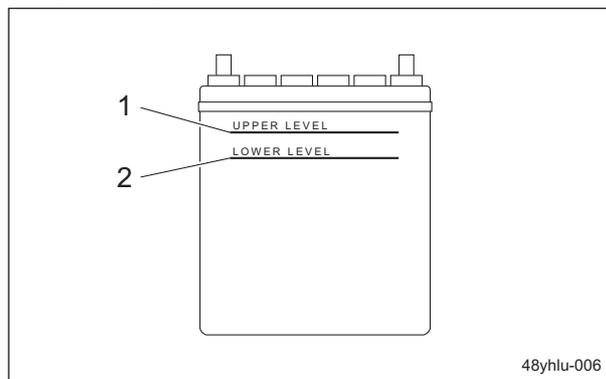
⚠ 危険

バッテリー液を補給する際は、保護服、保護メガネなどを着用してください。

⚠ 注意

DPF やエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。
火傷をするおそれがあります。

1. バッテリー液の液面が「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）間の半分以下に低下している場合は、「UPPER LEVEL」（最高液面線）まで精製水を補給してください。



バッテリー液の補給_001

取り扱い説明

1	UPPER LEVEL
2	LOWER LEVEL

タイヤ

タイヤの点検

1. タイヤの空気圧を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

	タイヤサイズ	空気圧
前輪	26.5 x 14.00-12	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)
後輪	20 x 12.00-10	140 kPa (1.4 kgf/cm ²)

ブレーキ

ブレーキの点検

走行中、ブレーキペダルを強く踏み、ブレーキが効くことを確認してください。

駐車ブレーキの点検

1. ブレーキペダルを強く踏みながらロック金を踏んで、ブレーキペダルをロックした状態で、ブレーキが効くことを確認してください。
2. ブレーキペダルを強く踏み込み、ロック金を外れ、ブレーキペダルが戻ったときに、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

ベルト

ベルトの点検

警告

ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。

重要

ベルトの緩みや損傷、ファンの損傷は、オーバーヒートや充電不足の原因となります。

1. ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

ワイヤー

ワイヤーの点検

1. ワイヤーに亀裂、損傷が無いことを確認してください。

2. 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

エンジン周り

エンジン周りの点検

注意

DPF やエンジンなどが十分に冷めてから行ってください。
火傷をするおそれがあります。

1. 燃料系の部品は、取り付け部に緩みやひび割れ、漏れが無いか確認し、必要があれば交換してください。
2. DPF や DPF の周りに芝草や可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて清掃してください。
エンジンが複雑な形状をしていますので、すき間の芝草や埃もしっかり取り除いてください。

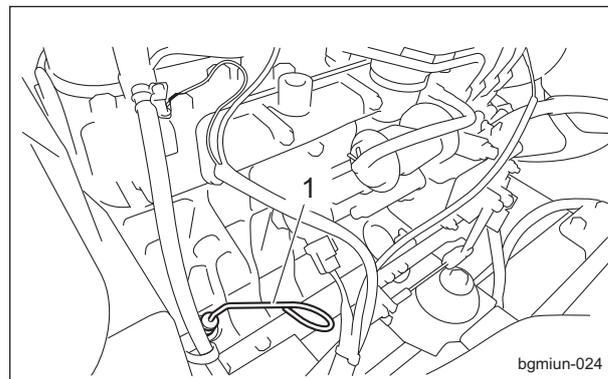
エンジンオイル

エンジンオイルの点検

重要

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

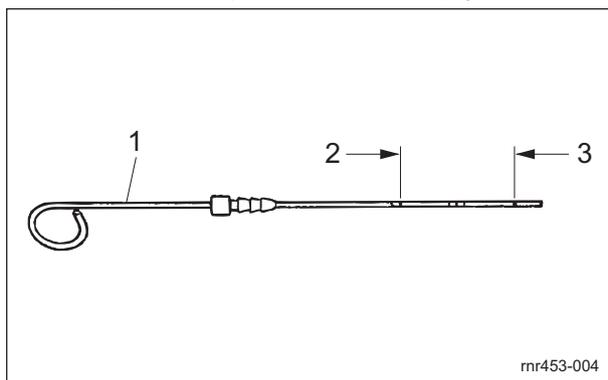
1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 - 20 分後に行ってください。
2. エンジンを水平状態にし、オイルレベルゲージをいっぱい差し込み、オイル量を調べてください。



エンジンオイルの点検_001

1	オイルレベルゲージ
---	-----------

3. 上限と下限の間にあれば適量です。



エンジンオイルの点検_002

1	オイルレベルゲージ
2	上限
3	下限

エンジンオイルの補給

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

重要

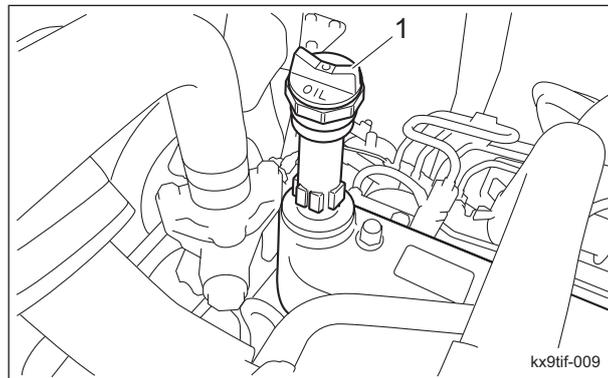
エンジンオイルは、JASO 規格：DH-2 または、API 分類：CJ-4 で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

- エンジンオイルの補給は、オイルフィルターキャップより行います。
オイルフィルターキャップを取り外し、新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限と下限の間になるまで入れてください。

- オイルフィルターキャップを確実に取り付けてください。



エンジンオイルの補給_001

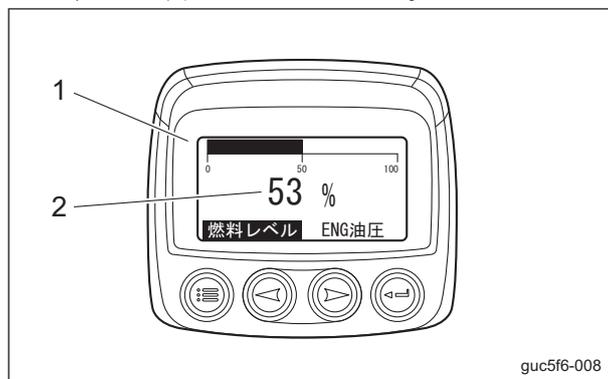
1	オイルフィルターキャップ
---	--------------

- 補給したエンジンオイルは、オイルパンに下がるまである程度時間を要します。
補給してから 10 - 20 分後にオイルの量を再点検してください。

燃料

燃料の点検

機械を水平な状態にし、モニターの燃料レベルにて、量の確認をしてください。



燃料の点検_001

1	モニター
2	燃料レベル

取り扱い説明

燃料の給油

警告

燃料レベルが 100% になったら、それ以上の給油はしないでください。
燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時にキャップより燃料があふれる可能性があります。

警告

燃料給油時は、火気厳禁です。
喫煙しないでください。

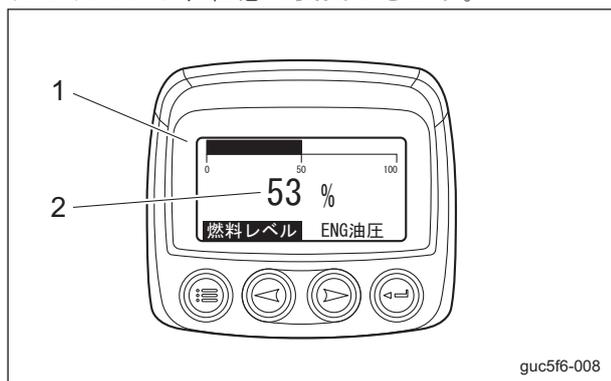
重要

燃料は、ウルトラローサルファーディーゼル（サルファーフリー軽油）を使用してください。

重要

燃料が無くなると DPF 再生ができません。

モニターに「燃料残量低下」の警告メッセージが表示され場合は、速やかに作業を中止し、燃料（軽油）の給油を行ってください。
燃料タンク容量は、約 51.0 dm³ (51.0 L) です。
参考：
工場出荷時の燃料残量低下の数値は 10 % に設定されており、任意で変更できます。



燃料の給油_001

1	モニター
2	燃料レベル

燃料の空気抜き

重要

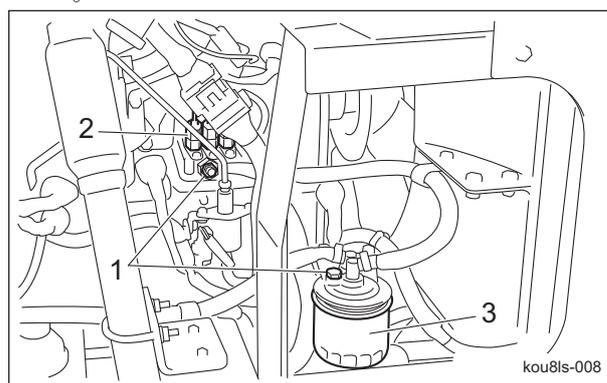
空気抜きプラグは、空気抜きするとき以外は常に閉じた状態で使用してください。
開いた状態で使用するとエンジンストップの原因になります。

この機械は、空気抜きの操作は不要です。
ただし、機械の構造上、空気抜きが完全にできない場合があります。
もし、自動で空気抜きができなかった場合は、以下の手順で空気抜きを行ってください。

注意

熱いエキゾーストマニホールドに燃料がこぼれるおそれがあるので、エンジンが熱いうちに空気抜きをしないでください。
火災を起こすおそれがあります。

1. エンジンキーを「ON」の位置にしてください。
2. 燃料フィルターの空気抜きプラグを数回回して緩めてください。
3. 泡が出てこなくなったら、空気抜きプラグをねじ込んで戻してください。
4. インジェクションポンプの上の空気抜きプラグを開いてください。
5. 泡が出てこなくなったら、空気抜きプラグをねじ込んで戻してください。
6. エンジンキーを「OFF」の位置にしてください。



燃料の空気抜き_001

1	空気抜きプラグ
2	インジェクションポンプ
3	燃料フィルター

ウォーターセパレーター

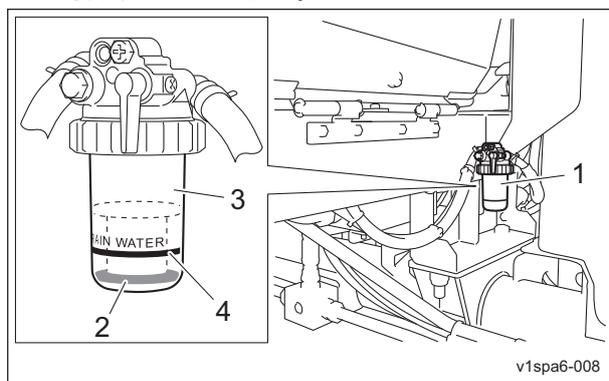
ウォーターセパレーターの点検

重要

燃料に水が混入すると、エンジンの始動性が悪くなったり、出力低下やエンジン各部の破損につながります。

ウォーターセパレーターは燃料に含まれる水を分離除去する働きをしています。

1. カップ内にゴミや水がたまっていないか確認してください。
フロートが上がることにより、水の混入を確認できます。
フロートが排出レベルに達したときには、水を排出してください。



ウォーターセパレーターの点検_001

1	ウォーターセパレーター
2	フロート
3	カップ
4	排出レベル

ウォーターセパレーターの排水

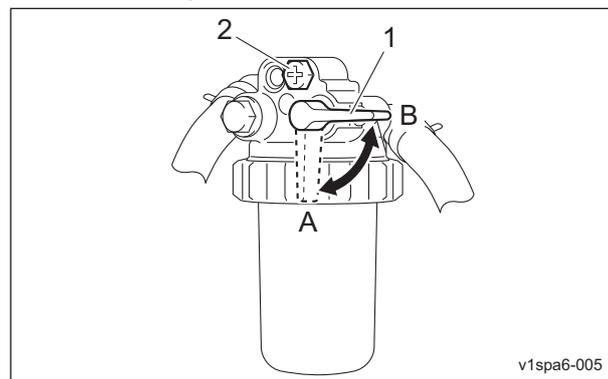
重要

燃料に水が混入すると、エンジンの始動性が悪くなったり、出力低下やエンジン各部の破損につながります。

メンテナンススケジュール時間ごとまたはフロートが水で上がってきたら、それ以前でも排水してください。

1. エンジンを止め、キースイッチを「OFF」位置にしてください。
2. ウォーターセパレーターの下に容器を置いてください。

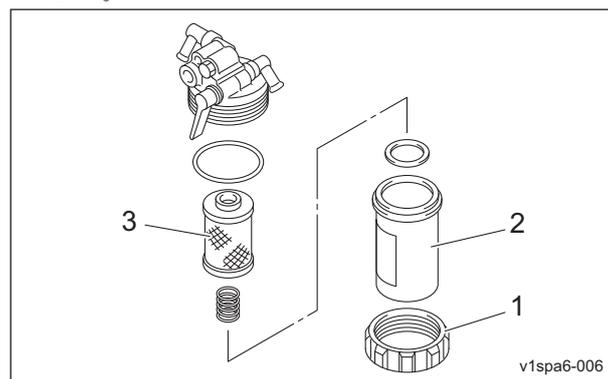
3. ウォーターセパレーターの燃料コックを閉めてください。



ウォーターセパレーターの排水_001

1	燃料コック
2	空気抜きプラグ
A	ON (開く)
B	OFF (閉じる)

4. リングネジを外し、カップを取り外してください。



ウォーターセパレーターの排水_002

1	リングネジ
2	カップ
3	エレメント

5. カップから水を排出してください。

重要

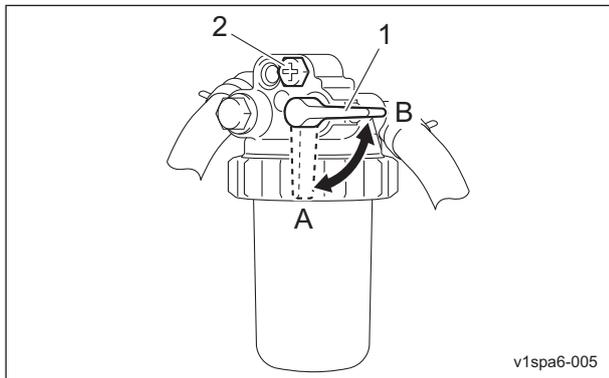
取り付けるときは、チリや埃が付着しないように注意してください。

燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料噴射ポンプや噴射ノズルが磨耗します。

6. 元のように正しく取り付けてください。
7. 燃料タンクに燃料を満たしてください。

取り扱い説明

8. ウォーターセパレーターの燃料コックを開いてください。



ウォーターセパレーターの排水_003

1	燃料コック
2	空気抜きプラグ
A	ON (開く)
B	OFF (閉じる)

9. エンジンキーを「ON」の位置にしてください。
 10. 空気抜きプラグを緩め、空気抜きを行ってください。
 11. カップ内が燃料で満たされたら再び空気抜きプラグを閉めてください。
 12. エンジンキーを「OFF」の位置にしてください。
 13. エンジンキーを「START」位置にして、15秒以上たってもエンジンが始動しないときは、30秒以上休止してから同じ操作を繰り返してください。
 エンジン始動後、再びカップ内に空気が入っている場合は、再度空気抜きを行ってください。

ウォーターセパレーターの清掃

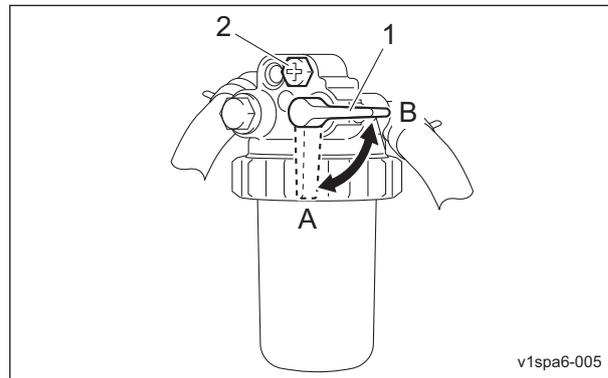
重要

燃料に水が混入すると、エンジンの始動性が悪くなったり、出力低下やエンジン各部の破損につながります。

メンテナンススケジュール時間ごとまたはカップ内にゴミがたまっていたら、それ以前でも清掃してください。

- エンジンを止め、キースイッチを「OFF」位置にしてください。
- ウォーターセパレーターの下に容器を置いてください。

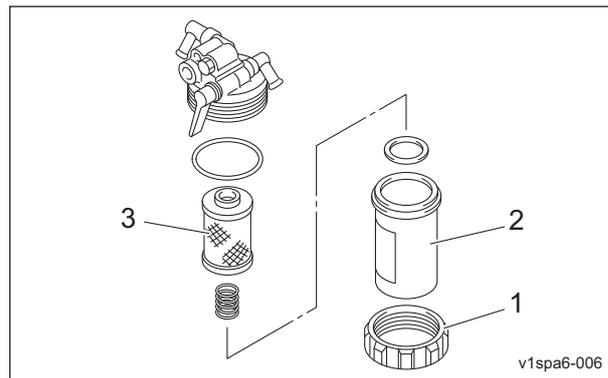
3. ウォーターセパレーターの燃料コックを閉めてください。



ウォーターセパレーターの清掃_001

1	燃料コック
2	空気抜きプラグ
A	ON (開く)
B	OFF (閉じる)

4. リングネジを外し、カップを取り外してください。



ウォーターセパレーターの清掃_002

1	リングネジ
2	カップ
3	エレメント

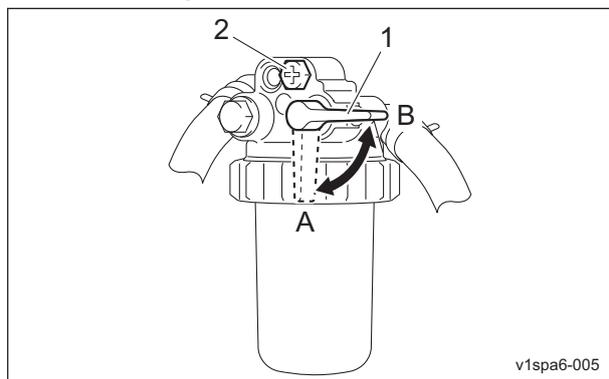
- カップから水を排出してください。
- カップとエレメントを軽油で洗浄してください。

重要

取り付けるときは、チリや埃が付着しないように注意してください。
 燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料噴射ポンプや噴射ノズルが磨耗します。

- 元のように正しく組み付けてください。
- 燃料タンクに燃料を満たしてください。

9. ウォーターセパレーターの燃料コックを開いてください。



ウォーターセパレーターの清掃_003

1	燃料コック
2	空気抜きプラグ
A	ON (開く)
B	OFF (閉じる)

- エンジンキーを「ON」の位置にしてください。
- 空気抜きプラグを緩め、空気抜きを行ってください。
- カップ内が燃料で満たされたら再び空気抜きプラグを閉めてください。
- エンジンキーを「OFF」の位置にしてください。
- エンジンキーを「START」位置にして、15秒以上たってもエンジンが始動しないときは、30秒以上休止してから同じ操作を繰り返してください。
エンジン始動後、再びカップ内に空気が入っている場合は、再度空気抜きを行ってください。

燃料フィルター

燃料フィルターの点検

燃料フィルターは、燃料に混入した異物を除去する働きをしています。
燃料の流れが悪くなったら、必要に応じて交換してください。

- 燃料漏れが無いか確認してください。
- 傷、汚れが無いか確認してください。

油漏れ

各部油漏れの点検



注意
油圧システムのメンテナンスを行うときは、モアユニットを下げてください。

50時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。
必ず増し締めを行ってください。
機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

グラスキャッチャー

グラスキャッチャーの点検

使用頻度によるグラスキャッチャーの磨耗や損傷、変形などにより、芝草がきちんと回収できなくなることがあります。

- グラスキャッチャーに磨耗や劣化が無いか確認してください。
- グラスキャッチャーに破損が無いか確認してください。
- グラスキャッチャーの変形による可動部への干渉が無いか確認してください。

取り扱い説明

締め付けトルク

重要

締め付けトルク一覧を参照してください。
異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。

標準締め付けトルク

ボルト、ねじ類

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。
使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。
締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。
締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。
一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。
めねじの強度が弱い場合は適用できません。
さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。
所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。
ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。
「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。
ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。
締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。
一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。
インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。
できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト		
	強度区分 4.8		
	 tib3yb-001		
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
	 tib3yb-002			 tib3yb-003		
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：

「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

取り扱い説明

重要締め付けトルク

機種別締め付けトルク

LM551

LM551A

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

部位	コード番号	品名	締め付けトルク			ねじ緩み止め剤	
			N-m	kgf-cm	lb-in		
前輪	モーター	K0013120702	12 調質ボルト 70	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03	—
	ホイール取付座	-	油圧モーター付溝付ナット 1-20UNEF	280 - 300	2,855.16 - 3,059.10	2,478.28 - 2,655.30	—
	ホイール	K0011120352	12 調質ボルト 35P1.5	110	1121.69	973.61	—
後輪	モーター	K0010120602	12 調質ボルト 60	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03	—
	ホイール取付座	-	油圧モーター付溝付ナット 1-20UNEF	280 - 300	2,855.16 - 3,059.10	2,478.28 - 2,655.30	—
	ホイール	K0011120352	12 調質ボルト 35P1.5	110	1121.69	973.61	—
エンジン		K0017100252	10 小型調質ボルト 25P1.25	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 774.97	—
		K0010121201	12 調質ボルト 120	67 - 85	683.20 - 886.75	593.02 - 752.34	—
		K3680000030	M3.5 ねじ（付属部品）	0.78 - 1.18	7.95 - 12.03	6.90 - 10.44	—
ジョイント		K0024100401	10 六角穴付ボルト 40	62 - 72	632.21 - 734.18	632.21 - 734.18	○
		K0011100252	10 調質ボルト 25P1.25	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 774.97	—
タイロッド		- (K1610000020)	溝付ナット（タイロッド エンド右 ASSY）	45	458.87	398.30	—
		- (K1611000020)	溝付ナット（タイロッド エンド左 ASSY）	45	458.87	398.30	—
ピストンポンプ	K0013140452	14 調質ボルト 45	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99	—	
クロスバルブ	K0013101202	10 調質ボルト 120	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—	
シート	- (K1700000430)	M8 ボルト・ナット（付属 部品）	—	—	—	○	
モアストッパー	K0041060122	6+さら小ねじ 12	—	—	—	○	
ROPS	K001A121101	12 六角穴付 13T ボルト 110	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03	—	

使用前の調整

ハンドルの調整



警告

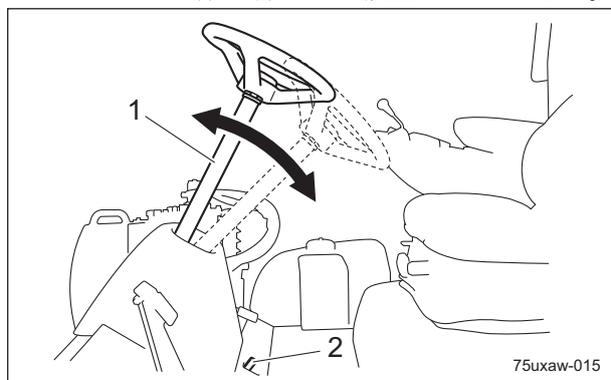
走行中は危険なため、調整しないでください。



注意

ロックは確実に行ってください。
走行中に緩むと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ハンドルは、上下に調整できます。
オペレーターの体に合わせて調整してください。

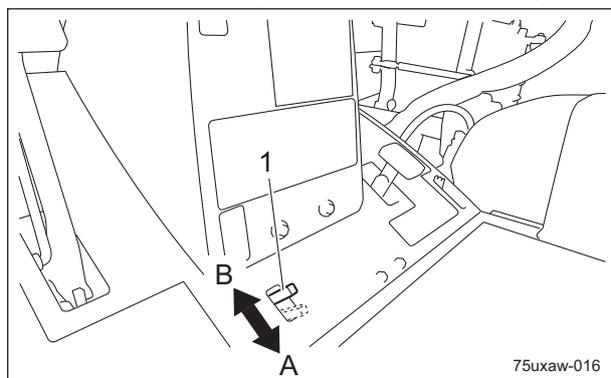


ハンドルの調整_001

1	ステアリング
2	チルトレバー

チルトレバーを「FREE」の位置にし、作業に適した位置でチルトレバーを「LOCK」の位置にして固定してください。

チルトレバーは、運転席左足元にあります。



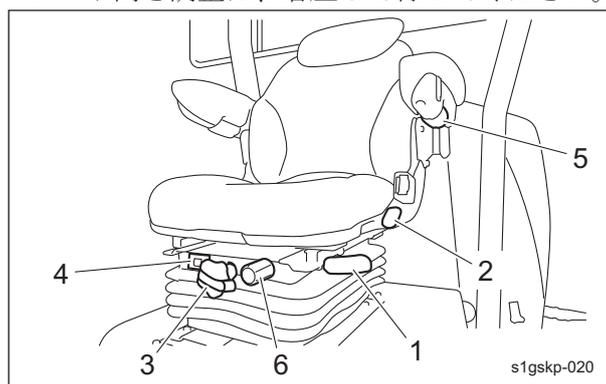
ハンドルの調整_002

1	チルトレバー
A	FREE (解除)
B	LOCK (固定)

シートの調整

シートは、調整レバーで調整できます。
オペレーターの体に合わせて調整してください。

1. 前後調整レバーで、シートを前後に調整できます。
2. 角度調整レバーで、背もたれの角度調整ができます。
3. サスペンション調整ハンドルを回すことにより、シートのサスペンションの固さを調整できます。
サスペンションインジケーターを目安にしながら調整してください。[45 - 130 kg (99.2 - 286.6 lb)]
4. アームレスト調整ノブを回すことにより、アームレストの角度が調整できます。
5. シート高さ調整ノブを回すことにより、シートの高さを無段階で調整できます。[0 - 60 mm (0 - 2.36 in)]
シート高さ調整は、着座して行ってください。



シートの調整_001

1	前後調整レバー
2	角度調整レバー
3	サスペンション調整ハンドル
4	サスペンションインジケーター
5	アームレスト調整ノブ
6	シート高さ調整ノブ

取り扱い説明

リール回転制御バルブの調整

リール回転制御バルブは、リールカッターの回転速度を調整するバルブです。

作業状態に合わせて調整してください。

ダイヤルの調整範囲とリール回転速度の関係を記載したラベルが貼り付けてあります。

リール回転制御バルブの調整は、リール回転指示ラベルに記載してあるリール回転速度の数値内で行ってください。

「TURNS」とは、ダイヤルを時計回りに止まるまで締め付けた状態から、ダイヤルを反時計回りに回した回転数を示しています。

「POS」とは、マーク用ねじが指し示すダイヤルステッカーの数字を示しています。

参考：

工場出荷時のリール回転速度は、1,450 rpm に設定してあります。

LH6* / LS6*			LH52		
TURNS	POS	REEL SPEED	TURNS	POS	REEL SPEED
2	6	1,150	1	7	1,250
	8	1,250		8	1,350
3	2	1,350	2	1	1,450
	4	1,450		2	1,550
	6	1,500		3	1,700

FOR 0 (STARTING POS) TURN CW TO MAX POS

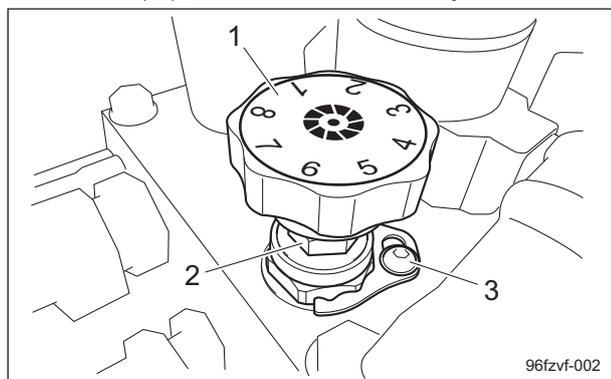
96fzvf-005

リール回転制御バルブの調整_001

1. エンジンを停止してください。
2. シート下カバーを開いてください。
3. 専用スパナ（付属品）を使用して、ダイヤルのロックナットを緩めてください。

参考：

ロックナットは、ダイヤルを回すときの妨げにならない位置まで上げてください。



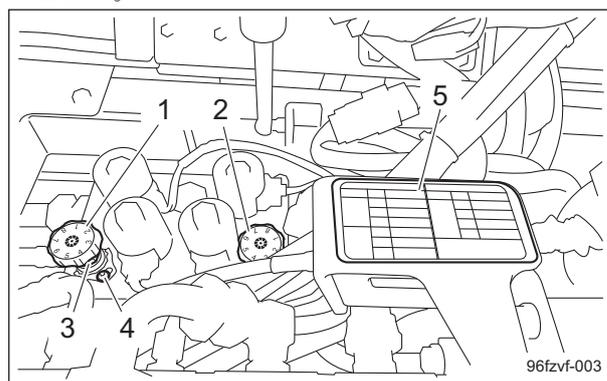
リール回転制御バルブの調整_002

1	ダイヤル
2	ロックナット
3	マーク用ねじ

重要

刈り上がり品質を維持するため、すべてのモアユニットのリール回転速度を合わせてください。

4. ダイヤルを回し、任意のポジションに設定してください。
2つのダイヤルを同じポジションに設定してください。



リール回転制御バルブの調整_003

1	ダイヤル（#1、4、5モアユニット）
2	ダイヤル（#2、3モアユニット）
3	ロックナット
4	マーク用ねじ
5	リール回転指示ラベル

5. ダイヤルのロックナットを締め付けてください。

なお、ダイヤル回転数が分からなくなった場合は、以下の要領で調整してください。

1. エンジンを停止してください。
2. シート下カバーを開いてください。
3. 専用スパナ（付属品）を使用して、ダイヤルのロックナットを緩めてください。

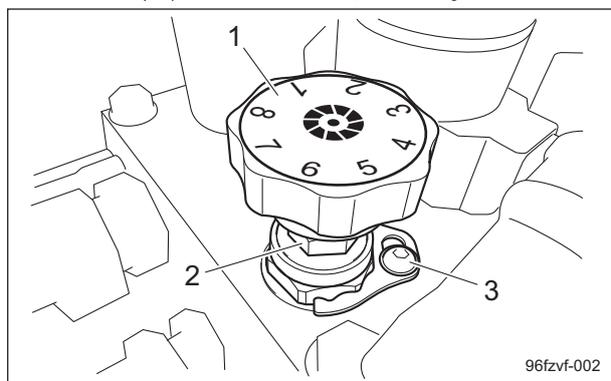


リール回転制御バルブの調整_004

1	ダイヤル（#1、4、5モアユニット）
2	ロックナット
3	専用スパナ（付属品）

参考：

ロックナットは、ダイヤルを回すときの妨げにならない位置まで上げてください。



リール回転制御バルブの調整_005

1	ダイヤル
2	ロックナット
3	マーク用ねじ

- ダイヤルを時計回りに止まるまで締め付けてください。
- ダイヤルを緩め、任意のポジションに設定します。
ダイヤルを緩める量は、モアユニットにより異なります。
例：以下は、リール回転速度を 1,450 rpm に設定する手順です。

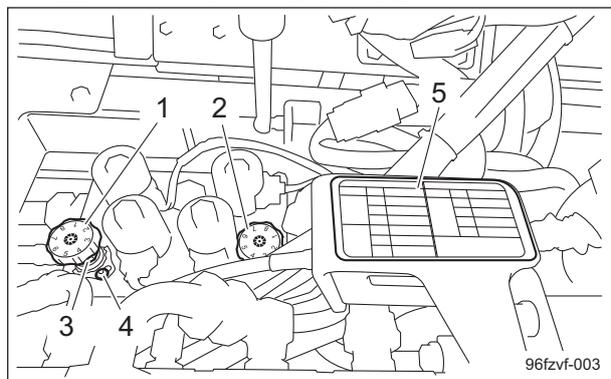
モアユニット LS62・LS66/LH62 を装着している場合：

反時計回りに 3 回転回し、さらに 180 度回してください。

ダイヤルステッカーの「4」の位置がマーク用のねじの中心になります。

モアユニット LH52 を装着している場合：
反時計回りに 2 回転回し、さらに 45 度回してください。

ダイヤルステッカーの「1」の位置がマーク用のねじの中心になります。



リール回転制御バルブの調整_006

1	ダイヤル (#1、4、5 モアユニット)
2	ダイヤル (#2、3 モアユニット)
3	ロックナット
4	マーク用ねじ
5	リール回転指示ラベル

- 専用スパナ（付属品）を使用して、ダイヤルのロックナットを締め付けてください。

モアストッパー軸の調整

モアストッパー軸は、モアユニットの振れを固定したり、解放したりできます。
作業状態に合わせて調整してください。

固定：

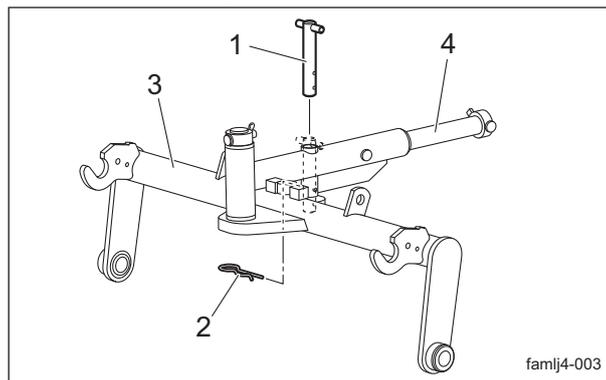
- 直進時の刈り込みラインが直線になる。（刈り込みラインが見やすい）
- 傾斜地作業時にモアユニットが垂れず、刈り残しを低減できる。

解放：

- 刈り込み旋回時やアンジュレーションに追従しやすい。
- 水平な場所ですべてのモアユニットを下ろしてください。
 - 駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。
 - モアストッパー軸の位置を調整し、スナップピンを取り付けてください。

固定する場合：

モアストッパー軸の上側の穴にスナップピンを取り付けてください。



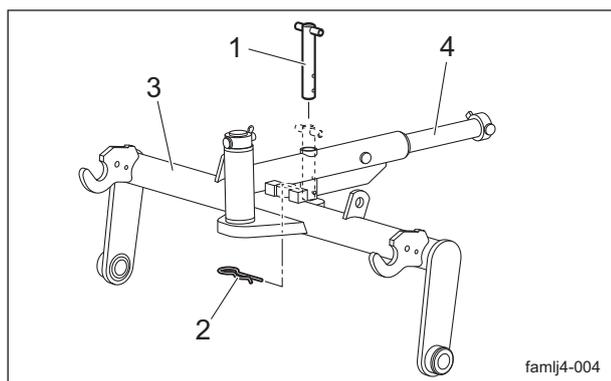
モアストッパー軸の調整_001

1	モアストッパー軸
2	スナップピン
3	モアアーム
4	モア連結金具

解放する場合：

モアストッパー軸の下側の穴にスナップピンを取り付けてください。

取り扱い説明



モアストッパー軸の調整_002

1	モアストッパー軸
2	スナップピン
3	モアアーム
4	モア連結金具

モアスタビライザーの調整

参考：

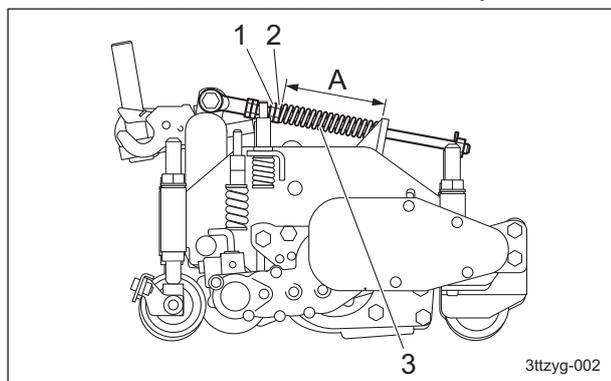
この機能は仕様により、無い場合があります。

重要

刈高調整後は、モアスタビライザーの調整をしてください。

モアスタビライザーは、モアユニットを安定させ、波を打ったような仕上がり（マーセリングと言われる現象）を防ぎます。

1. 水平な場所ですべてのモアユニットを下ろしてください。
2. 駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。
3. ロックナットを緩めてください。
4. ナットを締め込み、スプリングの長さ（圧縮）を調節してください。
 - ・ #1 - 5モア：140.0 mm (5.51 in)
5. ロックナットを締め付けてください。



モアスタビライザーの調整_001

1	ロックナット
2	ナット
3	スプリング
A	140.0 mm (5.51 in)

ストッパーナットの調整

参考：

この機能は仕様により、無い場合があります。ストッパーナットは、モアユニットの可動範囲を調整するナットです。

1. 駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。

重要

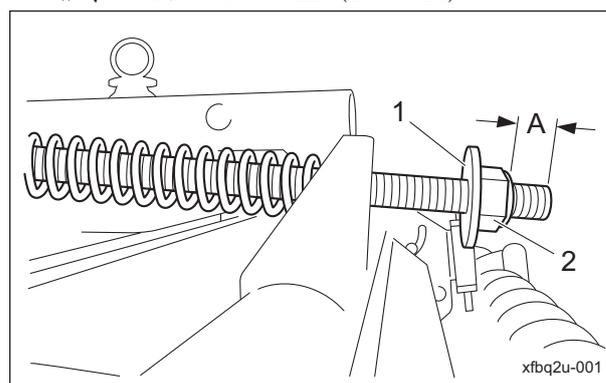
LH52（5インチモアユニット）にグラスキャッチャーを装着する場合、モアの可動範囲が大きいと、モアユニットを上げたときに、グラスキャッチャーと前ローラーが接触するおそれがあります。ストッパーナットの位置に注意してください。

2. ナットを回して、Aの長さを調節してください。

- ・ #1、4、5モア：15.0 mm (0.59 in)
- ・ #2、3モア：40.0 mm (1.57 in)

LH52（5インチモアユニット）にグラスキャッチャーを装着する場合

- ・ #1、4、5モア：30.0 mm (1.18 in)
- ・ #2、3モア：40.0 mm (1.57 in)



ストッパーナットの調整_001

1	座金
2	ナット
A	長さ

エンジン始動・停止方法

エンジン始動・停止

エンジン始動手順

注意

エンジンを始動する前に機械の周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

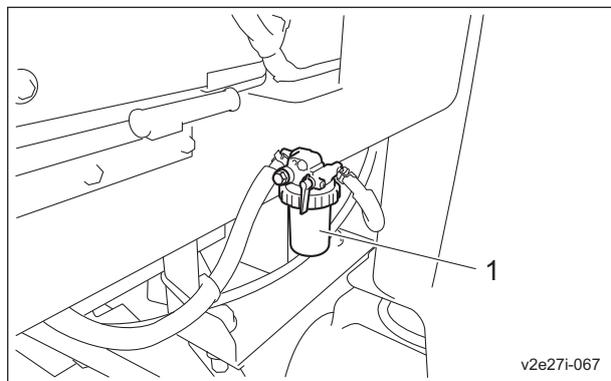
注意

エンジン停止状態で移動・作業切り替えスイッチが「作業」側するとき、モアユニット昇降レバーを「下降」位置にし、キースイッチを「ON」にするとモアユニットが下がりますので、注意してください。

重要

スターターの操作は最長 15 秒です。
それでも始動しないときは 30 - 60 秒間バッテリーを休止させ、消耗を防いでください。

1. ウォーターセパレーターの燃料コックを開きます。

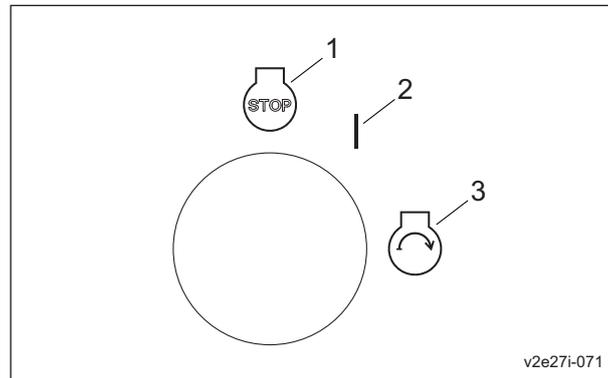


エンジン始動手順_001

- | | |
|---|-------------|
| 1 | ウォーターセパレーター |
|---|-------------|

2. 運転席に着座します。
3. ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
4. リール回転スイッチを「停止」の位置にします。
5. モアユニット昇降レバーを中立の位置にします。
6. 走行ペダルが中立になっていることを確認してください。
7. スロットルノブを「低速」側から半分程度「高速」側へ動かします。

8. エンジンキーを「ON (GLOW)」の位置にします。



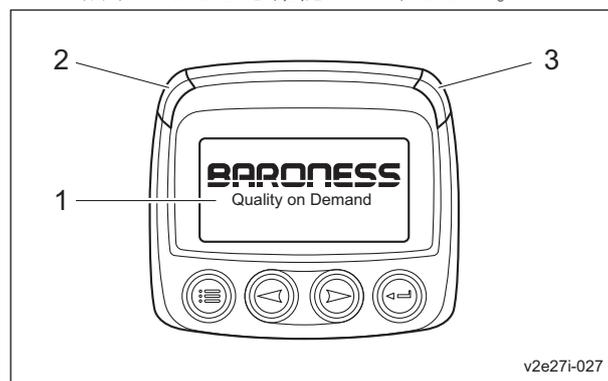
エンジン始動手順_002

1	OFF
2	ON (GLOW)
3	START

注意

エンジンキーを「ON」の位置にしたとき、モニター画面に「予熱中」と表示される場合があります。表示が消えるまで、エンジンを始動しないでください。

9. グロープラグが発熱し、モニター画面に「BARONESS」のロゴ、または「予熱中」のメッセージが表示され、黄色の LED と赤色の LED が点灯したことを確認してください。



エンジン始動手順_003

1	モニター画面
2	黄色の LED
3	赤色の LED

取り扱い説明

▲ 注意

エンジンキーを「START」位置から、「ON」の位置へ急激に戻すと、機器の損傷につながりません。

10. 「BARONESS」のロゴ、黄色のLED、赤色のLEDが消え、パラメーター（回転数などの項目と数値）が表示されたら、速やかにエンジンキーを「START」位置にします。
11. スターターが回転し、エンジンが始動し始めたらエンジンキーを「ON」の位置へゆっくりと戻してください。
12. スロットルノブを「低速」側にして1 - 2分間、暖気運転します。
13. スロットルノブを徐々に「高速」側へ動かします。

エンジン停止手順

▲ 危険

DPFの再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性がある場所では再生を行わないでください。

重要

DPF再生ランプ（LED）点灯中は、エンジンを停止しないでください。
DPF再生ランプ（LED）消灯後、モニターの再生アイコンが消灯したことを確認してからエンジンを停止してください。
DPF再生ランプ（LED）が消灯してもモニターの再生アイコンは、すぐには消灯しません。

1. 走行ペダルを中立にします。
2. ブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキをかけます。
3. リール回転スイッチを「停止」の位置にします。
4. スロットルノブを「低速」側にして1 - 2分間、空運転します。
5. DPF再生ランプが点灯（DPF再生アイコン点灯）していないことを確認してください。
6. エンジンキーを「OFF」の位置にします。
7. エンジンが停止したことを確認してください。
8. エンジンキーを抜き取ります。
9. 運転席から降ります。
10. ウォーターセパレーターの燃料コックを閉じます。

安全装置について

この機械には、エンジン始動・停止に対する安全装置が装着されています。

1. エンジンを始動するときは、以下の4つの条件が1つでも満たされていないと安全装置が働き、エンジンは始動しません。
 - ・シートに着座する。
 - ・駐車ブレーキをかける。
 - ・リール回転スイッチを「停止」の位置にする。
 - ・走行ペダルの位置を中立にする。

重要

安全装置が働き、エンジンが停止した場合、エンジンを再始動するときは、エンジンキーを「OFF」の位置に戻してから始動してください。エンジンキーを「OFF」の位置に戻さないとエンジンは始動しません。

2. 駐車ブレーキをかけた状態で、エンジンをかけたまま運転席から離れるとき、以下の条件の場合は、安全装置が働き、エンジンが停止します。
 - ・走行ペダルの位置が中立でない。（走行ペダルを踏んだ場合）
 - ・リール回転スイッチが「回転」位置にある。ただし、リール逆転スイッチが「逆転」位置にある場合は、エンジンは停止しません。

警報装置について

この機械には、警報装置が装着されています。

1. オーバーヒート警告ブザー
エンジン内部の水温が110 °Cを超えると、ブザーが鳴ります。（断続音）
2. 油圧作動油量警報ブザー
油圧タンク内の作動油が規定量より約3.0 dm³（3.0 L）減ると、ブザーが鳴ります。（連続音）
3. エンジン過負荷警告ブザー
ペダルストッパーが「移動」側で、リールカッターが回転している状態で、走行ペダルを踏み込み、速さが12.0 km/hを超えたとき、ブザーが鳴ります。（断続音）
4. ブレーキ引きずり警告ブザー
駐車ブレーキをかけた状態で、走行ペダルを踏み込むとブザーが鳴ります。（連続音）

警報ブザー

警報ブザーは2つあり、4つの警告を知らせます。

- ・ 警報ブザー (1・2)
 - ・ 警報ブザー (3・4)
1. オーバーヒート警告ブザー
エンジン内部の水温が 110°C を超えると、ブザーが鳴ります。(断続音)
警報ブザーが鳴った場合は、直ちにエンジンを停止して点検・整備をしてください。
 2. 油圧作動油量警報ブザー
油圧タンク内の作動油が規定量より約 3.0 dm^3 (3.0 L) 減ると、ブザーが鳴ります。(連続音)
警報ブザーが鳴った場合は、直ちにエンジンを停止して点検・整備をしてください。
 3. エンジン過負荷警告ブザー
ペダルストッパーが「移動」側で、リールカッターが回転している状態で、走行ペダルを踏み込み、速さが 12.0 km/h を超えたとき、ブザーが鳴ります。(断続音)
警報ブザーが鳴った場合は、直ちにエンジンを停止して、ペダルストッパーを「作業」側にしてください。
 4. ブレーキ引きずり警告ブザー
ロック金でブレーキペダルをロックした状態で、走行ペダルを踏み込むとブザーが鳴ります。(連続音)
警報ブザーが鳴った場合は、ブレーキペダルを強く踏み込んで、ロック金を外してください。

操作方法

機械を離れるときの注意



注意

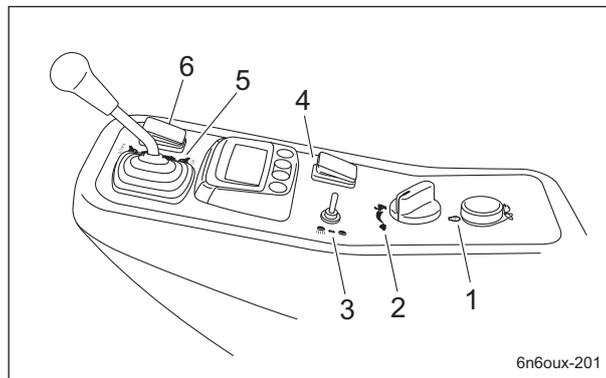
ブレーキの効きが悪いときは、輪止めを使用し、固定してください。



注意

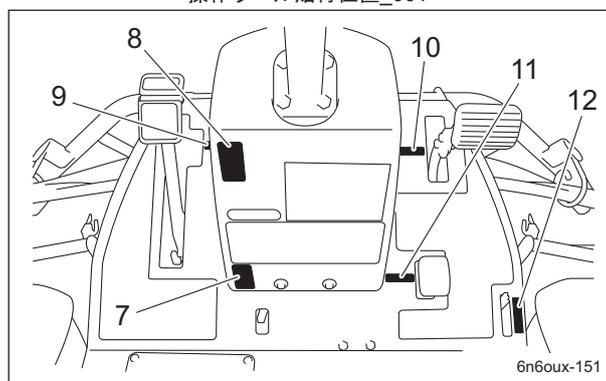
傾斜地での駐車は、絶対にしないでください。

操作ラベル貼付位置



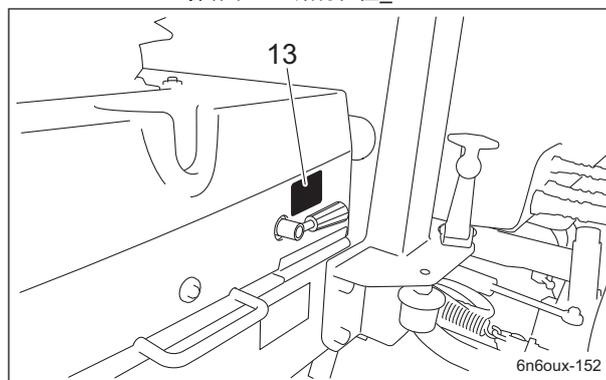
6n6oux-201

操作ラベル貼付位置_001



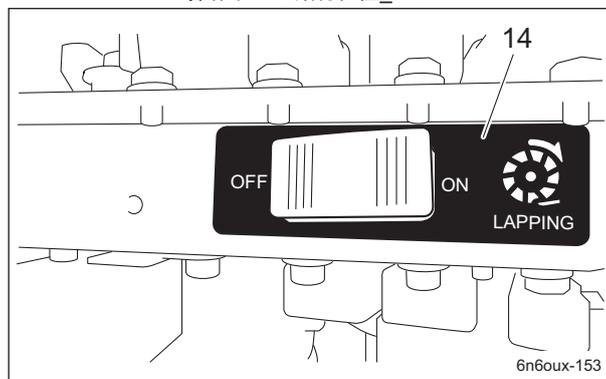
6n6oux-151

操作ラベル貼付位置_002



6n6oux-152

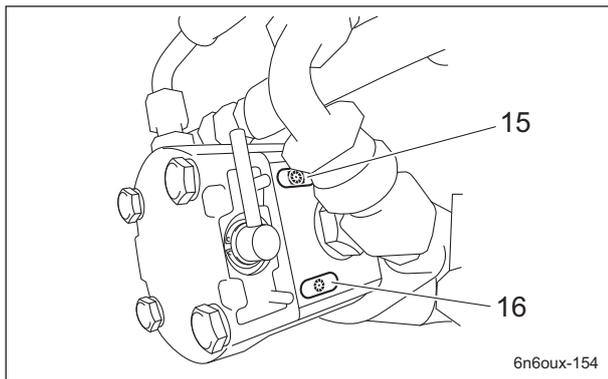
操作ラベル貼付位置_003



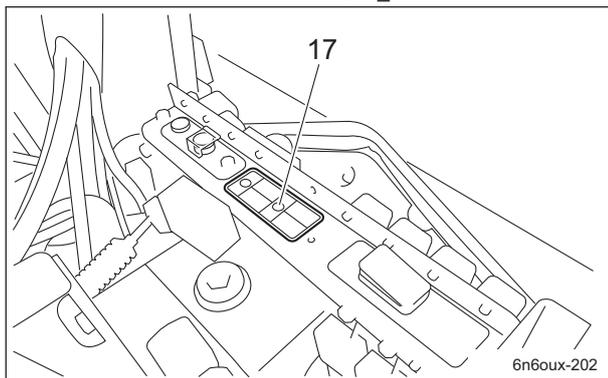
6n6oux-153

操作ラベル貼付位置_004

取り扱い説明



操作ラベル貼付位置_005



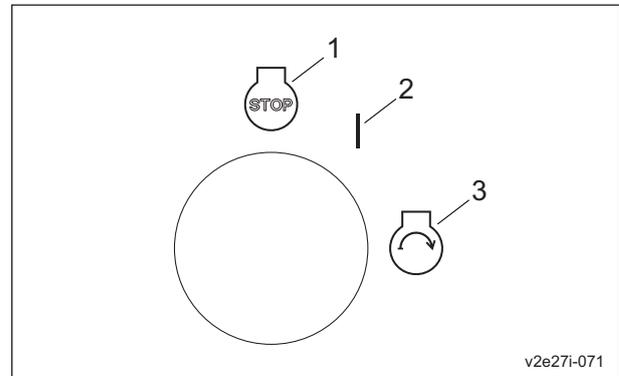
操作ラベル貼付位置_006

1	キースイッチマーク
2	エンジン回転マーク
3	ライトスイッチマーク
4	リール回転スイッチマーク
5	モアユニット昇降レバーマーク
6	移動・作業切り替えマーク
7	チルトステアリングマーク
8	駐車ブレーキマーク
9	BRAKE ラベル
10	FORWARD ラベル
11	BACKWARD ラベル
12	走行モード切替マーク
13	開閉レバーマーク
14	ラッピングラベル
15	リール回転マーク
16	リール停止マーク
17	DPF スイッチラベル

操作ラベルの説明

キースイッチマーク

キースイッチマーク
キースイッチの位置を示しています。

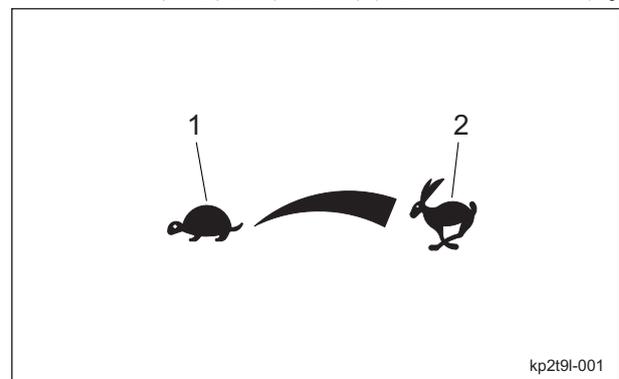


キースイッチマーク_001

1	OFF
2	ON (GLOW)
3	START

エンジン回転マーク

エンジン回転マーク
エンジン回転速度の低速・高速を示しています。

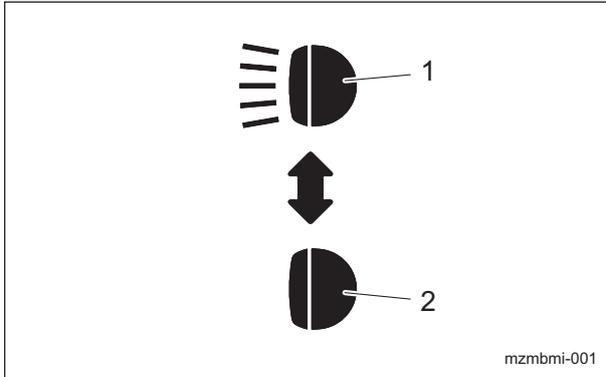


エンジン回転マーク_001

1	低速
2	高速

ライトスイッチマーク

参考：
この機能は仕様により、無い場合があります。
ライトスイッチマーク
ライトの切り替えを示しています。

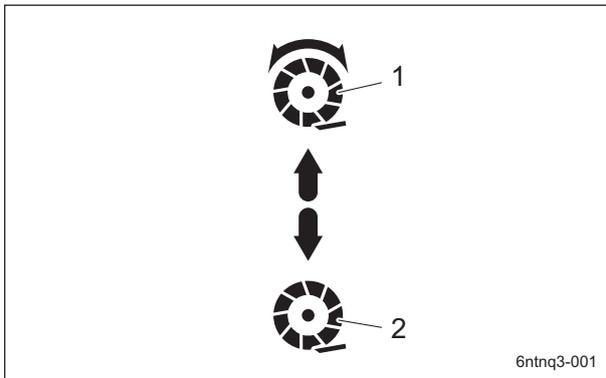


ライトスイッチマーク_001

1	点灯
2	消灯

リール回転マーク

リール回転マーク
リールカッターの回転・停止を示しています。

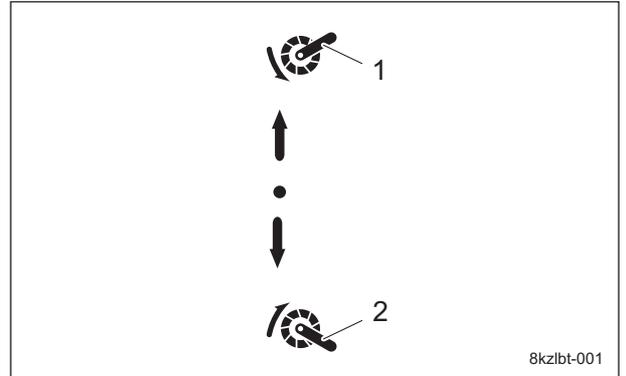


リール回転マーク_001

1	回転
2	停止

モアユニット昇降マーク

モアユニット昇降マーク
モアユニットの上昇・下降を示しています。

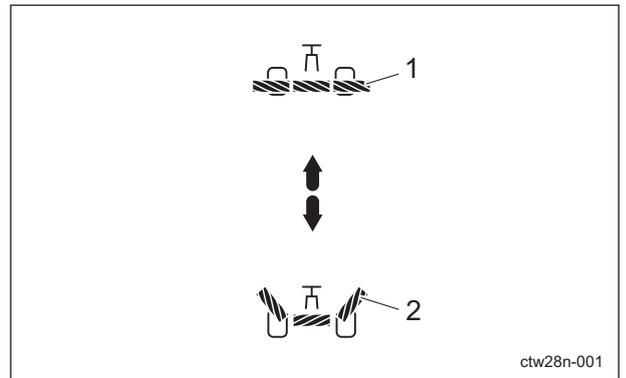


モアユニット昇降マーク_001

1	下降
2	上昇

移動・作業切り替えマーク

移動・作業切り替えマーク
モアユニットを上げたときの#4、#5 モアユニットのモアユニットが止まる位置を示しています。(スライトリフト機能の「ON/OFF」)



移動・作業切り替えマーク_001

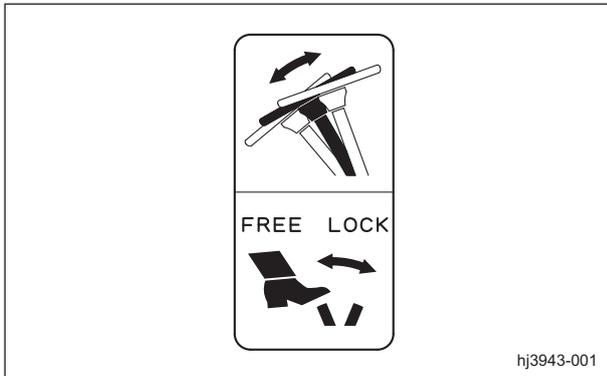
1	作業
2	移動

取り扱い説明

チルトステアリングマーク

K4203001710

チルトステアリングマーク
ステアリングのチルトの方向と、位置の固定・
解除を示しています。

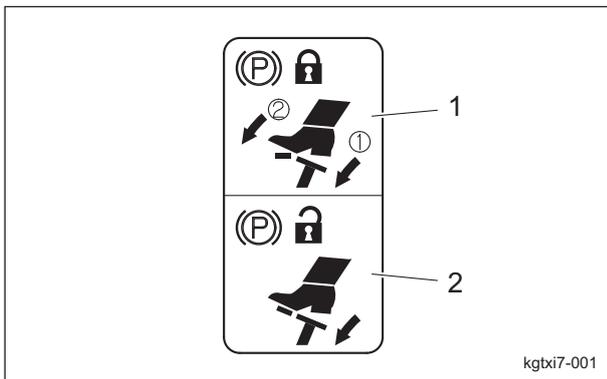


チルトステアリングマーク_001

駐車ブレーキマーク

K4203001700

駐車ブレーキマーク
駐車ブレーキのロック・解除を示しています。



駐車ブレーキマーク_001

1	ロック
2	解除

BRAKE ラベル

K4203001450

BRAKE ラベル
ブレーキを示しています。



BRAKE ラベル_001

FORWARD ラベル

K4203001430

FORWARD ラベル
前進を示しています。

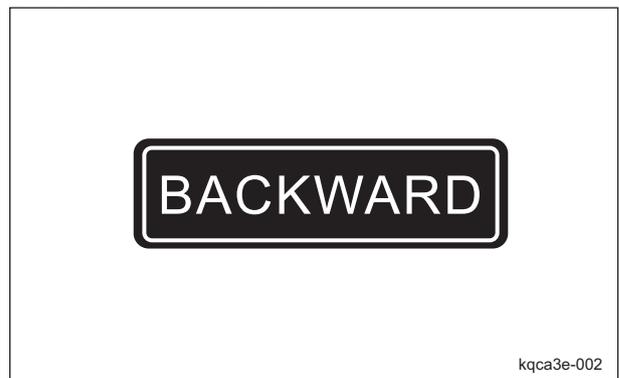


FORWARD ラベル_001

BACKWARD ラベル

K4203001440

BACKWARD ラベル
後進を示しています。



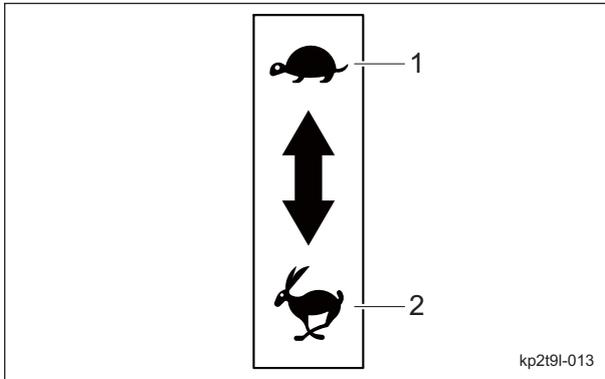
BACKWARD ラベル_001

走行モード切替マーク

K4203001740

走行モード切替マーク

走行速度の低速・高速を示しています。



走行モード切替マーク_001

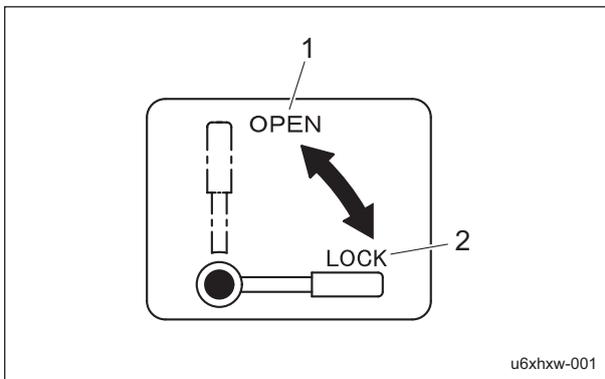
1	作業速度
2	移動速度

開閉レバーマーク

K4203001720

開閉レバーマーク

開閉レバーのロックの固定・解除を示しています。



開閉レバーマーク_001

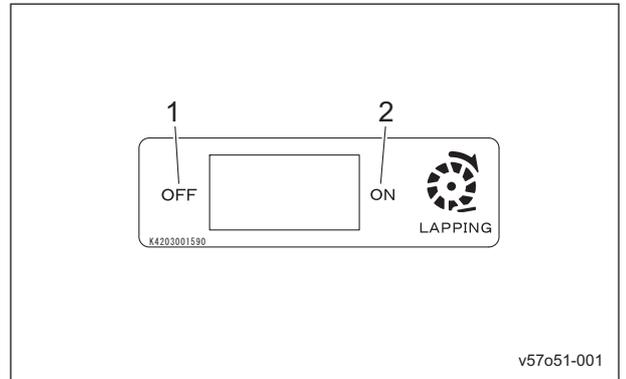
1	ロック解除
2	ロック

ラッピングラベル

K4203001590

ラッピングラベル

バックラッピング作業の ON・OFF の切り替えを示しています。



ラッピングラベル_001

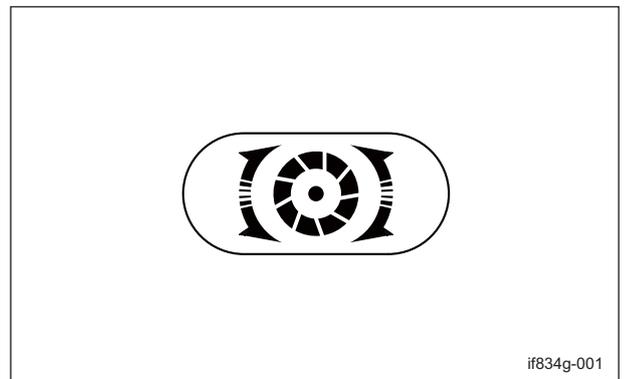
1	正転 (刈り込み回転)
2	逆転 (バックラッピング回転)

リール回転マーク

K4203001300

リール回転マーク

リールカッターの回転を示しています。



リール回転マーク_001

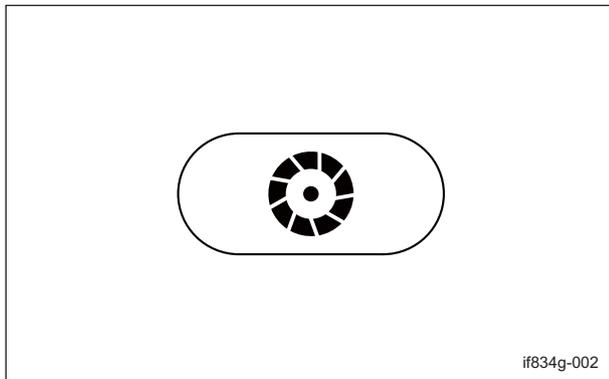
取り扱い説明

リール停止マーク

K4203001310

リール停止マーク

リールカッターの停止を示しています。



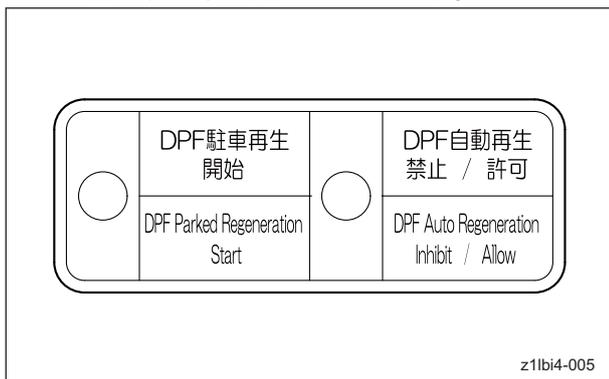
リール停止マーク_001

DPF スイッチラベル

LM551--0586Z0

DPF スイッチラベル

DPF 再生の切り替えを示しています。



DPF スイッチラベル_001

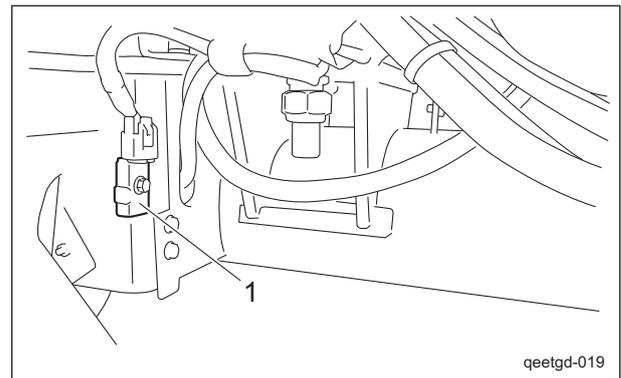
近接センサー

近接センサーは、#1、#2、#4、#5 モアアーム支点部に4つあります。

これらのセンサーは、#1、#2、#4、#5 モアユニットの上昇と下降の位置を検出します。

これらの情報は、リールカッターの回転・停止の制御に関わります。

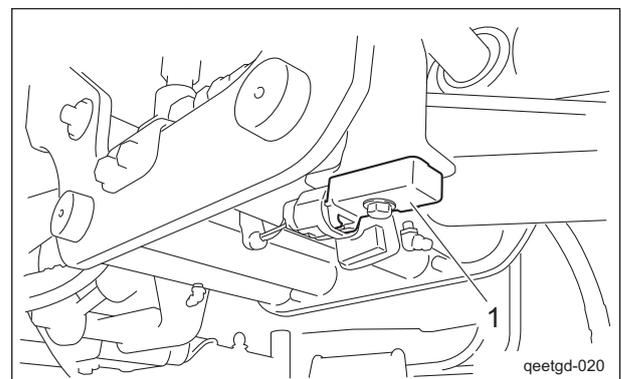
- #1 モアユニット



近接センサー_001

1 近接センサー

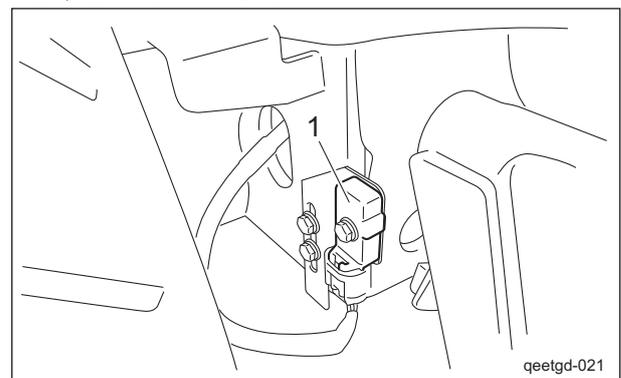
- #2 モアユニット



近接センサー_002

1 近接センサー

- #4、#5 モアユニット



近接センサー_003

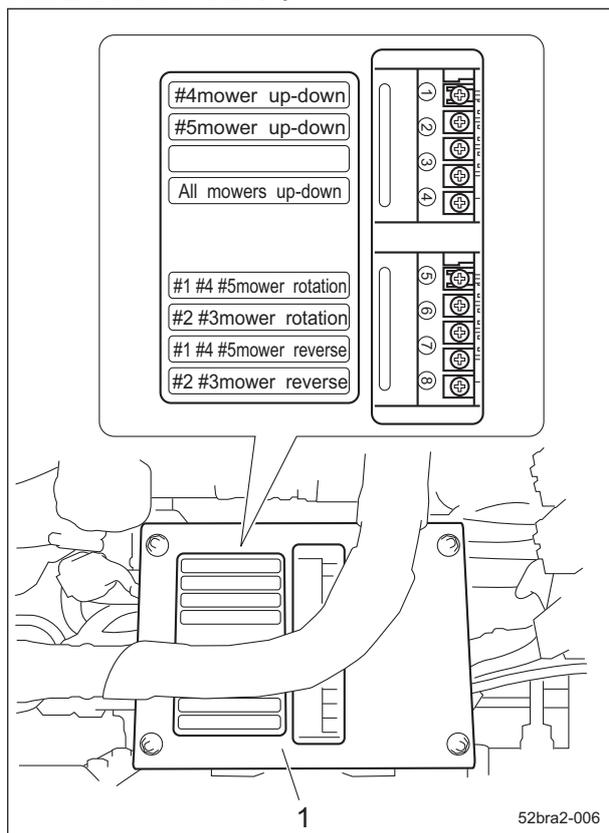
1 近接センサー

リレー

リレーボックスは、シート下カバー内にあります。移動・作業の切り替え、リールカッターの回転、モアユニットの下降の切り替えの作動を制御しています。

LEDの点灯により作動状態の確認ができます。

- LED (①②) は、移動・作業切り替えスイッチが「作業」になり、#4、#5モアユニットが上がっているときに点灯します。
- LED (③) は、使用していません。
- LED (④) は、モアユニット昇降レバーが「下降」になり、移動・作業切り替えスイッチが「作業」のときに点灯します。
- LED (⑤⑥) は、リール回転スイッチが「ON」になり、モアユニットが下がっているときに点灯します。
- LED (⑦⑧) リール逆転スイッチが「ON」にしたときに点灯します。



リレー_001

1	リレーボックス
---	---------

ライトスイッチ

参考：

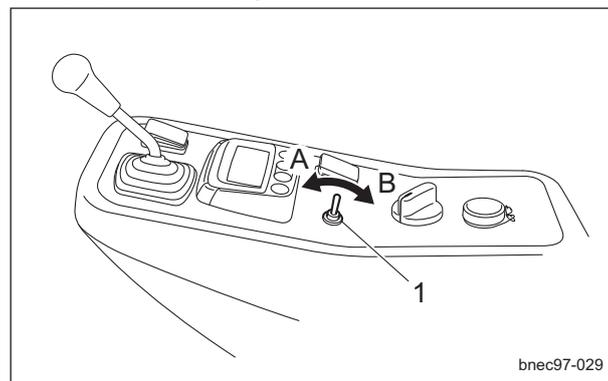
この機能は仕様により、無い場合があります。

⚠ 注意

ライトは補助灯です。

夜間や視界の悪いときは走行、作業を行わないでください。

ライトスイッチは、操作パネルにあります。スイッチを「点灯」側に押しと点灯し、「消灯」側に押しと消灯します。



ライトスイッチ_001

1	ライトスイッチ
A	点灯
B	消灯

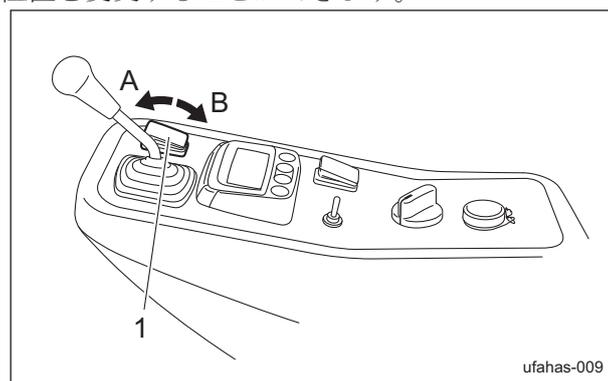
移動・作業切り替えスイッチ

重要

モアユニットを下げるときは、移動・作業切り替えスイッチを「作業」側に押ししてください。「移動」側に押されているとモアユニットは下がりません。

移動・作業切り替えスイッチは、操作パネルにあります。

上昇させたときの#4、#5モアユニットの止まる位置を変更することができます。



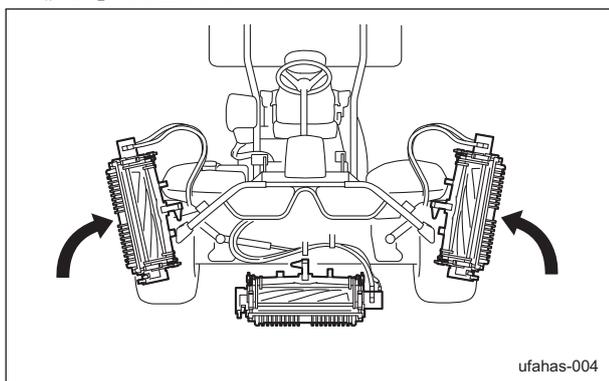
移動・作業切り替えスイッチ_001

取り扱い説明

1	移動・作業切り替えスイッチ
A	作業
B	移動

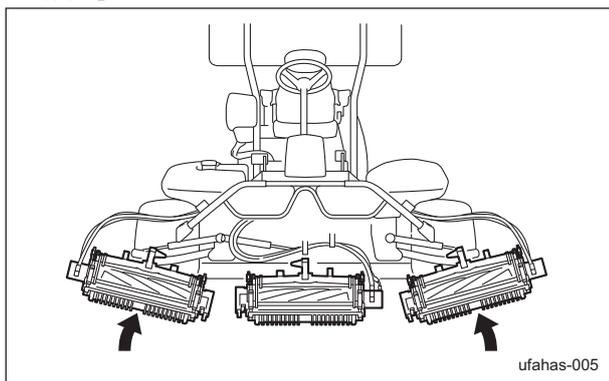
スイッチを「移動」側に押すと#4、#5 モアユニットは一番上まで上ります。
「作業」側に押すと#4、#5 モアユニットは途中までしか上らなくなります。

「移動」側選択時



移動・作業切り替えスイッチ_002

「作業」側選択時



移動・作業切り替えスイッチ_003

リール回転スイッチ

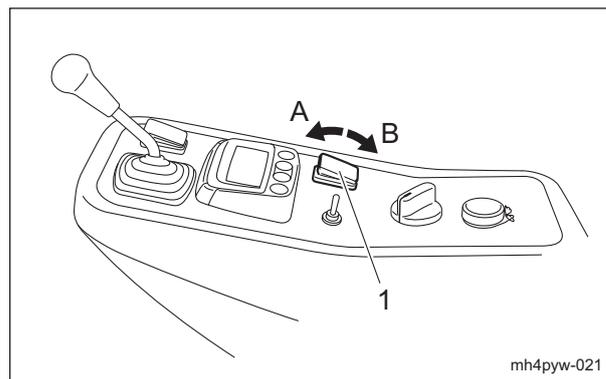
注意

リール回転スイッチは、刈り込み作業の直前に「回転」側に押し、それ以外のときは、必ず「停止」の位置にしてください。

リール回転スイッチは、操作パネルにあり、モアユニットのリールカッターを回転させます。すべてのモアユニットのリールカッターは、「回転」側に押すと刈り込み回転し、「停止」側に押すと停止します。

参考：

モアユニットが上がった状態では、スイッチを「回転」側に押ししてもリールカッターは回転しません。



リール回転スイッチ_001

1	リール回転スイッチ
A	回転
B	停止

リール正転・逆転スイッチ

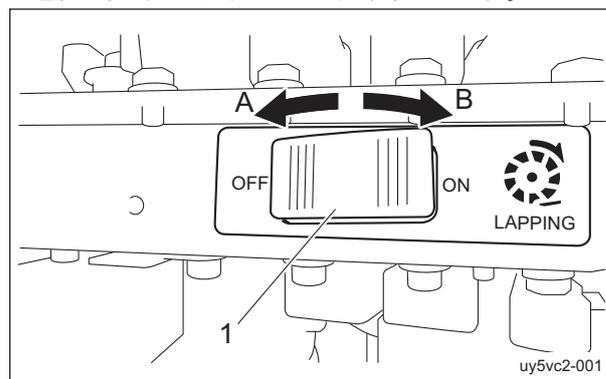
重要

リールカッターが回転した状態で、「正転」「逆転」の切り替えはしないでください。油圧機器が故障を起こします。

重要

リール回転スイッチを「回転」にしないと、リールカッターは回転しません。

リール正転・逆転スイッチは、シート下カバー内にあり、リールカッターの回転方向を選択するスイッチです。すべてのモアユニットのリールカッターは、「正転」側に押すと刈り込み回転し、「逆転」側に押すと逆転（バックラッピング回転）します。



リール正転・逆転スイッチ_001

1	リール正転・逆転スイッチ
A	正転
B	逆転

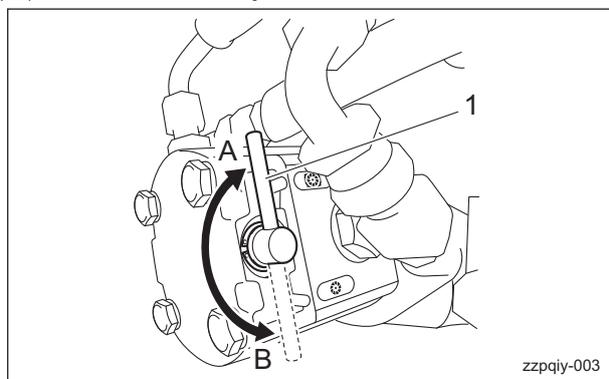
リール回転・停止切り替えレバー

⚠ 注意

リール回転・停止切り替えレバーを動かす際は、必ずリール回転スイッチを「停止」の位置にしてください。

リール回転・停止切り替えレバーは、各モアユニットに取り付けてあるリールモーターにあり、刈り込み作業とバックラッピング作業を行う際に使用します。

刈り込み作業または、バックラッピング作業を行うモアユニットのレバーのみを「回転」の位置にし、その他のモアユニットのレバーは「停止」の位置にしてください。



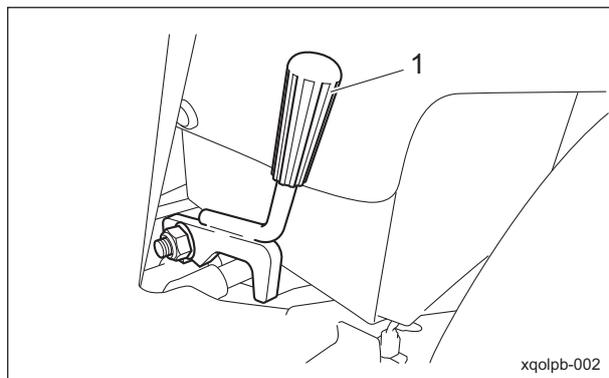
リール回転・停止切り替えレバー_001

1	リール回転・停止切り替えレバー
A	回転
B	停止

モアロックレバー（ラッチ）

モアロックレバー（ラッチ）は、足元左右にあり、移動または#4、#5モアユニットを上げた状態で保管する際に使用します。

この機械を移動または保管する際は、モアロックレバー（ラッチ）をアームに掛けてください。



モアロックレバー（ラッチ）_001

1	モアロックレバー（ラッチ）
---	---------------

モアユニット昇降レバー

⚠ 注意

モアユニットの昇降時には、周囲に人がいないことを確認してください。

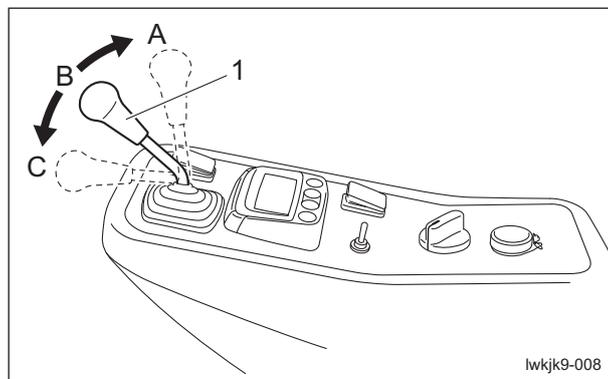
⚠ 注意

エンジン停止状態で移動・作業切り替えスイッチが「作業」側のとき、モアユニット昇降レバーを「下降」位置にし、キースwitchを「ON」にするとモアユニットが下がりますので、注意してください。

重要

モアロックレバー（ラッチ）を掛けた状態でモアユニット昇降レバーを操作しないでください。

モアユニット昇降レバーは操作パネルにあり、モアユニットをレバーで上げ下げさせます。「下降」側に倒すとモアユニットは下がり、「上昇」側に倒すとモアユニットは上がります。レバーを「上昇」側に倒したとき、レバーから手を放すとレバーは中立の位置に戻ります。



モアユニット昇降レバー_001

1	モアユニット昇降レバー
A	上昇
B	中立
C	下降

参考：

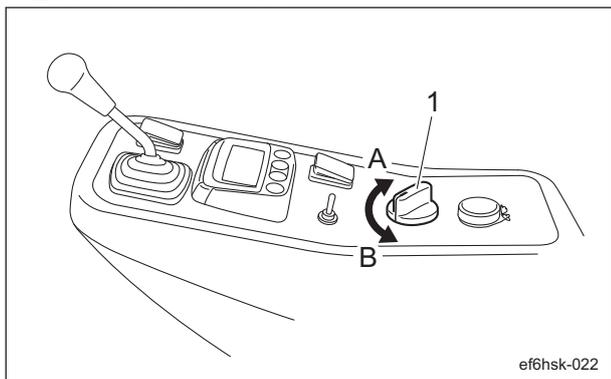
リール回転スイッチが「回転」の状態でも、モアユニットを上げるとリールの回転は停止します。

取り扱い説明

スロットルノブ

スロットルノブは、操作パネルにあり、エンジン回転速度の高低をノブで調整します。

スロットルノブは、「高速」側にするとエンジン回転速度が高くなり、「低速」側にするとエンジン回転速度が低くなります。



スロットルノブ_001

1	スロットルノブ
A	高速
B	低速

DPF 自動再生禁止スイッチ

▲ 注意

通常は DPF 自動再生禁止スイッチを「自動再生モード」にしてください。

ただし、火災の可能性のある場所での作業は、DPF 自動再生禁止スイッチを「自動再生禁止モード」にしてください。

▲ 注意

バックラッピング中は、スイッチを操作しないでください。

重要

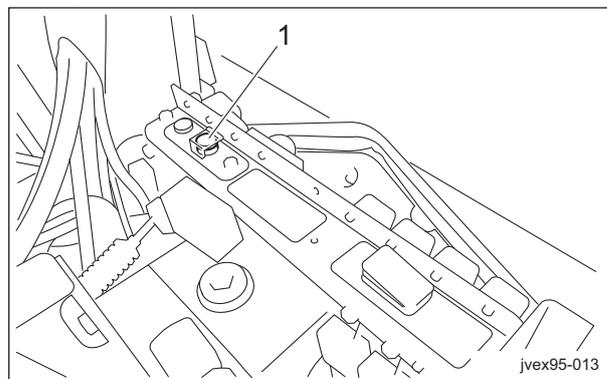
DPF 自動再生禁止スイッチを「自動再生禁止モード」に設定してエンジンを停止し、再度エンジンを始動した場合、DPF 自動再生禁止スイッチは「自動再生モード」に切り替わります。

DPF 自動再生禁止スイッチは、シート下カバー内に位置します。

DPF 自動再生禁止スイッチは「自動再生モード」と「自動再生禁止モード」を切り替えるスイッチです。

エンジン回転中に、このスイッチを押すと、「自動再生モード」と「自動再生禁止モード」が切り替わります。

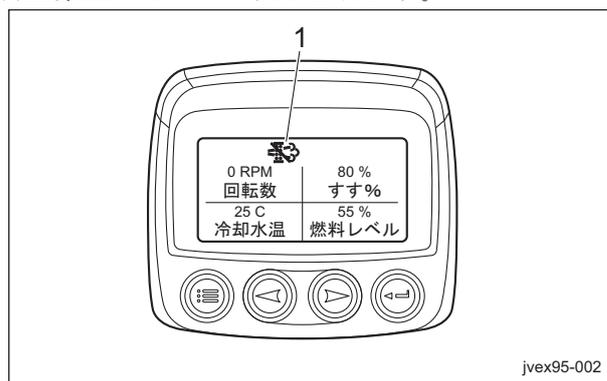
- 自動再生モード：
DPF 自動再生禁止スイッチはエンジンを始動すると「自動再生モード」に設定されます。「自動再生モード」では、PM が一定量堆積し、DPF 再生に必要な条件が整うと、車両本体の走行や停車に関係なく自動的に再生処理がされます。
- 自動再生禁止モード：
エンジン始動後に DPF 自動再生禁止スイッチを押すと「自動再生禁止モード」に設定されます。「自動再生禁止モード」に切り替えると PM は DPF 内に堆積され、PM 堆積レベルが上がります。オペレーター的意思で再生操作を行わない限り再生されません。



DPF 自動再生禁止スイッチ_001

1	DPF 自動再生禁止スイッチ
---	----------------

DPF 自動再生禁止スイッチを押して「自動再生禁止モード」に設定されると、モニター画面に自動再生禁止アイコンが表示されます。



DPF 自動再生禁止スイッチ_002

1	自動再生禁止アイコン
---	------------

DPF 駐車再生スイッチ

危険

DPF の再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性がある場所では再生を行わないでください。

注意

バックラッピング中は、スイッチを操作しないでください。

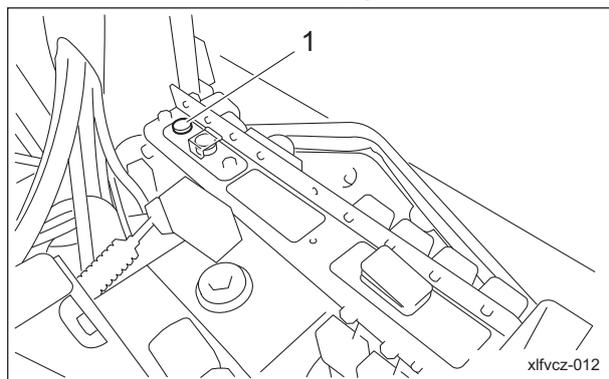
重要

駐車再生が要求されていないときにスイッチを押しても、駐車再生は開始しません。

DPF 駐車再生スイッチは、シート下カバー内に位置します。

DPF 駐車再生スイッチは、駐車再生を作動させるスイッチです。

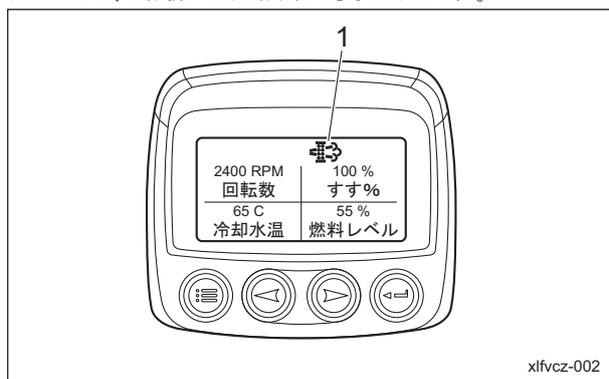
再生アイコンが点滅しているときに、スイッチを押すと駐車再生が開始します。



DPF 駐車再生スイッチ_001

1	DPF 駐車再生スイッチ
---	--------------

駐車再生が開始されると、モニター画面の再生アイコンが、点滅から点灯に変わります。

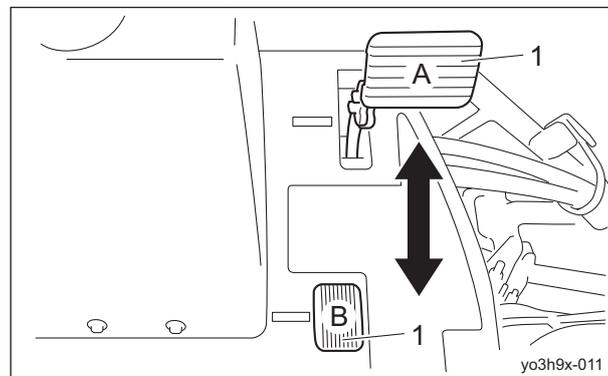


DPF 駐車再生スイッチ_002

1	再生アイコン
---	--------

走行ペダル

走行ペダルは、右足元にあります。前進側を踏み込むと前に進み、後進側を踏み込むと後ろに進みます。



走行ペダル_001

1	走行ペダル
A	前進
B	後進

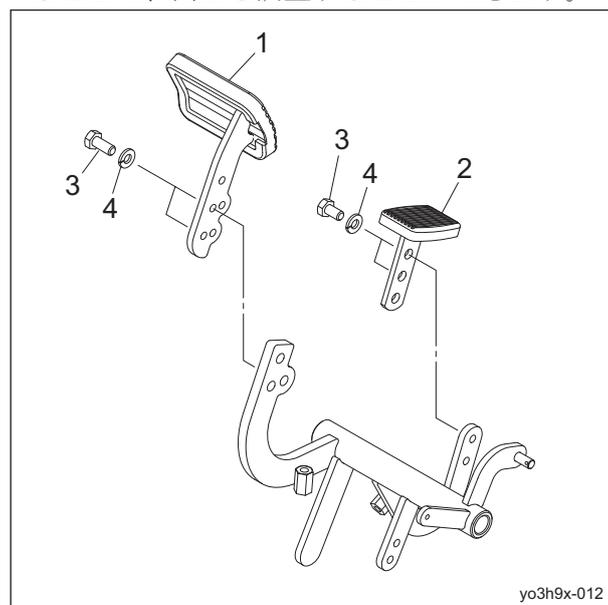
走行ペダルは、オペレーターの体や作業姿勢に合わせて、高さや角度を調整することができます。

前進側：

ボルトとSワッシャーの取り付け位置を変えることで、高さや角度を調整することができます。

後進側：

ボルトとSワッシャーの取り付け位置を変えることで、高さを調整することができます。



走行ペダル_002

取り扱い説明

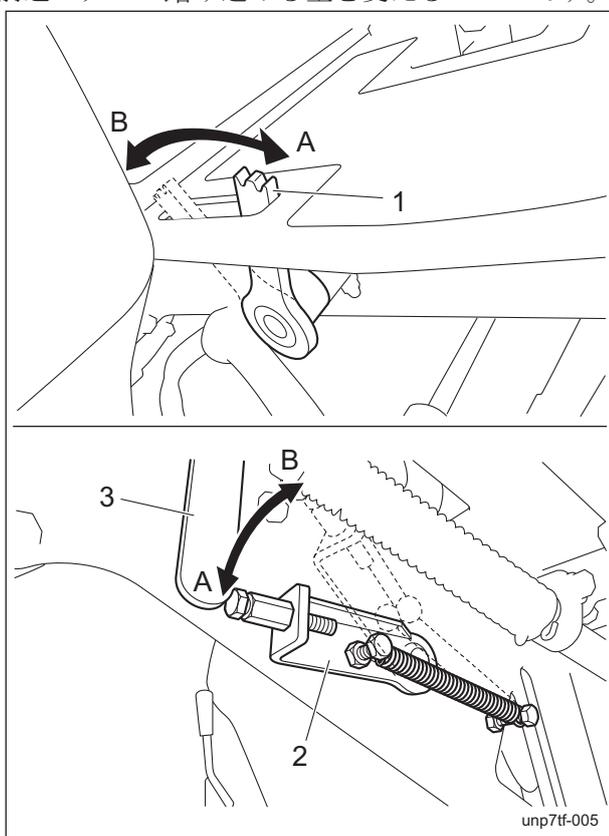
1	走行ペダル（前進側）
2	走行ペダル（後進側）
3	ボルト
4	S ワッシャー

ペダルストッパー

重要

刈り込み作業時に走行速度が 12.0 km/h を超えたとき、ブザーが鳴ります。そのまま作業を続けるとエンジンや油圧機器が損傷します。

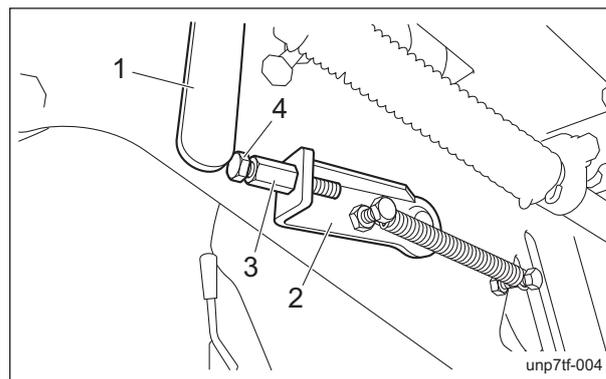
ペダルストッパーは右足元にあります。前進ペダルの踏み込める量を変えるレバーです。



ペダルストッパー_001

1	ペダルストッパー
2	作業速ロックレバー
3	走行ペダル
A	作業
B	移動

作業時はペダルストッパーを必ず「作業」側へ倒してください。
前進ペダルの踏み込める量を調整することができます。
ボルトを緩めることで、12 km/h 以下への調整が可能です。



ペダルストッパー_002

1	走行ペダル
2	作業速ロックレバー
3	ロックナット
4	ボルト

ブレーキペダル

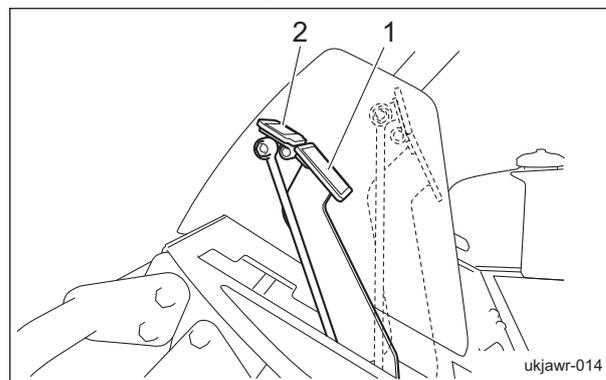
注意

運転席を離れるときは平坦で安定した場所に駐車し、必ず駐車ブレーキをかけてください。

注意

傾斜地での駐車は、絶対にしないでください。

ブレーキペダルは、左足元にあります。
停止する際は、ブレーキペダルを強く踏み込んでください。
駐車時は、ブレーキペダルを強く踏みながらロック金を踏んで、ブレーキペダルをロックしてください。
解除する際は、ブレーキペダルを強く踏み込んで、ロック金を外してください。
参考：
ブレーキペダルをロックして、駐車ブレーキとして使用することができます。

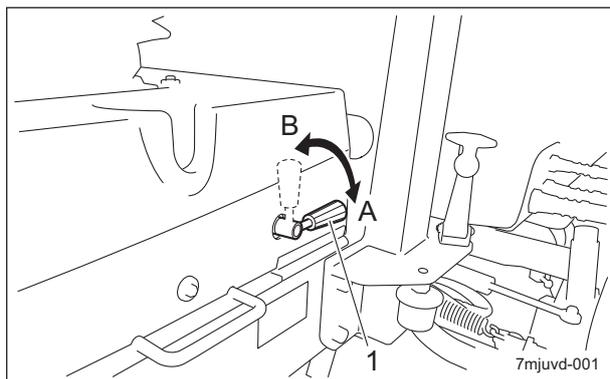


ブレーキペダル_001

1	ブレーキペダル
2	ロック金

開閉レバー

開閉レバーは、シート左下にあります。シート下カバーの開閉をする際に使用します。シート下カバーを開く際は、開閉レバーを上げて開閉のロックを解除し、閉じた際はロックしてください。



開閉レバー_001

1	開閉レバー
A	ロック
B	ロック解除

ラジエーターカバー

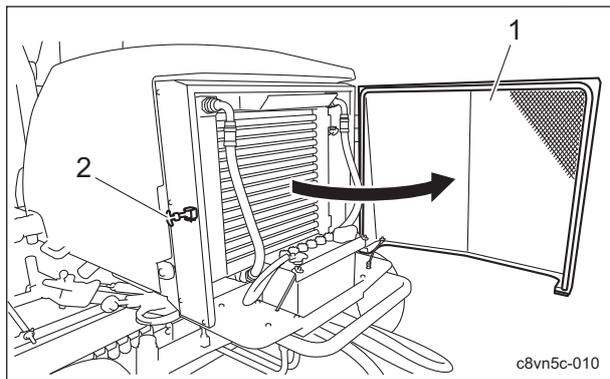


風が強い場所では、ラジエーターカバーを開けないでください。



カバーの開閉は、手を挟まないように注意してください。

1. ゴムキャッチを外してください。
2. ラジエーターカバーを右に開いてください。



ラジエーターカバー_001

1	ラジエーターカバー
2	ゴムキャッチ

3. ラジエーターカバーを閉じる際は、ゆっくりと閉じてください。
4. ゴムキャッチを確実にはめてください。

ボンネット

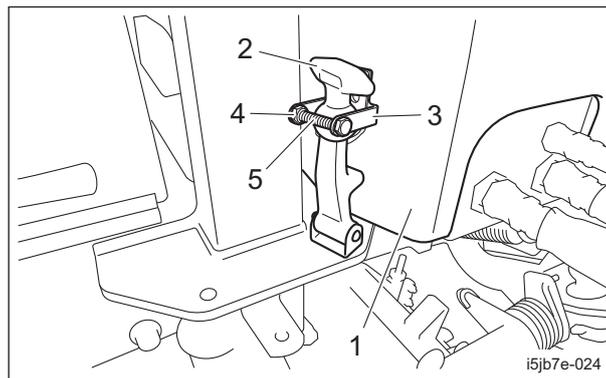


風が強い場所では、ボンネットを開けないでください。



ボンネットの開閉は、手を挟まないように注意してください。

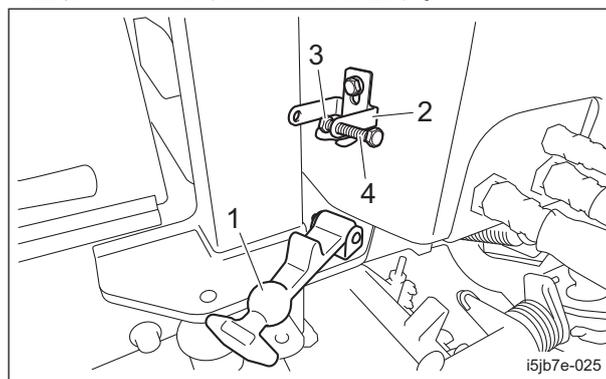
1. ボンネットの左右のキャッチクリップをロックしているナットとボルトを取り外します。



ボンネット_001

1	ボンネット
2	ゴムキャッチ
3	キャッチクリップ
4	ナット
5	ボルト

2. 左右のゴムキャッチを外します。

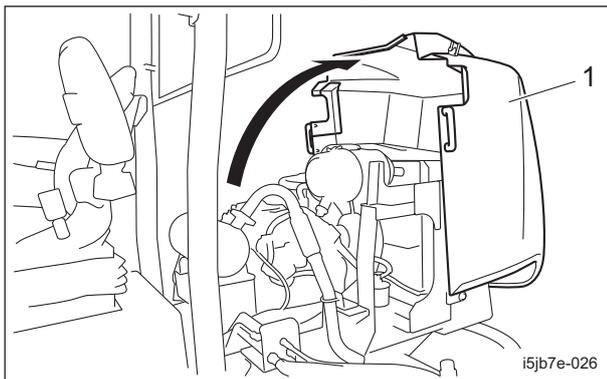


ボンネット_002

取り扱い説明

1	ゴムキャッチ
2	キャッチクリップ
3	ナット
4	ボルト

- ラジエーターカバーが閉じていることを確認してください。
- ボンネットを引き上げます。



ボンネット_003

1	ボンネット
---	-------

- ボンネットを閉じる際は、ゆっくりと閉じます。
- 左右のゴムキャッチを確実にはめます。
- 左右のキャッチクリップをロックするナットとボルトを取り付けてください。

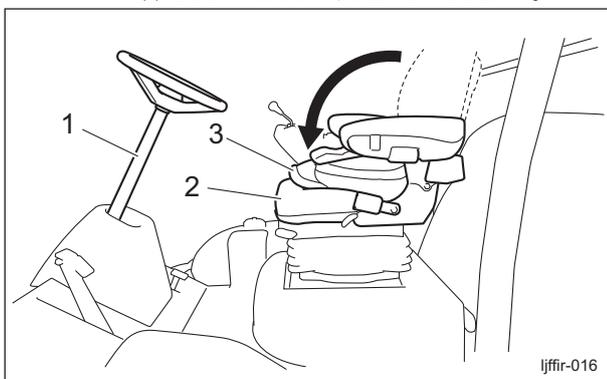
シート下カバー



注意

カバーの開閉は、手を挟まないように注意してください。

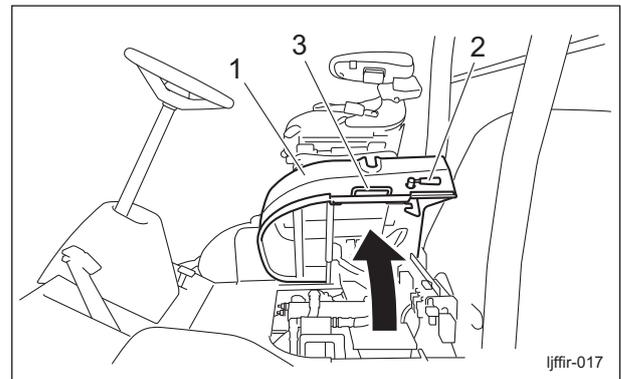
- ハンドルを一番立てた状態にしてください。
- シートの前後位置を中央にしてください。
- シートの背もたれを前に倒してください。



シート下カバー_001

1	ハンドル
2	シート
3	背もたれ

- 開閉レバーでロックを解除しながら手掛けを持って、シートを右側に倒し、シート下カバーを開いてください。

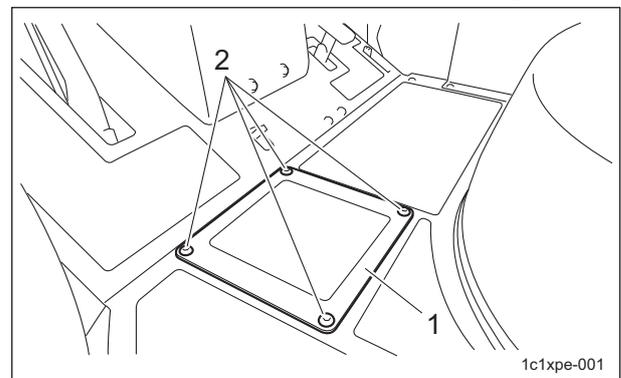


シート下カバー_002

1	シート下カバー
2	開閉レバー
3	手掛け

ステップカバー

- ボタンボルトを取り外してください。
- ステップカバーを取り外してください。



ステップカバー_001

1	ステップカバー
2	ボタンボルト

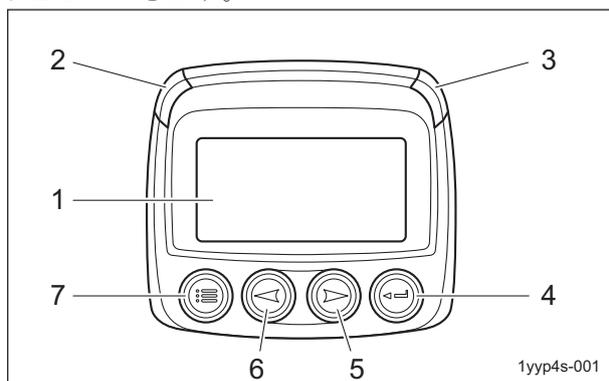
取り付けは、取り外しと逆の手順で行ってください。

計器

モニターの説明

モニターは機械の運転状態、故障状態など、機械に関わる様々な情報を表示します。

キーの操作により、希望する項目の内容を確認することができます。



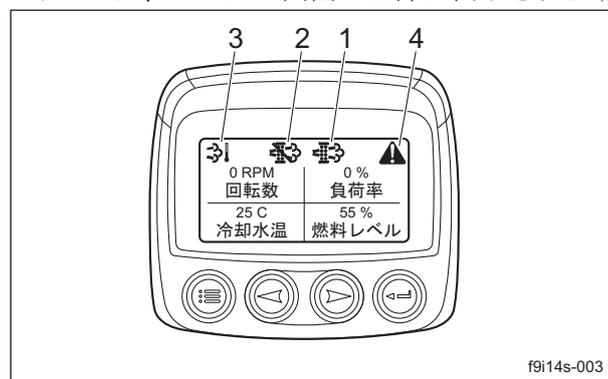
モニターの説明_001

1	モニター画面
2	LED (黄色)
3	LED (赤色)
4	Enter キー
5	右矢印キー
6	左矢印キー
7	メニューキー

1. モニター画面
機械の状態、項目を表示します。
2. LED (黄色)
エンジンにおける警告・注意を促す異常を検知した場合に点灯します。
3. LED (赤色)
エンジンにおける重大な異常を検知した場合に点灯します。
4. Enter キー
メニュー、パラメーターを選択します。
現在の故障コードを表示/非表示に切り替えます。
5. 右矢印キー
画面をスクロールします。
選択されているパラメーターを右または下に移動します。
6. 左矢印キー
画面をスクロールします。
選択されているパラメーターを左または上に移動します。
7. メニューキー
メニュー画面を起動または終了します。

表示アイコン

アイコンは、モニター画面の上部に表示されます。



表示アイコン_001

1	再生アイコン
2	自動再生禁止アイコン
3	排気高温アイコン
4	警告マーク

1. 再生アイコン
再生アイコンは、DPF 再生要求時と DPF 再生中に表示されます。
 - ・ 再生要求時：点滅
 - ・ 再生中：点灯
2. 自動再生禁止アイコン
自動再生禁止アイコンは、DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生禁止モード」側になっているときに点灯します。
3. 排気高温アイコン
排気高温アイコンは、DPF 再生中に排気温度が 450 °C まで上昇したときに点灯します。
4. 警告マーク
警告マークは、以下の警告メッセージを無視して Enter キーを押し、警告メッセージを隠すと、モニター画面の右上に表示され続けます。
 - ・ サービスリマインダ
 - ・ 燃料残量低下
 - ・ 故障コード

取り扱い説明

メインメニュー項目

各パラメーターが表示されているときに、メニューキーを押すと以下の 11 項目のメインメニューが表示されます。

- ・ 1 画面表示/4 画面表示
- ・ 言語
- ・ 故障コード履歴
- ・ エンジン構成
- ・ 1 画面表示設定
- ・ 4 画面表示設定
- ・ サービスリマインダ
- ・ 単位選択
- ・ バックライト調整
- ・ コントラスト調整
- ・ ユーティリティ



メインメニュー項目_001

1	メニューキー
---	--------

1 画面表示/4 画面表示

「1 画面表示/4 画面表示」では、パラメーターの表示を 1 画面表示と 4 画面表示に設定します。

1. 1 画面表示

モニター画面に 1 項目のパラメーターが表示されます。



1 画面表示/4 画面表示_001

2. 4 画面表示

モニター画面に 4 項目のパラメーターが表示されます。

4 画面表示では 2 ページで構成されており、合わせて 8 項目のパラメーターが表示されます。



1 画面表示/4 画面表示_002

参考：

工場出荷時の画面表示は 4 画面表示に設定されています。

メインメニューは「1 画面表示」と表示されません。

画面表示を 1 画面表示に設定したときは、メインメニューは「4 画面表示」と表示されます。

■パラメーター項目

モニター画面に表示されるパラメーターと内容は、以下の項目です。

No.	モニター表示 L	モニター表示 S	説明
1	エンジン回転数	回転数	エンジンの回転速度を表示します
2	エンジントルク	トルク	実際のトルクを表示します
3	負荷率	負荷率	エンジンにかかっている負荷率を表示します
4	アクセル開度 1	アクセル 1	アクセルセンサーの開度を表示します
5	エンジン指示速度	指示速度	ECU が要求しているエンジン回転数を表示します
6	冷却水温	冷却水温	冷却水温センサーで計測した温度を表示します
7	スロットル開度	スロットル	エンジンのスロットル開度を表示します
8	バッテリー電圧	BAT 電圧	バッテリーの電圧を表示します
9	気圧	気圧	大気圧センサーで計測した気圧を表示します
10	エンジン総運転時間	ENG 時間	ECU が ON の総時間を表示します (キースイッチを ON にしている時間)
11	エンジン油圧	ENG 油圧	オイルプレッシャースイッチで計測したエンジン油圧を表示します エンジン運転中 : 正常=200 kPa 異常=0 kPa
12	DOC 温度	DOC 温度	排気温度センサーで計測した DOC の入り口排気温度を表示します
13	排気フィルタ入口温度	入口温度	排気温度センサーで計測した DPF の入り口排気温度を表示します
14	DPF 差圧	DPF 差圧	差圧センサーで計測した DPF 前後の差圧を表示します
15	排気フィルタ出口温度	出口温度	排気温度センサーで計測した DPF の出口排気温度を表示します
16	PT ランプ	PT ランプ	再生アイコンの状態を示します アイコン消灯=「OFF」、アイコン点滅=「点滅」、アイコン点灯=「点灯」
17	DPF ステータス	DPF 状態	DPF の状態を表示します DPF の再生が不必要=「再生不必要」 DPF の再生が必要=(レベル 1=「再生必要 低」、レベル 2-3=「再生必要 中」、レベル 4=「再生必要 高」)
18	DPF 活性的再生状況	DPF 活性	DPF の再生状態を表示します 再生不要=「非活性」、再生要求=「必要」、再生中=「活性」
19	DPF 再生禁止ステ	禁止ステ	ECU の自動再生禁止状態を表示します 自動再生禁止スイッチ OFF=「OFF」自動再生禁止スイッチ ON=「ON」
20	DPF 再生禁止 SW	禁止 SW	自動再生禁止スイッチの状態を表示します 自動再生禁止スイッチ OFF=「OFF」自動再生禁止スイッチ ON=「ON」
21	排気温度ランプ	排気温灯	排気温度の状態を表示します 450°C 以上=「ON」、450°C 以下=「OFF」
22	機械時間	機械時間	機械の総運転時間を表示します (エンジンが実際に回転している時間)
23	燃料レベル	燃料レベル	燃料タンク内の燃料の残量を表示します
24	最大電源電圧	電源電圧	電源電圧の電圧を表示します

取り扱い説明

参考：

パラメーターは画面表示設定時に「モニター表示 L」で表示されます。

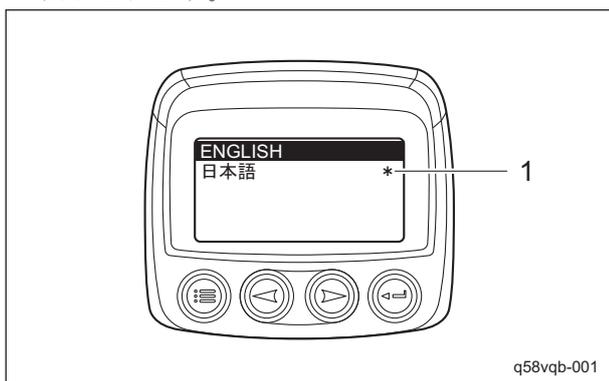
それ以外は、「モニター表示 S」で表示されます。

言語

「言語」では、モニターに表示する言語を以下の 2 項目から選択できます。

- ・ ENGLISH
- ・ 日本語

現在選択されている言語の右側にアスタリスクが表示されます。



言語_001

1	アスタリスク
---	--------

参考：

工場出荷時の言語は「日本語」に設定されています。

故障コード履歴

この機能はサポートされていません。

エンジン構成

この機能はサポートされていません。

1 画面表示設定

「1 画面表示設定」では、パラメーターを工場出荷時の設定に戻したり、必要なパラメーターを選択して画面表示を設定したりできます。

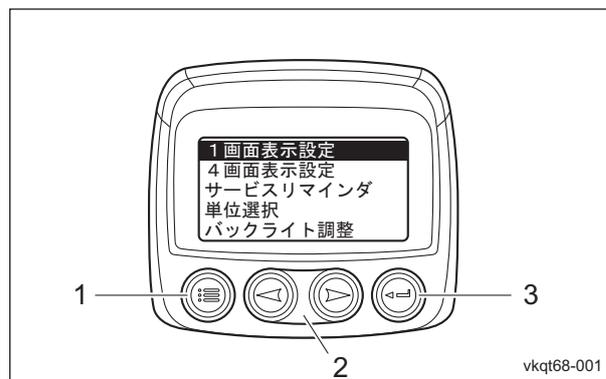
1 画面表示の設定には以下の 3 項目があります。

- ・ 初期設定にする
- ・ カスタム設定
- ・ 自動スキャン

■初期設定にする

「初期設定にする」では、1 画面表示のパラメーターを工場出荷時の設定に戻します。

1. メニューキーを押します。メインメニューが表示されたら、矢印キーで「1 画面表示設定」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



初期設定にする_001

1	メニューキー
2	矢印キー
3	Enter キー

2. 「初期設定にする」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



初期設定にする_002

3. モニター画面に「初期設定に戻す」と表示され、パラメーターを工場出荷時の10項目に戻します。

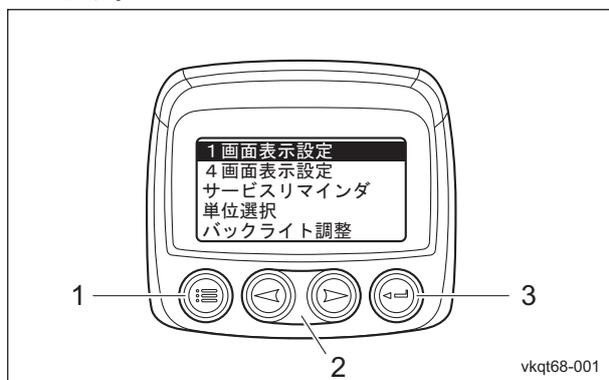
- [1] エンジン回転数
- [2] 冷却水温
- [3] 燃料レベル
- [4] エンジン油圧
- [5] 機械時間
- [6] バッテリー電圧
- [7] DPF 活性的再生状況
- [8] DOC 温度
- [9] 排気フィルタ入口温度
- [10] 排気フィルタ出口温度

4. 設定した後、メニューキーを1回押すとメインメニューに戻り、さらに1回押すと1画面表示/4画面表示の画面が表示されます。

■カスタム設定方法

「カスタム設定」では、パラメーターの種類と数、およびパラメーターの表示順序を設定できます。

1. メニューキーを押します。メインメニューが表示されたら、矢印キーで「1画面表示設定」をハイライト表示し、Enterキーを押します。



カスタム設定方法_001

1	メニューキー
2	矢印キー
3	Enter キー

2. 「カスタム設定」をハイライト表示し、Enterキーを押します。
パラメーターのリストが表示されます。



カスタム設定方法_002

3. パラメーターを変更します。

- [1] パラメーターを追加する場合

- a. 矢印キーで追加するパラメーターをハイライト表示にし、Enterキーを押します。



カスタム設定方法_003

- b. 選択したパラメーターの右側に数字が表示されます。この数字は、パラメーターが表示される順序を表します。



カスタム設定方法_004

取り扱い説明

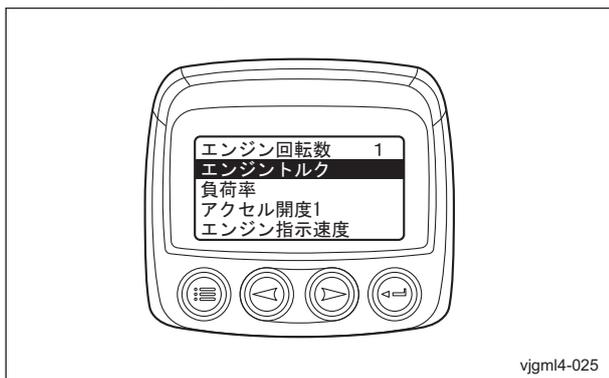
[2] 選択したパラメーターを選択解除して、表示されているパラメーターリストから削除する場合

- a. パラメーターをハイライト表示し、Enter キーを押します。



カスタム設定方法_005

- b. パラメーターの右側の数字が消えたことを確認します。



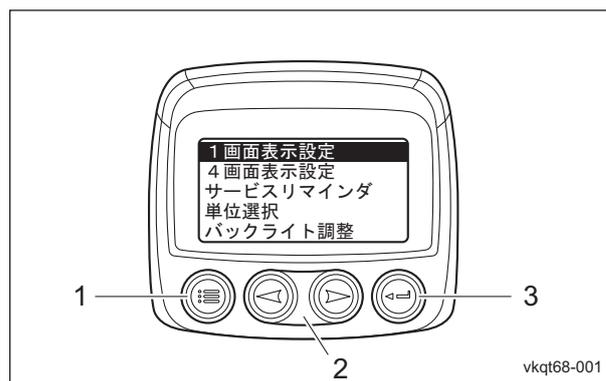
カスタム設定方法_006

4. 設定した後、メニューキーを1回押すとメインメニューに戻り、さらに1回押すと1画面表示/4画面表示の画面が表示されます。

■自動スキャン

「自動スキャン」では、1画面表示のパラメーターが表示されているときに、設定したパラメーターを1つずつ自動でスクロールする設定ができます。

1. メニューキーを押します。
メインメニューが表示されたら、矢印キーで「1画面表示設定」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



自動スキャン_001

1	メニューキー
2	矢印キー
3	Enter キー

2. 「自動スキャン ON」と表示されているときは、自動でスクロールします。手動でのスクロールをするときは、「自動スキャン ON」をハイライト表示し、Enter キーを押します。表示が「自動スキャン OFF」となり、手動でのスクロールとなります。



自動スキャン_002

3. 設定した後、メニューキーを1回押すとメインメニューに戻り、さらに1回押すと1画面表示/4画面表示の画面が表示されます。

参考：

自動でスクロールしているときに、スクロールを一時停止するには、Enter キーを1回押します。

一時停止中に、Enter キーを1回押すと、スクロールが再開します。

4 画面表示設定

「4 画面表示設定」では、パラメーターを工場出荷時の設定に戻したり、必要なパラメーターを選択して画面表示を設定したりできます。

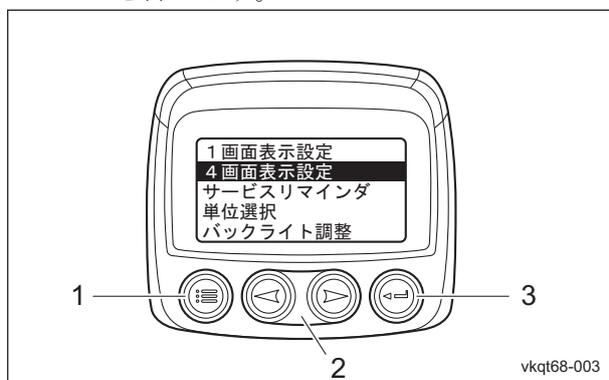
4 画面表示の設定には以下の 2 項目があります。

- ・ 初期設定にする
- ・ カスタム設定

■初期設定にする

「初期設定にする」では、4 画面表示のパラメーターを工場出荷時の設定に戻します。

1. メニューキーを押します。
メインメニューが表示されたら、矢印キーで「4 画面表示設定」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



初期設定にする_001

1	メニューキー
2	矢印キー
3	Enter キー

2. 「初期設定にする」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



初期設定にする_002

3. モニター画面に「初期設定に戻す」と表示され、パラメーターを出荷時の 8 項目に戻します。

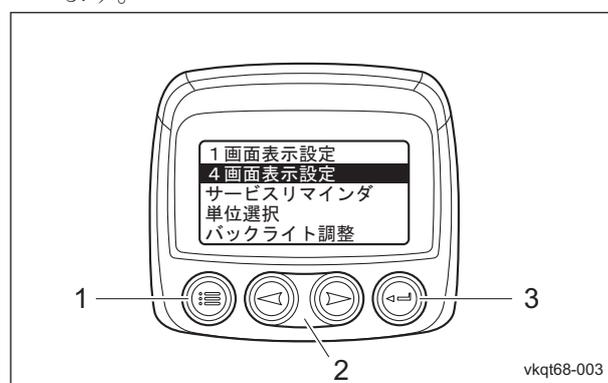
- ・ 1 ページ目
 - [1] エンジン回転数
 - [2] 冷却水温
 - [3] 負荷率
 - [4] 燃料レベル
- ・ 2 ページ目
 - [1] エンジン油圧
 - [2] 機械時間
 - [3] バッテリー電圧
 - [4] DPF ステータス

4. 設定した後、メニューキーを 1 回押すとメインメニューに戻り、さらに 1 回押すと 1 画面表示/4 画面表示の画面が表示されます。

■カスタム設定方法

「カスタム設定」では、パラメーターの種類と数、およびパラメーターの表示順序を設定できます。

1. メニューキーを押します。メインメニューが表示されたら、矢印キーで「4 画面表示設定」をハイライト表示し、Enter キーを押します。

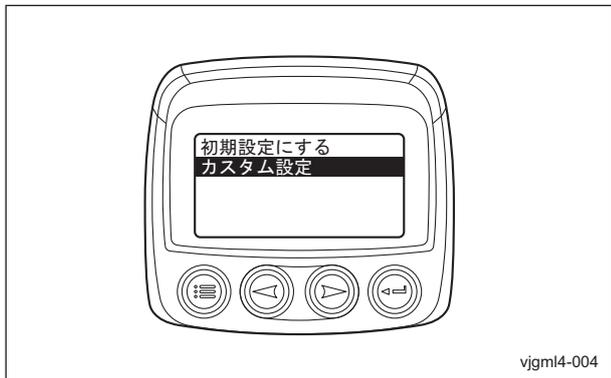


カスタム設定方法_001

1	メニューキー
2	矢印キー
3	Enter キー

取り扱い説明

2. 「カスタム設定」をハイライト表示し、Enter キーを押します。

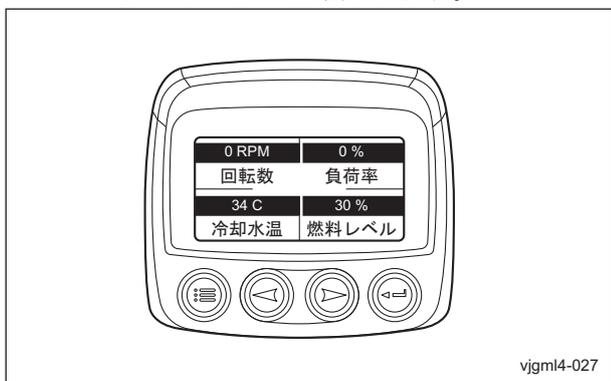


vjgml4-004

カスタム設定方法_002

3. ページを選択します。

- [1] 4項目のパラメーター数値がハイライト表示されているのを確認します。



vjgml4-027

カスタム設定方法_003

- [2] 矢印キーで変更するページを表示し、Enter キーを押します。

4. パラメーターを変更します。

- [1] 1項目のパラメーター数値がハイライト表示されているのを確認します。



vjgml4-028

カスタム設定方法_004

- [2] 矢印キーで変更するパラメーター数値をハイライト表示にし、Enter キーを押します。

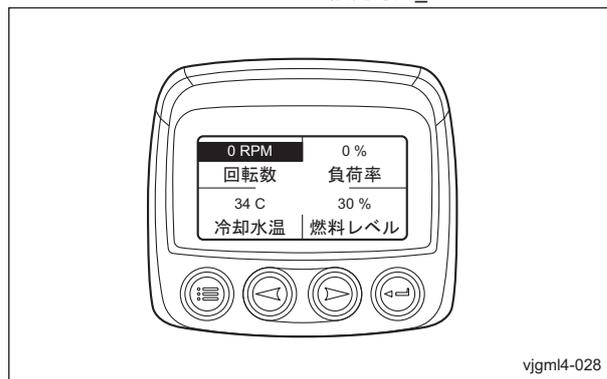
- [3] パラメーターが表示されます。パラメーターの右側の数字は、4画面表示で表示される場所を示します。

- 1=左上
2=左下
3=右上
4=右下



vjgml4-029

カスタム設定方法_005



vjgml4-028

カスタム設定方法_006

- [4] 別のパラメーターに変更する場合

- a. 矢印キーで変更したいパラメーター項目をハイライト表示にし、Enter キーを押します。



vjgml4-030

カスタム設定方法_007

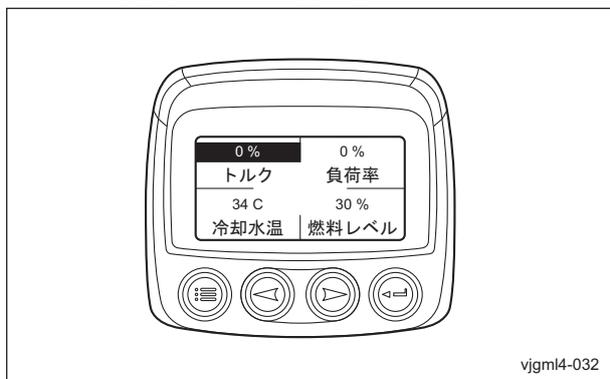
- b. 選択したパラメーター項目の右側に数字が表示されたことを確認します。



vjgm4-031

カスタム設定方法_008

- c. メニューキーを押して、パラメーターが変更したことを確認します。



vjgm4-032

カスタム設定方法_009

- [5] 選択したパラメーターを選択解除して、表示されているパラメーターリストから削除する場合

- a. 削除したいパラメーターをハイライト表示し、Enter キーを押します。



vjgm4-029

カスタム設定方法_010

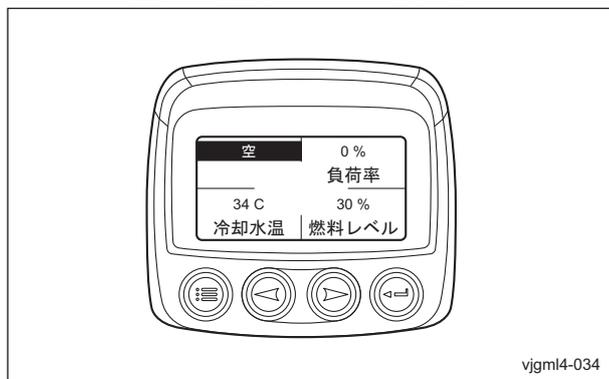
- b. パラメーターの右側の数字が消えたことを確認します。



vjgm4-033

カスタム設定方法_011

- c. メニューキーを押して、パラメーターが「空」に変更したことを確認します。



vjgm4-034

カスタム設定方法_012

5. メニューキーを1回押すとページの選択画面に戻ります。
6. 別のパラメーターを変更するときは、手順3 - 5の作業を繰り返してください。

取り扱い説明

サービスリマインダ

「サービスリマインダ」では、以下5項目の消耗部品交換時期の案内を設定できます。

- ・ エンジンオイル
- ・ エンジンオイルフィルター
- ・ 油圧オイル
- ・ 油圧オイルフィルター
- ・ エアクリーナー

サービスリマインダの設定は以下の2項目があります。

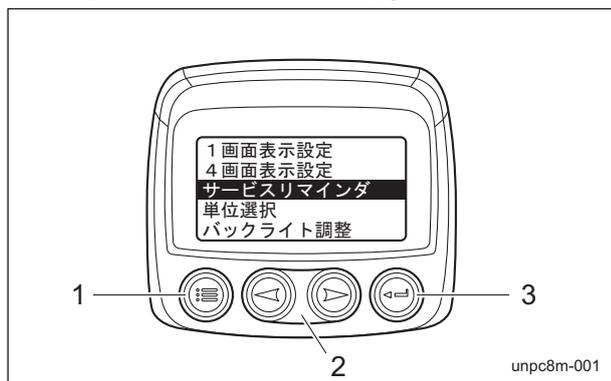
- ・ リマインダリセット
- ・ リマインダ設定変更

■リマインダリセット

「リマインダリセット」では、表示されている残り時間を、リマインダ設定変更で設定した時間に戻します。

1. メニューキーを押します。

メインメニューが表示されたら、矢印キーで「サービスリマインダ」をハイライト表示にし、Enter キーを押します。



リマインダリセット_001

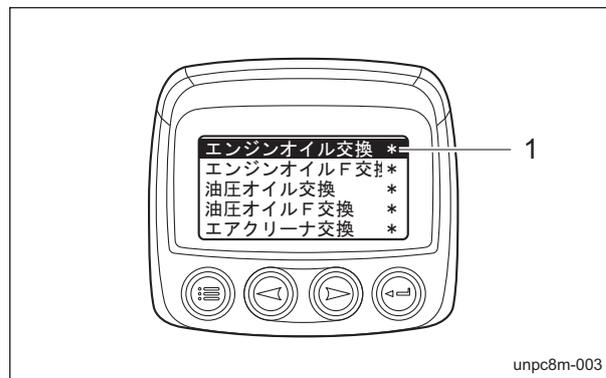
1	メニューキー
2	矢印キー
3	Enter キー

2. 「リマインダリセット」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



リマインダリセット_002

3. 矢印キーで変更する項目をハイライト表示にし、Enter キーを押します。
現在設定されている項目の右側にアスタリスクが表示されます。



リマインダリセット_003

1	アスタリスク
---	--------

4. 選択した項目の残り時間が表示されます。



リマインダリセット_004

[1] 残り時間を設定した時間に戻すときは、Enter キーを押します。

[2] 「リマインダをリセットしますか?」と表示されます。
リセットするときは、Enter キーを押します。
リセットしないときは、メニューキーを押します。



リマインダリセット_005

5. 項目の選択画面が表示されます。

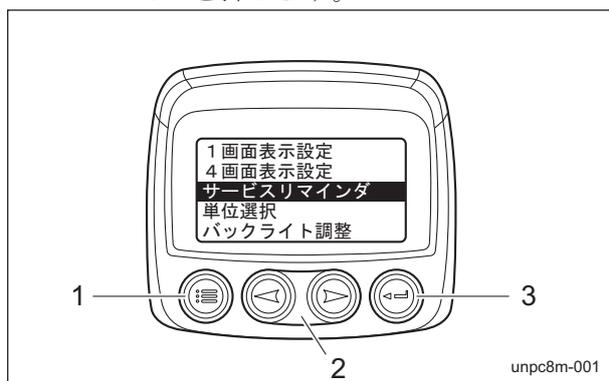
■リマインダ設定変更

「リマインダ設定変更」では、消耗部品の交換時期を設定できます。

工場出荷時、交換時期の設定はされていません。

必要に応じて、設定を変更してください。
交換時期はメンテナンススケジュールに従ってください。

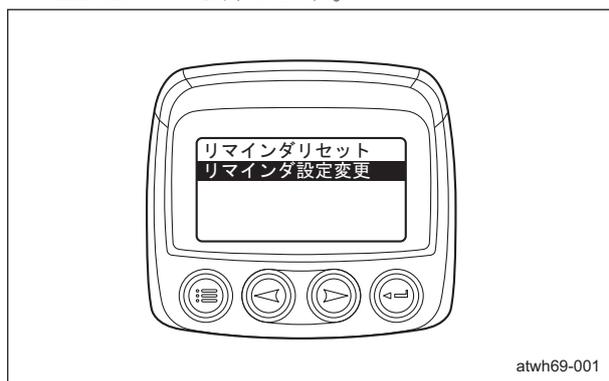
1. メニューキーを押します。
メインメニューが表示されたら、矢印キーで「サービスリマインダ」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



リマインダ設定変更_001

1	メニューキー
2	矢印キー
3	Enter キー

2. 「リマインダ設定変更」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



リマインダ設定変更_002

3. 矢印キーで変更する項目をハイライト表示にし、Enter キーを押します。



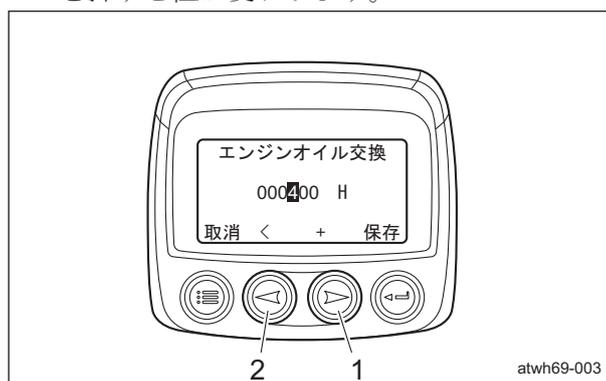
リマインダ設定変更_003

4. 選択した項目の交換時期が表示されます。



リマインダ設定変更_004

5. 変更する位をハイライト表示にします。
右矢印キーを押すと数字が増え、左矢印キーを押すと位が変わります。



リマインダ設定変更_005

1	右矢印キー
2	左矢印キー

6. 設定した時期を保存するときは、Enter キーを押します。

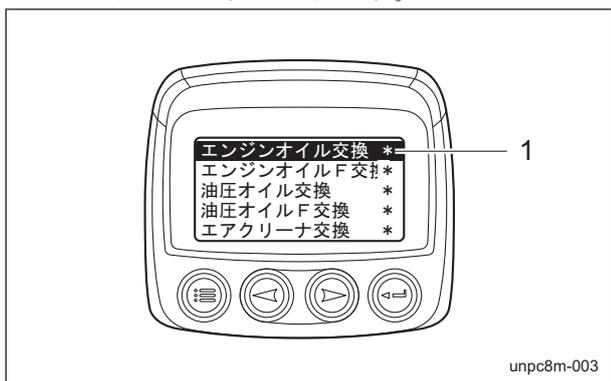
取り扱い説明

7. 「リマインダ設定を変更しますか?」と表示されます。
 変更を保存するときは、Enter キーを押してください。
 変更を保存しないときは、メニューキーを押します。



リマインダ設定変更_006

8. 項目の選択画面が表示されます。
 交換時期が設定されている項目の右側にアスタリスクが表示されます。



リマインダ設定変更_007

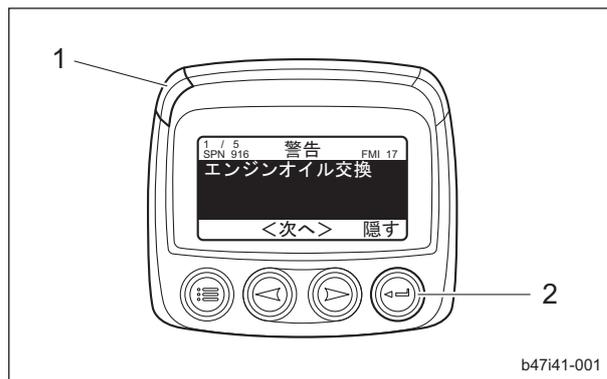
1	アスタリスク
---	--------

■リマインダの案内表示

重要

警告メッセージが表示された場合は、作業を中止し、交換作業を行ってください。

1. 設定した消耗部品の交換時期を過ぎると、モニター画面に警告メッセージが表示され、LED（黄色）が点灯します。



リマインダの案内表示_001

1	LED（黄色）
2	Enter キー

2. Enter キーを押すと、警告メッセージからパラメーターの画面表示に変わります。
 3. モニター画面の右上に警告マークが表示されます。



リマインダの案内表示_002

1	警告マーク
---	-------

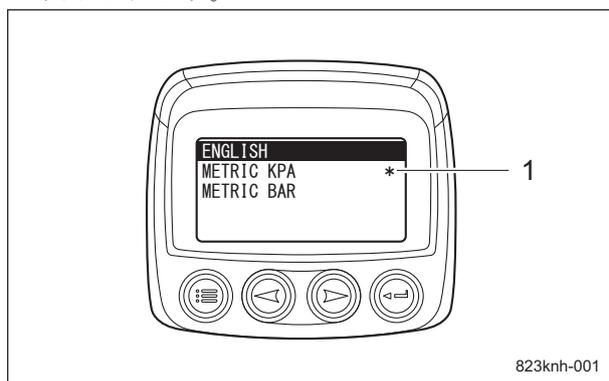
4. リマインダリセットまたはリマインダ設定変更で、消耗部品の交換時期を変更してください。
 交換時期を変更すると、警告メッセージと警告マークが消えます。

単位選択

「単位選択」では、パラメーター値の表示単位を以下の3項目から選択できます。

- ENGLISH
- METRIC KPA
- METRIC BAR

現在選択されている単位の右側にアスタリスクが表示されます。



単位選択_001

1	アスタリスク
---	--------

No.	モニター表示 S	単位		
		ENGLISH H	METRIC KPA	METRIC BAR
1	回転数	RPM	RPM	RPM
2	トルク	%	%	%
3	負荷率	%	%	%
4	アクセル 1	%	%	%
5	指示速度	RPM	RPM	RPM
6	冷却水温	F	C	C
7	スロットル	G/HR	L/HR	L/HR
8	BAT 電圧	VDC	VDC	VDC
9	気圧	PSI	kPa	BAR
10	ENG 時間	H	H	H
11	ENG 油圧	PSI	kPa	BAR
12	DOC 温度	F	C	C
13	入口温度	F	C	C
14	DPF 差圧	PSI	kPa	BAR
15	出口温度	F	C	C
16	PT ランプ	-	-	-
17	DPF 状態	-	-	-
18	DPF 活性	-	-	-
19	禁止ステ	-	-	-
20	禁止 SW	-	-	-
21	排気温灯	-	-	-
22	機械時間	H	H	H

No.	モニター表示 S	単位		
		ENGLISH H	METRIC KPA	METRIC BAR
23	燃料レベル	%	%	%
24	電源電圧	VDC	VDC	VDC

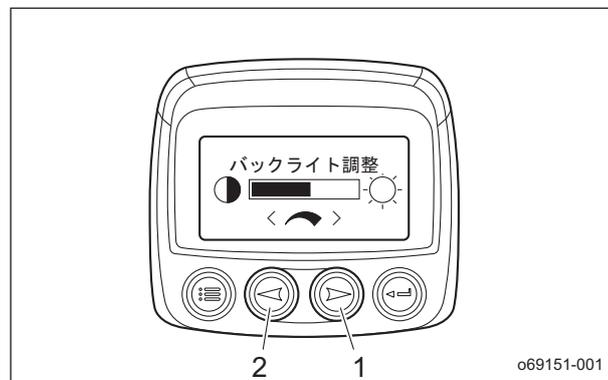
参考：

工場出荷時の表示単位は METRIC KPA に設定されています。

バックライト調整

「バックライト調整」では、モニター画面の明るさを調整します。

右矢印キーを押すと明るくなり、左矢印キーを押すと暗くなります。



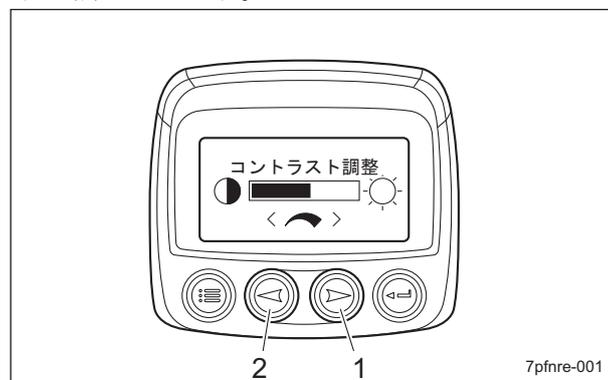
バックライト調整_001

1	右矢印キー
2	左矢印キー

コントラスト調整

「コントラスト調整」では、モニター画面の鮮やかさを調整します。

右矢印キーを押すと薄くなり、左矢印キーを押すと濃くなります。



コントラスト調整_001

1	右矢印キー
2	左矢印キー

取り扱い説明

ユーティリティ

「ユーティリティ」では、燃料残量を設定したり、モニターの構成情報を表示したりできます。ユーティリティの設定では以下の6項目があります。

- ・ ゲージデータ
- ・ ゲージをすべて削除する
- ・ ソフトウェア Ver.
- ・ 故障変換
- ・ アナログ入力
- ・ OEM

参考：

この機械では「ゲージデータ」と「ゲージをすべて削除する」の機能は使用しません。

■ソフトウェア Ver.

「ソフトウェア Ver.」では、モニターのソフトウェアのバージョンを表示します。

■故障変換

「故障変換」では、J1939 故障コード変換方法を設定できます。

モニターは常に J1939 バージョン 4 を検出しようとしています。

この機械のエンジン ECU は J1939 バージョン 4 を使用しているため、調整の必要はありません。

■アナログ入力

「アナログ入力」では、燃料残量情報を設定できます。

アナログ入力の設定は以下の2項目があります。

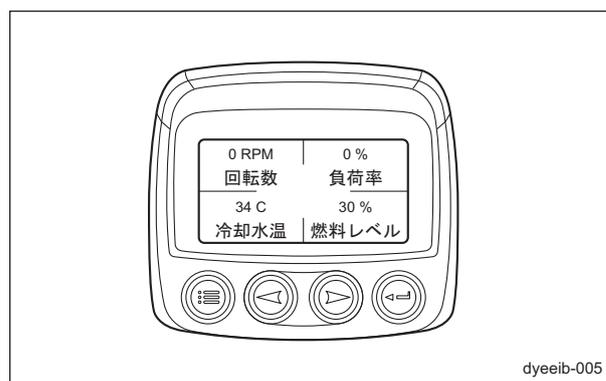
- ・ バックライト
- ・ 燃料残量

重要

この機械では「バックライト」の機能は使用しません。

常に、「燃料残量」を選択してください。

「バックライト」を選択すると、燃料レベルのパラメーター値が「データなし」と表示されます。



dyeeib-005

アナログ入力_001

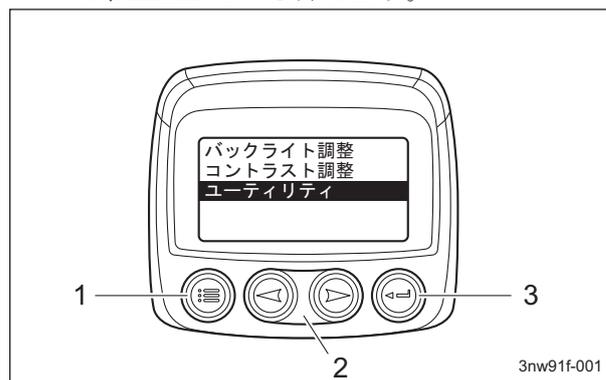
参考：

工場出荷時のアナログ入力は燃料残量に設定されています。

1. 燃料残量

「燃料残量」では、低燃料レベル設定ができます。

1. メニューキーを押します。
メインメニューが表示されたら、矢印キーで「ユーティリティ」をハイライト表示にし、Enter キーを押します。



3nw91f-001

燃料残量_001

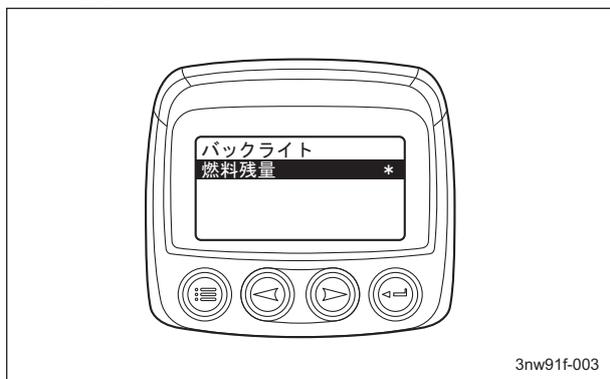
1	メニューキー
2	矢印キー
3	Enter キー

2. 「アナログ入力」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



燃料残量_002

3. 「燃料残量」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



燃料残量_003

4. 「低燃料レベル設定」をハイライト表示し、Enter キーを押します。



燃料残量_004

5. 「燃料残量低下」が表示されます。



燃料残量_005

6. 右矢印キーで数値が増え、左矢印キーで数値が減ります。
数値は5%きざみで10% - 80%まで設定できます。

7. 設定した数値を保存するときは、Enter キーを押します。

参考：

工場出荷時の燃料残量低下の数値は10%に設定されています。

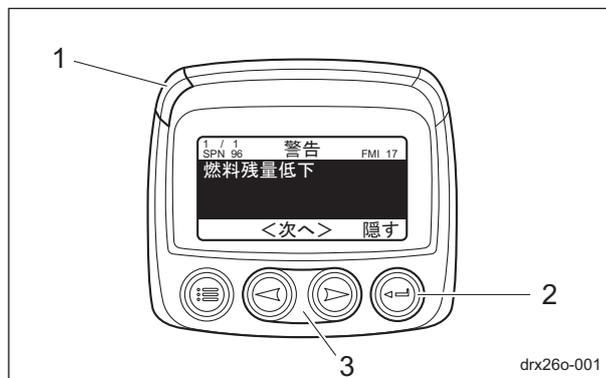
2. 燃料残量低下の案内表示

重要

警告メッセージが表示された場合は、作業を中止し、燃料の給油を行ってください。

1. パラメーターの燃料レベルの数値が、設定した燃料残量低下の数値を下回ると、モニター画面に警告メッセージが表示され、LED（黄色）が点灯します。
警告メッセージは2ページ表示されます。
矢印キーでページを変更できます。

・テキスト表示1



燃料残量低下の案内表示_001

1	LED（黄色）
2	Enter キー
3	矢印キー

取り扱い説明

・ テキスト表示 2



燃料残量低下の案内表示_002

2. Enter キーを押すと、警告メッセージからパラメーターの画面表示に変わります。
3. モニター画面の右上に警告マークが表示されます。



燃料残量低下の案内表示_003

1	警告マーク
---	-------

4. 燃料を給油し、パラメーターの燃料レベルの数値が、設定した燃料残量低下の数値を上回ると、警告メッセージと警告マークが消えます。

■OEM

「OEM」は、メーカーが出荷時の設定を行うときに使用します。

重要

お客様が調整をすることはありません。

故障コード表示

重要

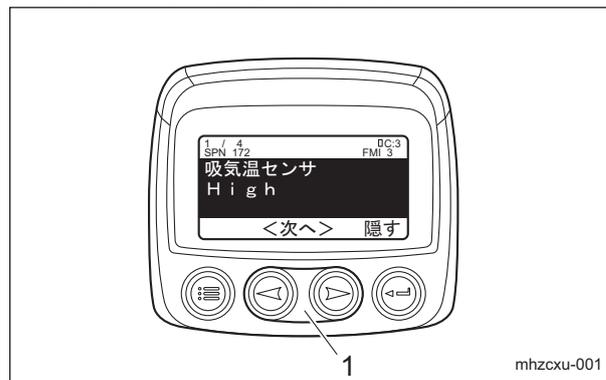
モニター画面に故障コード（DTC）が表示された場合は、販売店にご連絡ください。

エンジン機能に故障が発生した場合、モニター画面に故障コード（DTC）が表示されます。故障コードは、1つの故障につき2ページ表示されます。

矢印キーでページを変更できます。

・ テキスト表示 1

故障コードの名称が表示されます。

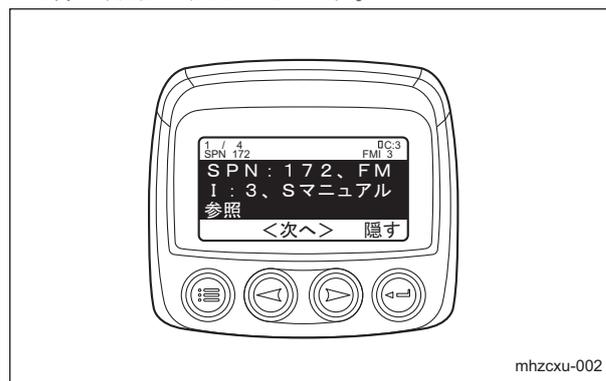


故障コード表示_001

1	矢印キー
---	------

・ テキスト表示 2

矯正行動が表示されます。



故障コード表示_002

Enter キーを押すと、故障コードからパラメーターの画面表示に変わります。

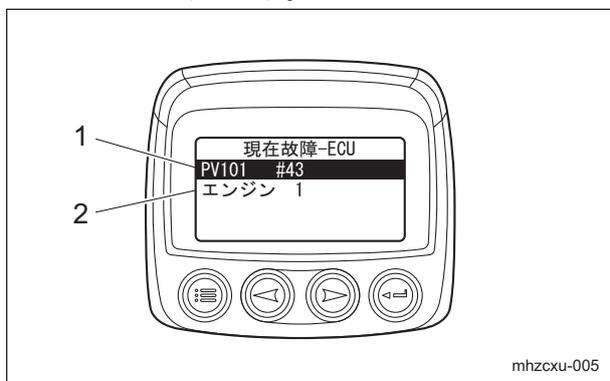
重要

サービスリマインダを設定している場合、消耗品交換時期の通知と故障コード通知が同時に表示される場合があります。

燃料残量の低燃料レベル設定をしている場合も同様です。

「現在故障-ECU」のメッセージが表示された場合は、サービスリマインダ警告メッセージと故障コード（DTC）の両方を確認してください。

サービスリマインダ警告メッセージを確認する場合：
サービスリマインダ通知をハイライト表示にし、Enter キーを押します。



故障コード表示_003

1	サービスリマインダ通知
2	故障コード通知

- テキスト表示 1

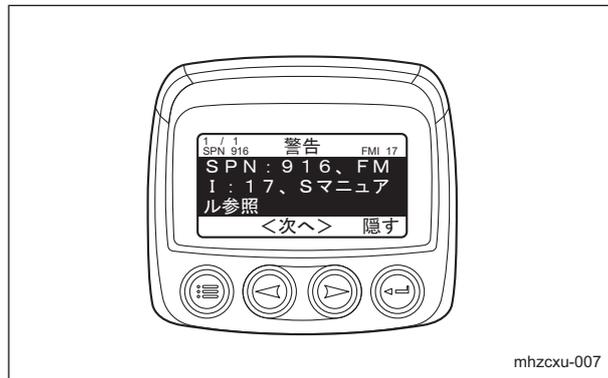
消耗部品の交換を必要とする項目が表示されます。



故障コード表示_004

- テキスト表示 2

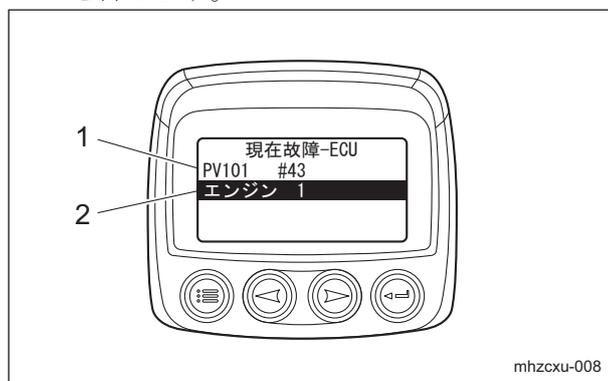
矯正行動が表示されます。



故障コード表示_005

故障コード（DTC）を確認する場合：

故障コード通知をハイライト表示にし、Enter キーを押します。



故障コード表示_006

1	サービスリマインダ通知
2	故障コード通知

- テキスト表示 1

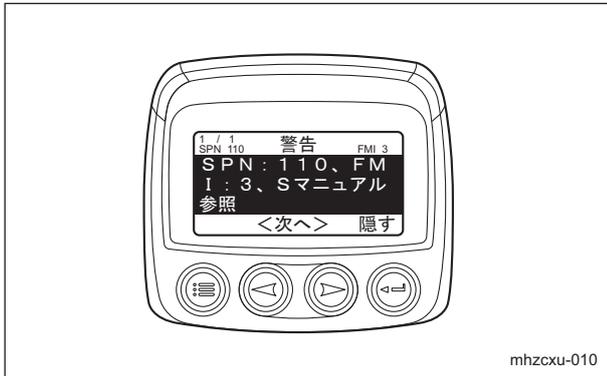
故障コード（DTC）の名称が表示されます。



故障コード表示_007

取り扱い説明

- ・ テキスト表示 2
 修正行動が表示されます。



故障コード表示_008

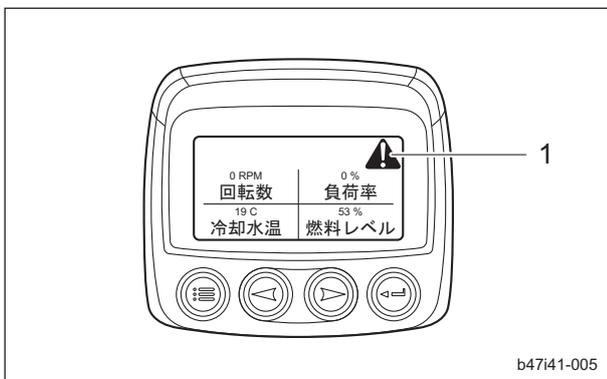
参考：

サービスリマインダ警告メッセージを無視して Enter キーを押し、警告メッセージを隠すと「現在故障-ECU」の画面に戻ります。

故障コード (DTC) を無視して Enter キーを押した場合も同様です。

「現在故障-ECU」の画面で通知を無視してメニューキーを押すと、モニター画面の右上に警告マークが表示され続けます。

再度、警告メッセージと故障コード (DTC) を確認する場合は、Enter キーを押して「現在故障-ECU」の画面に戻ってください。



故障コード表示_009

1	警告マーク
---	-------

■故障コード一覧

重要

モニター画面に故障コードが表示されたら、クボタ「故障診断マニュアル」を参照するか、販売店にご連絡ください。

モニター画面に表示される故障コード (DTC) と内容は、以下の項目です。

No.	DTC 名称 テキスト表示 1	矯正行動 テキスト表示 2	ISO 14229 P-Code	J1939-73		検出項目	リンプホーム ECU の制御	故障時の挙動	DTC 復帰条件
				SPN	FMI				
8	水温センサ Low	SPN: 110, FMI: 4, S マニュアル 参照	P0117	110	4	センサ/ハーネスの アースショート	始動中 = -25 °C (-13 °F) [デフォルト値] 他の全条件下 = 80 °C (176 °F) [デフォルト値] ・ 出力制限 正常時の約 75% ・ EGR 停止 ・ 吸気スロットル フル オープン	低温時白煙増加 出力不足 排ガス性能悪化	キースイッ チ OFF にす ると復帰
9	水温センサ High	SPN: 110, FMI: 3, S マニュアル 参照	P0118	110	3	センサ/ハーネスの 断線、+B ショート	始動中 = -25 °C (-13 °F) [デフォルト値] 他の全条件下 = 80 °C (176 °F) [デフォルト値] ・ 出力制限 正常時の約 75% ・ EGR 停止 ・ 吸気スロットル フル オープン	低温時白煙増加 出力不足 排ガス性能悪化	キースイッ チ OFF にす ると復帰
17	エンジンオーバ ーヒート	作業を中断して 下さい	P0217	110	0	エンジン水温の異 常高温	・ 出力制限 正常時の約 75% ・ EGR 停止 ・ 吸気スロットル フル オープン	出力不足 オーバーヒート	ダイアグカ ウンタ=0 に て復帰
18	エンジンオーバ ーラン	SPN: 190, FMI: 0, S マニュアル 参照	P0219	190	0	エンジン回転数が 規定値を超過	噴射停止 (Q = 0 mm ³ /st)	オーバーラン	ダイアグカ ウンタ=0 に て復帰
21	NE センサパ ルス未入力	SPN: 636, FMI: 8, S マニュアル 参照	P0335	636	8	センサ/ハーネスの 断線、ショート センサ故障	・ 出力制限 正常時の約 75%	(G のみで運転) 始動不良 振動若干大 出力不足	ダイアグカ ウンタ=0 に て復帰
26	グロー駆動回路 +B ショート	SPN : 523544, FMI : 3, S マニュアル 参照	P0380	52354 4	3	グロー駆動回路の +B ショート	無し	(低温時) 始動不良 白煙悪化	キースイッ チ OFF にす ると復帰
27	グロー駆動回路 GND ショート	SPN : 523544, FMI : 4, S マニュアル 参照	P0380	52354 4	4	グロー駆動回路の アースショート	無し	(低温時) 始動不良 白煙悪化	キースイッ チ OFF にす ると復帰

取り扱い説明

No.	DTC 名称 テキスト表示 1	矯正行動 テキスト表示 2	ISO 14229 P-Code	J1939-73		検出項目	リンプホーム ECU の制御	故障時の挙動	DTC 復帰条件
				SPN	FMI				
29	エンジン油圧低下	Eg 停止、SPN : 100,FMI : 1,S マニュアル参照	P0524	100	1	油圧低下スイッチの作動	無し	E/G 停止	キースイッチ OFF にすると復帰
30	バッテリー電圧 Low	SPN : 168,FMI : 4,S マニュアル参照	P0562	168	4	ハーネスの断線、ショート、破損 バッテリー異常	<ul style="list-style-type: none"> 出力制限 正常時の約 75% EGR 停止 吸気スロットル フルオープン 	始動不良 出力不足 排ガス性能悪化 ※E/G 停止	ダイアグカウンタ=0 にて復帰
31	バッテリー電圧 High	SPN : 168,FMI : 3,S マニュアル参照	P0563	168	3	ハーネスの断線、ショート、破損 バッテリー異常	<ul style="list-style-type: none"> 出力制限 正常時の約 75% EGR 停止 吸気スロットル フルオープン 	始動不良 出力不足 排ガス性能悪化	キースイッチ OFF にすると復帰
34	ECU フラッシュ ROM 異常	Eg 停止、SPN : 628,FMI : 2,S マニュアル参照	P0605	628	2	フラッシュ ROM の異常	エンジン停止	エンジン停止	キースイッチ OFF にすると復帰
35	ECU CPU 異常 (メイン IC 異常)	Eg 停止、SPN : 1077,FMI : 2,S マニュアル参照	P0606	1077	2	CPU の故障又は IC の故障	エンジン停止	エンジン停止	キースイッチ OFF にすると復帰
43	センサ電圧 1 Low	SPN : 3509,FMI : 4,S マニュアル参照	P0642	3509	4	センサ供給電圧 1 異常または認識異常	<ul style="list-style-type: none"> 出力制限 正常時の約 50% 回転数制限 アクセル制限 50% EGR 停止 吸気スロットル フルオープン 	始動不良 出力不足 排ガス性能悪化 ※E/G 停止	キースイッチ OFF にすると復帰
51	アクセルセンサ 1 Low	SPN : 91,FMI : 4,S マニュアル参照	P2122	91	4	センサ/ハーネス断線、アースショート	強制アイドル (アクセル 0%)	出力不足	ダイアグカウンタ=0 にて復帰
52	アクセルセンサ 1 High	SPN : 91,FMI : 3,S マニュアル参照	P2123	91	3	センサ/ハーネスの電源ショート	強制アイドル (アクセル 0%)	出力不足	ダイアグカウンタ=0 にて復帰
53	アクセルセンサ 2 Low	SPN : 29,FMI : 4,S マニュアル参照	P2127	29	4	センサ/ハーネス断線、アースショート	強制アイドル (アクセル 0%)	出力不足	ダイアグカウンタ=0 にて復帰
54	アクセルセンサ 2 High	SPN : 29,FMI : 3,S マニュアル参照	P2128	29	3	センサ/ハーネスの電源ショート	強制アイドル (アクセル 0%)	出力不足	ダイアグカウンタ=0 にて復帰
60	大気圧センサ Low	SPN : 108,FMI : 4,S マニュアル参照	P2228	108	4	センサ/ECU 内部回路のアースショート	65.0 kPa (0.6628 kgf/cm ² , 9.426 psi) [デフォルト値]	出力不足	ダイアグカウンタ=0 にて復帰
61	大気圧センサ High	SPN : 108,FMI : 3,S マニュアル参照	P2229	108	3	センサ/ECU 内部回路の+B ショート	65.0 kPa (0.6628 kgf/cm ² , 9.426 psi) [デフォルト値]	出力不足	ダイアグカウンタ=0 にて復帰

取り扱い説明

No.	DTC 名称 テキスト表示 1	矯正行動 テキスト表示 2	ISO 14229 P-Code	J1939-73		検出項目	リンプホーム ECU の制御	故障時の挙動	DTC 復帰条 件
				SPN	FMI				
64	CAN2 バスオフ 異常	SPN : 523527,FMI : 2,S マニュアル 参照	U0075	52354 7	2	CAN2 +B/GND シ ョート又は高トラ フィック異常	強制アイドル (アクセル 0%)	出力不足 ※送信データ NG	キースイッ チ OFF にす ると復帰
65	CAN_KBT オリ ジナルフレーム 断線異常	SPN : 523548,FMI : 2,S マニュアル 参照	U0081	52354 8	2	CAN_KBT オリジ ナルフレーム断線 異常	強制アイドル (アクセル 0%)	出力不足	キースイッ チ OFF にす ると復帰
74	排気温度センサ 1 (T1 : DOC 出 口) Low	SPN : 3242,FMI : 4,S マニュアル参照	P0543	3242	4	センサ/ハーネスの アースショート	0 °C (32 °F) [デフォルト 値] ・ 出力制限 正常時の約 75%	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
75	排気温度センサ 1 (T1 : DOC 出 口) High	SPN : 3242,FMI : 3,S マニュアル参照	P0544	3242	3	センサ/ハーネス断 線★センサ/ハーネ スの+B ショート	0 °C (32 °F) [デフォルト 値] ・ 出力制限 正常時の約 75%	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
76	排気温度センサ 0 (T0 : DOC 入 口) Low	SPN : 4765,FMI : 4,S マニュアル参照	P0546	4765	4	センサ/ハーネスの アースショート	0 °C (32 °F) [デフォルト 値] ・ 出力制限 正常時の約 75%	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
77	排気温度センサ 0 (T0 : DOC 入 口) High	SPN : 4765,FMI : 3,S マニュアル参照	P0547	4765	3	センサ/ハーネス断 線 センサ/ハーネスの +B ショート	0 °C (32 °F) [デフォルト 値] ・ 出力制限 正常時の約 75%	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
78	EEPROM チェ ックサム不一致	SPN : 523700,FMI : 13,S マニユ アル参照	P1990	52370 0	13	KBT EEPROM チェックサム不 一致	無し	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
86	排気温度センサ 2 (T2 : DPF 出 口) Low	SPN : 3246,FMI : 4,S マニュアル参照	P242C	3246	4	センサ/ハーネスの アースショート	0 °C (32 °F) [デフォルト 値] ・ 出力制限 正常時の約 75%	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
87	排気温度センサ 2 (T2 : DPF 出 口) High	SPN : 3246,FMI : 3,S マニュアル参照	P242D	3246	3	センサ/ハーネス断 線 センサ/ハーネスの +B ショート	0 °C (32 °F) [デフォルト 値] ・ 出力制限 正常時の約 75%	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
88	差圧センサ Low	SPN : 3251,FMI : 4,S マニュアル参照	P2454	3251	4	センサ/ハーネスの アースショート	0 kPa (0.0 kgf/cm ² , 0.0 psi) [デフォルト値] ・ 出力制限 正常時の約 75%	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
89	差圧センサ High	SPN : 3251,FMI : 3,S マニュアル参照	P2455	3251	3	センサ/ハーネス断 線 センサ/ハーネスの +B ショート	0 kPa (0.0 kgf/cm ² , 0.0 psi) [デフォルト値] ・ 出力制限 正常時の約 75%	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰

取り扱い説明

No.	DTC 名称 テキスト表示 1	矯正行動 テキスト表示 2	ISO 14229 P-Code	J1939-73		検出項目	リンプホーム ECU の制御	故障時の挙動	DTC 復帰条件
				SPN	FMI				
93	排気温度上昇異常 T0	強制停止、 SPN : 4765,FMI : 0,S マニュアル参照	P3002	4765	0	DOC 入口温度 (T0) の異常高温	<ul style="list-style-type: none"> ・ 噴射停止 (Q = 0 mm³/st) ・ エンジン停止 ・ 排気温度センサが 300 °C 以下になるまで、クラッキング禁止、始動不可 (噴射停止) 	E/G 停止 ※300 °C 以下まで始動不可	排気温度センサが 300 °C 以下かつ、キースイッチを OFF にすると復帰
94	排気温度上昇異常 T1	強制停止、 SPN : 3242,FMI : 0,S マニュアル参照	P3003	3242	0	DPF 入口温度(T1) の異常高温	<ul style="list-style-type: none"> ・ 噴射停止 (Q = 0 mm³/st) ・ エンジン停止 ・ 排気温度センサが 300 °C 以下になるまで、クラッキング禁止、始動不可 (噴射停止) 	E/G 停止 ※300 °C 以下まで始動不可	排気温度センサが 300 °C 以下かつ、キースイッチを OFF にすると復帰
95	排気温度上昇異常 T2	強制停止、 SPN : 3246,FMI : 0,S マニュアル参照	P3004	3246	0	DPF 出口温度(T2) の異常高温	<ul style="list-style-type: none"> ・ 噴射停止 (Q = 0 mm³/st) ・ エンジン停止 ・ EGR 停止 ・ 吸気スロットル全閉 ・ 排気温度センサが 300 °C 以下になるまで、クラッキング禁止、始動不可 (噴射停止) 	E/G 停止 ※300 °C 以下まで始動不可	排気温度センサが 300 °C 以下かつ、キースイッチを OFF にすると復帰
96	PM 堆積異常レベル 3	駐車再生を下さい	P3006	3701	15	PM (推定) 蓄積量 過大 レベル 3	・ 出力制限 正常時の約 50%	出力不足	ダイアグカウンタ=0 にて復帰
97	PM 堆積異常レベル 4	エンジンを停止して下さい 販社に連絡して下さい	P3007	3701	16	PM (推定) 蓄積量 過大 レベル 4	・ 出力制限 正常時の約 50%	出力不足	ダイアグカウンタ=0 にて復帰
98	PM 堆積異常レベル 5	エンジンを停止して下さい 販社に連絡して下さい	P3008	3701	0	PM (推定) 蓄積量 過大 レベル 5	・ 出力制限 正常時の約 50%	出力不足	キースイッチ OFF にすると復帰 (サービスツールによるエラーリセット)
101	手動再生処理タイムアウト	SPN : 523590,FMI : 16,S マニュアル参照	P3013	523590	16	再生中、DPF 温度が上がり再生が終わらない	無し	無し	ダイアグカウンタ=0 にて復帰 (手動再生ボタンをもう一度押す)
102	全排気温度センサ断線	SPN : 523599,FMI : 0,S マニュアル参照	P3018	523599	0	全排気温度センサ同時断線異常	・ 出力制限 正常時の約 75%	無し	ダイアグカウンタ=0 にて復帰

取り扱い説明

No.	DTC 名称 テキスト表示 1	矯正行動 テキスト表示 2	ISO 14229 P-Code	J1939-73		検出項目	リンプホーム ECU の制御	故障時の挙動	DTC 復帰条 件
				SPN	FMI				
103	排気温度異常継続	SPN : 523601,FMI : 0,S マニュアル 参照	P3023	52360 1	0	排気温度高温異常 発生時の排気温度	・ エンジン停止 すべての排気温度セン サが 300 °C 以下に下 がるまでリレー駆動停 止	無し	ダイアグカ ウンタ=0 に て復帰
104	再生頻度過多	SPN : 523602,FMI : 0,S マニュアル 参照	P3024	52360 2	0	再生処理終了から 次の再生までの間 隔が異常 (短い)	・ 出力制限 正常時の約 50% ・ EGR 停止	排ガス性能悪化 ※NOx 増	キースwit チ OFF にす ると復帰 (サ ービスツールによるエ ラーリセッ ト)
107	CAN_CCVS 通 信途絶	SPN : 523591,FMI : 2,S マニュアル 参照	U0082	52359 1	2	CAN_CCVS 通信 途絶	Parking SW = OFF, Vehicle speed = 0 [デフォ ルト値]	無し	キースwit チ OFF にす ると復帰
108	CAN_CM1 通 信途絶	SPN : 523592,FMI : 2,S マニュアル 参照	U0083	52359 2	2	CAN_CM1 通信途 絶	Regeneration inhibit = ON [デフォルト値]	無し	キースwit チ OFF にす ると復帰
111	CAN_ETC5 通 信途絶	SPN : 523595,FMI : 2,S マニュアル 参照	U0086	52359 5	2	CAN_ETC5 通信 途絶	Neutral SW = OFF [デフォ ルト値]	無し	キースwit チ OFF にす ると復帰
114	燃料残量低下	給油して下さい	空欄	96	17	燃料残量 10%以下 アナログ入力 (モ ニター直接) 残量 10~80%の範 囲で変更可能	無し		残燃料量が 規定値以上 になるまで 給油する
116	電子ガバナ用ソ レノイドオー プン	SPN : 523771,FMI : 5,S マニュアル 参照	P1830	52377 1	5	電子ガバナ用ソレ ノイドの断線	- エンジン停止 - DPF 再生不可	エンジン停止	キースwit チ OFF にす ると復帰
117	電子ガバナ用ソ レノイド GND ショート/B+シ ョート	SPN : 523771,FMI : 6,S マニュアル 参照	P1831	52377 1	6	電子ガバナ用ソレ ノイドの GND シ ョート/B+ショー ト	- エンジン停止 - DPF 再生不可	エンジン停止	キースwit チ OFF にす ると復帰
118	燃料電磁ポンプ 断線/B+ショー ト	SPN : 523544,FMI : 3,S マニュアル 参照	P1840	52376 1	3	燃料電磁ポンプの 駆動回路の断線/B +ショート	無し	エンジン停止	キースwit チ OFF にす ると復帰
119	燃料電磁ポンプ GND ショート	SPN : 523544,FMI : 4,S マニュアル 参照	P1841	52376 1	4	燃料電磁ポンプの 駆動回路の GND ショート	無し	(低温時) 始動不良	キースwit チ OFF にす ると復帰
120	改質触媒温度高 温異常	SPN : 523753,FMI :	P1834	52375 3	0	改質触媒温度の異 常上昇	- DPF 再生不可	無し	キースwit チ OFF にす ると復帰

取り扱い説明

No.	DTC 名称 テキスト表示 1	矯正行動 テキスト表示 2	ISO 14229 P-Code	J1939-73		検出項目	リンプホーム ECU の制御	故障時の挙動	DTC 復帰条件
				SPN	FMI				
120	改質触媒温度高温異常	0,S マニュアル参照	P1834	52375 3	0	改質触媒温度の異常上昇	- DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
121	エアバルブ圧力異常	SPN : 523751,FMI : 0,S マニュアル参照	P1835	52375 1	0	エアバルブ 1 出口圧力の異常上昇	- DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
122	エアバルブ圧力センサ High	SPN : 523764,FMI : 3,S マニュアル参照	P1818	52376 4	3	センサ/ハーネスの電源ショート/断線	[デフォルト値を使用] 0 kPa - DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
123	エアバルブ圧力センサ Low	SPN : 523764,FMI : 4,S マニュアル参照	P1819	52376 4	4	センサ/ハーネスのアースショート	[デフォルト値を使用] 0 kPa - DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
124	排気温度センサ 3 (T3 : 改質触媒) High	SPN : 523763,FMI : 3,S マニュアル参照	P1832	52376 3	3	センサ/ハーネスの断線もしくは+B ショート	[デフォルト値を使用] 0 kPa - DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
125	排気温度センサ 3 (T3 : 改質触媒) Low	SPN : 523763,FMI : 4,S マニュアル参照	P1833	52376 3	4	センサ/ハーネスのアースショート	[デフォルト値を使用] 0 kPa - DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
126	排気温度センサ (T4 : 改質ガス出口) High	SPN : 523762,FMI : 3,S マニュアル参照	P1815	52376 2	3	センサ/ハーネスの断線もしくは+B ショート	[デフォルト値を使用] 0 kPa - DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
127	排気温度センサ (T4 : 改質ガス出口) Low	SPN : 523762,FMI : 4,S マニュアル参照	P1816	52376 2	4	センサ/ハーネスのアースショート	[デフォルト値を使用] 0 kPa - DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
128	エアブロウ (メイン) 異常	SPN : 523768,FMI : 5,S マニュアル参照	P1806	52376 8	5	センサ/ハーネスの断線、ショート エアブロウの故障	- DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
129	エアブロウ (サブ) 異常	SPN : 523768,FMI : 5,S マニュアル参照	P1807	52376 8	5	センサ/ハーネスの断線、ショート エアブロウの故障 ブロウ起動用回路の故障	- DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
130	エアバルブ 1 オープン	SPN : 523770,FMI : 5,S マニュアル参照	P1808	52377 0	5	バルブ/ハーネスの断線	- DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰
131	エアバルブ 1 GND ショート	SPN : 523770,FMI :	P1809	52377 0	4	ハーネスの GND ショート	- DPF 再生不可	無し	キースイッチ OFF にすると復帰

取り扱い説明

No.	DTC 名称 テキスト表示 1	矯正行動 テキスト表示 2	ISO 14229 P-Code	J1939-73		検出項目	リンプホーム ECU の制御	故障時の挙動	DTC 復帰条 件
				SPN	FMI				
131	エアバルブ 1 GND ショート	4,S マニュアル 参照	P1809	52377 0	4	ハーネスの GND ショート	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
132	エアバルブ 1 B +ショート	SPN : 523770,FMI : 3,S マニュアル 参照	P1810	52377 0	3	ハーネスの B+シ ョート	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
133	エアバルブ 2 オープン	SPN : 523769,FMI : 5,S マニュアル 参照	P1811	52376 9	5	バルブ/ハーネスの 断線	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
134	エアバルブ 2 GND ショート	SPN : 523769,FMI : 4,S マニュアル 参照	P1812	52376 9	4	ハーネスの GND ショート	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
135	エアバルブ 2 B +ショート	SPN : 523769,FMI : 3,S マニュアル 参照	P1813	52376 9	3	ハーネスの B+シ ョート	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
136	燃料改質用燃料 ポンプ オープ ン	SPN : 523767,FMI : 5,S マニュアル 参照	P1803	52376 7	5	ハーネスの断線	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
137	燃料改質用燃料 ポンプ GND シ ョート	SPN : 523767,FMI : 4,S マニュアル 参照	P1804	52376 7	4	ハーネスの GND ショート	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
138	燃料改質用燃料 ポンプ B+ショ ート	SPN : 523767,FMI : 3,S マニュアル 参照	P1805	52376 7	3	ハーネスの B+シ ョート	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
139	低温改質用グロ ー過電流	SPN : 523766,FMI : 6,S マニュアル 参照	P1801	52376 6	6	グローへの通電電 流の過大	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
140	低温改質用グロ ー断線	SPN : 523766,FMI : 5,S マニュアル 参照	P1802	52376 6	5	ハーネスの断線/シ ョート	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
141	燃料改質用グロ ーリレー B+シ ョート	SPN : 523765,FMI : 3,S マニュアル 参照	P1836	52376 5	3	燃料改質用グロー ーリレー 断線/B+シ ョート	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰
142	燃料改質用グロ ーリレー GND ショート	SPN : 523765,FMI : 4,S マニュアル 参照	P1837	52376 5	4	燃料改質用グロー ーリレー GND ショ ート	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰

取り扱い説明

No.	DTC 名称 テキスト表示 1	矯正行動		ISO 14229 P-Code	J1939-73		検出項目	リンプホーム ECU の制御	故障時の挙動	DTC 復帰条件
		テキスト表示 2			SPN	FMI				
143	改質触媒異常	SPN : 523755,FMI : 2S マニュアル 参照	P1844	52375 5	2	PF 再生制御中の 改質触媒が活性化 しない	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰	
144	DPF 昇温失敗	SPN : 523756,FMI : 2S マニュアル 参照	P1845	52375 6	2	DPF 再生制御中の DPF 昇温失敗	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰	
145	燃料改質用プロ ワ過電流	SPN : 523768,FMI : 6,S マニュアル 参照	P1846	52376 8	6	燃料改質用プロワ の通電電流過大	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰	
146	改質ガス着火失 敗	SPN : 523757,FMI : 2,S マニュアル 参照	P1848	52375 7	2	改質ガスの着火失 敗 (エアバルブ 2 動 作不良) (改質ガス着火用 グロー動作不良)	- DPF 再生不可	無し	キースイッ チ OFF にす ると復帰	
147	DPF 再生時水 温昇温不足	SPN : 523757,FMI : 2,S マニュアル 参照	P1849	52375 0	2	DPF 再生時の暖機 不足	- DPF 再生不可	無し	ダイアグカ ウンタ=0 に て復帰	
148	EEP 書き込みエ ラー	SPN : 523749,FMI : 2,S マニュアル 参照	P1850	52374 9	2	EEP-ROM への書 き込み失敗	- 強制アイドル (アクセル 0%)	・出力不足	キースイッ チ OFF にす ると復帰	
149	再生時消費電力 過多	SPN : 523748,FMI : 2,S マニュアル 参照	P1851	52374 8	2	DPF 再生時の電力 消費過多	- 再生中断	無し	DPF 再生が 正常終了	
150	ラックポジショ ンセンサ High	SPN : 523773,FMI : 3,S マニュアル 参照	P1827	52377 3	3	センサハーネス断 線 センサハーネスの +B ショート	- エンジン停止	エンジン停止	キースイッ チ OFF にす ると復帰	
151	ラックポジショ ンセンサ Low	SPN : 523773,FMI : 4,S マニュアル 参照	P1828	52377 3	4	センサハーネスの アースショート センサー取付状態 間違い	- エンジン停止	エンジン停止	キースイッ チ OFF にす ると復帰	

DPF 再生ランプ

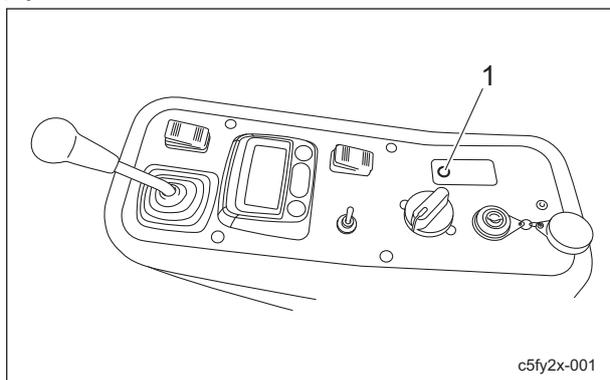
重要

DPF 再生ランプ (LED) 点灯中は、エンジンを停止しないでください。
DPF 再生ランプ (LED) 消灯後、モニターの再生アイコンが消灯したことを確認してからエンジンを停止してください。
DPF 再生ランプ (LED) が消灯してもモニターの再生アイコンは、すぐには消灯しません。

DPF 再生ランプ (LED) は、DPF の再生が開始されると点灯します。

ランプは、DPF 再生中点灯し続け、再生が完了すると消灯します。

また、DPF 再生ランプ (LED) は、自動再生禁止スイッチが「自動再生禁止モード」のとき点滅します。



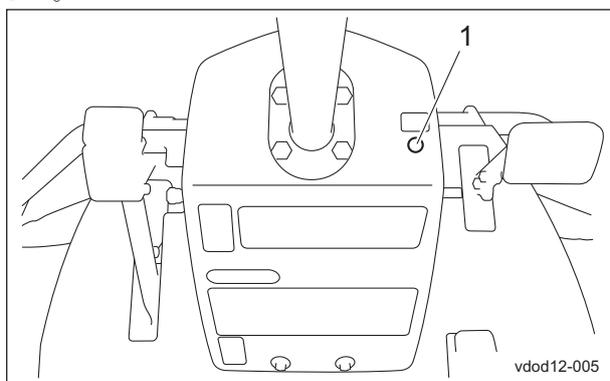
DPF 再生ランプ_001

1	DPF 再生ランプ
---	-----------

エンジン警告ランプ

エンジン機能に故障が発生した場合、エンジン警告ランプ (LED) が点灯します。

モニター画面の故障コード (DTC) を確認してください。



エンジン警告ランプ_001

1	エンジン警告ランプ
---	-----------

移動

移動操作

⚠ 注意

どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

⚠ 注意

移動時にはリール回転スイッチを「停止」側に押し、モアユニットを上げてください。

1. エンジンを始動します。
2. すべてのモアユニットを上げてください。
3. ブレーキペダルを強く踏み込んでロック金を外し、ブレーキペダルを解除します。
4. 走行ペダルをゆっくりと踏み込んでください。
5. 機械は走行を始めます。

けん引方法

エンジントラブルなどで自走できなくなった場合は、以下の方法で移動できます。

⚠ 注意

けん引時以外は、アンロードバルブに触れないでください。

⚠ 注意

エンジンは、必ずアンロードバルブを閉じてから始動してください。

重要

けん引時の最大速度は、3.0 km/h 以下で移動してください。

また、3 分以上けん引しないでください。
けん引速度が速すぎたり、過度に動かすとポンプやモーターが損傷します。

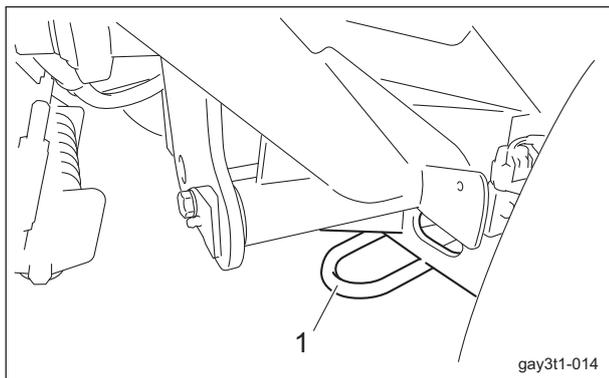
重要

アンロードバルブは、3 回転以上回さないでください。

1. エンジンを停止します。
「エンジン停止手順」(Page 4-22)
2. ブレーキペダルを強く踏みながらロック金を踏んで、ブレーキペダルをロックしてください。
3. 輪止めをします。

取り扱い説明

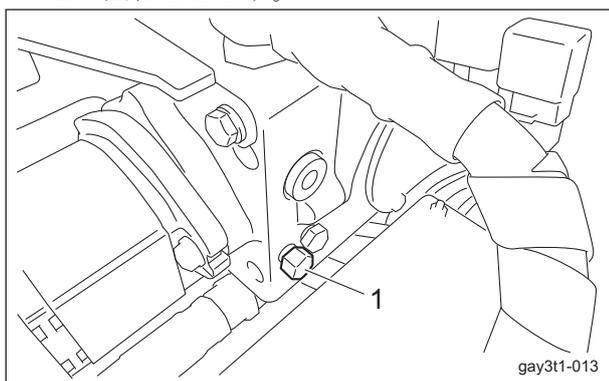
4. ロープ掛けフックにロープを掛けてください。



けん引方法_001

- | | |
|---|----------|
| 1 | ロープ掛けフック |
|---|----------|

5. シート下カバーを開けます。
「シート下カバー」(Page 4-36)
6. 座席下部のアンロードバルブを反時計方向に1 - 1.5回転させます。



けん引方法_002

- | | |
|---|----------|
| 1 | アンロードバルブ |
|---|----------|

7. シート下カバーを閉めます。
8. 輪止めを外します。
9. ブレーキペダルを強く踏み込んで、ロック金を外してください。

警告

けん引時は、常にブレーキペダルの上に足を置いて、いつでもブレーキペダルを踏んで止まれるようにしてください。

10. ゆっくりとけん引します。

刈り込み

刈り込み操作

警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。
危険な上、油圧機器を破損したり、油漏れの原因になることがあります。

注意

刈り込み作業は、必ず場所にあった速さで行ってください。
凸凹面の刈り込み作業は、エンジン回転は一定のまま、刈り込み速さを遅くして行ってください。

注意

モアユニットが完全に上がる前にモアユニット昇降レバーの操作をやめると、リール回転が停止しない場合がありますので、注意してください。
リール回転は、近接センサーが感知したモアユニットの位置に基づいて「入」「切」されます。

注意

目砂後はカッターカバーを閉じて使用してください。
目砂が舞い上がり、目に入るおそれがあります。

重要

刈り込み時はレバーを「下降」側に倒した状態で作業してください。
中立位置に戻すとシリンダーが固定され、アンジュレーションに対応することができません。

- #4・#5 モアユニットのモアロックレバー（ラッチ）を解除します。
- エンジンを始動します。
- すべてのモアユニットを上げます。
- ブレーキペダルを強く踏み込んでロック金を外し、ブレーキペダルのロックを解除します。
- スロットルノブを操作して、エンジン回転速度を最高速にします。
- 移動・作業切り替えスイッチを「作業」側に押します。
- モアユニット昇降レバーを「下降」側に倒し、モアユニットを下げます。

8. リール回転スイッチを「回転」側にし、すべてのモアユニットのリールカッターを回転させます。

重要

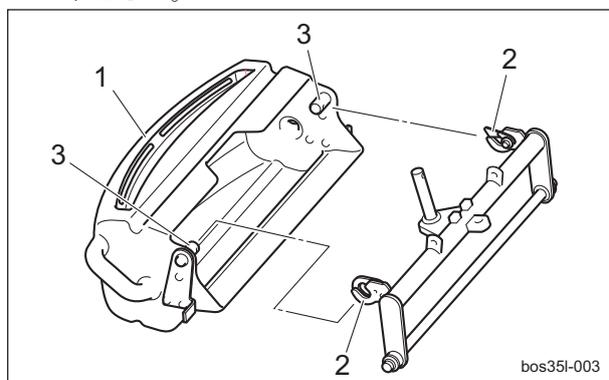
刈り込み作業時に走行速度が 12.0 km/h を超えたとき、ブザーが鳴ります。そのまま作業を続けるとエンジンや油圧機器が損傷します。

9. ペダルストッパーを「作業」側に倒します。
10. 走行ペダルを踏み、作業を始めます。
参考：
作業中はモアユニットの昇降に連動し、リールカッターも回転・停止します。

グラスキャッチャーの脱着**▲ 注意**

グラスキャッチャーの脱着はエンジンを停止して行ってください。

1. リール回転スイッチを「停止」側にしてください。
2. モアユニットを下げてください。
3. 駐車ブレーキをかけてください。
4. エンジンを停止してください。
5. グラスキャッチャーを脱着してください。
 - ・グラスキャッチャーの取り外し：
グラスキャッチャーを上を持ち上げ、グラスキャッチャーの左右の掛け金をグラスキャッチャー受け金から取り外してください。
 - ・グラスキャッチャーの取り付け：
グラスキャッチャーの左右の掛け金をグラスキャッチャー受け金に掛けて取り付けしてください。



グラスキャッチャーの脱着_001

1	グラスキャッチャー
2	グラスキャッチャー受け金
3	掛け金

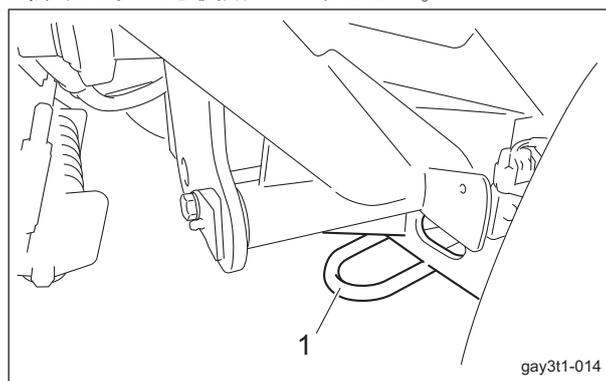
運搬**運搬方法**

この機械をトラックやトレーラーに積載して運搬する場合は、進行方向に対して機械を前進で積み込み、降ろす場合は後進で行ってください。機械にルーフが取り付けられている場合は、ルーフを取り外してください。ルーフが風圧で破損するおそれがあります。

参考：

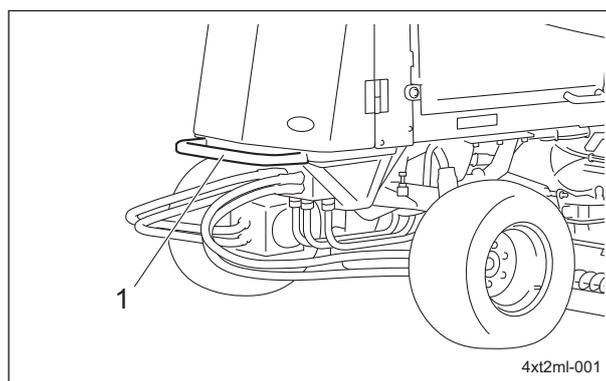
この機械にロープを掛ける際は、以下の位置にロープを掛けてください。

機械前部は、左右のフロントアクスルにあるロープ掛けフックを使用してください。



運搬方法_001

1	ロープ掛けフック
---	----------



運搬方法_002

1	バンパー
---	------

取り扱い説明

保管

長期保管について

- ・ 泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてください。
- ・ 各注油箇所にごリース注入、塗布と注油をしてください。
- ・ バッテリーのマイナス配線を取り外してください。

メンテナンス上の注意	Page 5-2	ヒューズの交換	Page 5-45
メンテナンススケジュール	Page 5-3		
調整値	Page 5-7		
DPF	Page 5-8		
DPF について	Page 5-8		
DPF 再生	Page 5-8		
DPF 交換	Page 5-12		
DPF 再生条件	Page 5-13		
PM 堆積レベル	Page 5-13		
ジャッキアップ	Page 5-19		
ジャッキアップについて	Page 5-19		
ジャッキアップポイント	Page 5-19		
グリースアップ	Page 5-20		
グリースアップについて	Page 5-20		
グリースアップ位置	Page 5-20		
注油	Page 5-24		
注油について	Page 5-24		
注油位置	Page 5-24		
メンテナンスの方法	Page 5-26		
#2、#3 モアユニットの旋回	Page 5-26		
タイヤの脱着	Page 5-27		
ベルトの張り調整	Page 5-28		
駐車ブレーキの調整	Page 5-29		
ブレーキの調整	Page 5-30		
ピストンポンプの中立位置の調整	Page 5-31		
コントロールアームの調整	Page 5-31		
ストッパーの調整	Page 5-32		
モアユニット水平スプリングの調整	Page 5-32		
#2、#3 モアユニット位置の調整	Page 5-34		
モアストッパーの調整	Page 5-35		
冷却水の交換	Page 5-39		
油圧作動油の交換	Page 5-40		
油圧オイルフィルターの交換	Page 5-41		
エアクリーナーの交換	Page 5-43		
エンジンオイルの交換	Page 5-43		
エンジンオイルフィルターの交換	Page 5-44		
燃料フィルターの交換	Page 5-45		

メンテナンス

メンテナンス上の注意

⚠ 注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

重要

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

重要

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。

純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

メンテナンススケジュール

LM551A

メンテナンススケジュールは、以下のとおりです。

○・・・点検、調整、補給、清掃

●・・・交換（初回）

△・・・交換

メンテナンス項目		作業前	作業後	毎週	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	250時間ごと	400時間ごと	500時間ごと	800時間ごと	1000時間ごと	1500時間ごと	3000時間ごと	1か月ごと	1年ごと	2年ごと	4年ごと	必要に応じて	備考
*3	エンジンオイルレベルと汚れの点検	○																		
*3	燃料レベルの点検	○																		
*3	クーラントレベルの点検	○																		
*3	ファンベルトの点検	○																		
	油圧作動油の量の点検	○																		
	油圧ホースの（可動部）状態の点検	○																		
	タイヤの空気圧と状態の点検	○																		
	カバーの状態の点検	○																		
	走行ペダルの作動の点検	○																		
	ブレーキの動作の点検	○																		
	ブレーキワイヤーの点検	○																		
	ブレーキペダルの遊びの点検	○																		
	液漏れ（油、燃料、水）の点検	○																		
	各部の損傷の点検	○																		
	ボルト、ナットの締め付けの点検	○																		
	ライト点灯の点検	○																		
	モニターの点検	○																		エンジンを始動して点検
	インターロックシステムの動作の点検	○																		エンジンを始動して点検
	ラジエータースクリーンの清掃	○																		

メンテナンス

メンテナンス項目	作業前	作業後	毎週	50 時間ごと	100 時間ごと	200 時間ごと	250 時間ごと	400 時間ごと	500 時間ごと	800 時間ごと	1000 時間ごと	1500 時間ごと	3000 時間ごと	1 か月ごと	1 年ごと	2 年ごと	4 年ごと	必要に応じて	備考
		○																	
		○																	
		○																	
		○																	
		○	○																毎週、または埃の多い場合は毎日バルブを開く
				○															
*3				○															
*3				○	○														初回 50h、その後 100h ごと
				○	○														初回 50h、その後 100h ごと
*3				●	△	△													初回 50h、その後 100h ごと 環境温度が 35°C 以下の地域では、初回 50h、その後 200 時間ごとの交換も可
*2				●	△														初回 50h、その後 200h ごと
					●				△										初回 100h、その後 500h ごと
*2					○										△				6 回の清掃後、または 1 年のいずれか早い周期で交換 埃の多い状態では、より頻繁に清掃が必要
*3					○														
					○														
*3				○	○														初回 50h、その後 100h ごと

メンテナンス

メンテナンス項目		作業前	作業後	毎週	50 時間ごと	100 時間ごと	200 時間ごと	250 時間ごと	400 時間ごと	500 時間ごと	800 時間ごと	1000 時間ごと	1500 時間ごと	3000 時間ごと	1 か月ごと	1 年ごと	2 年ごと	4 年ごと	必要に応じて	備考
*4	バッテリーの外観点検					○									○					100h または 1 か月のいずれか早い周期で点検
*4	バッテリーの外観清掃					○									○					100h または 1 か月のいずれか早い周期で点検
*4	バッテリー取り付け金具の点検					○									○					100h または 1 か月のいずれか早い周期で点検
*4	バッテリー端子の緩みおよび腐食の点検					○									○					100h または 1 か月のいずれか早い周期で点検
*3	バッテリー液量の点検					○									○					100h または 1 か月のいずれか早い周期で点検
	油圧オイルフィルターの交換					●				△										初回 100h、その後 500h ごと
	油圧サクシオンフィルターの交換					●				△										初回 100h、その後 500h ごと
	油圧ホース（固定部）の状態の点検						○									○				200h または 1 年のいずれか早い周期で点検
*3	ラジエーターホースとクランプバンドの点検						○													
*2	吸気ライン（エアクリナーホース）の点検						○													
	クローズドブリーザーホースの点検						○													
	モアユニット油圧モーター軸のグリースの塗布							○												
*3	ウォーターセパレーターの清掃								○											
*3	燃料フィルターカートリッジの交換								△											
*3	ウォータージャケットとラジエーター内部の清掃									○										
*3	燃料タンク内部の清掃									○										

メンテナンス

メンテナンス項目		作業前	作業後	毎週	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	250時間ごと	400時間ごと	500時間ごと	800時間ごと	1000時間ごと	1500時間ごと	3000時間ごと	1か月ごと	1年ごと	2年ごと	4年ごと	必要に応じて	備考
*3	ファンベルトの交換									△							△			500h または 2年のいずれか早い周期で交換
	エンジン防振ゴムの交換											△						△		1000h または 4年のいずれか早い周期で交換
	バルブクリアランスの調整											○								
*1.*2	インジェクションノズルの点検												○							
*1.*2	ターボチャージャーの点検													○						
*1.*2	インジェクションポンプの点検													○						
*1	DPF 関連パイプの点検														○					
*3	排気マニホールド（ひび割れ、ガス漏れ、固定ねじ）の点検														○					
	油圧ホース（可動部）の交換																△			
*3	ラジエーターホースとクランプバンドの交換																△			
	燃料ホースとクランプの交換																△			
	吸気ライン（エアクリナーホース）の交換																△			
	クローズドブリーザーホースの交換																△			
*3	ラジエータークーラントの交換（L.L.C.）																△			
*3	バッテリーの交換																△			
*1	DPF 関連ゴムパイプの点検															○				
	油圧ホース（固定部）の交換																	△		
	ブレーキワイヤーの調整																		△	
	ブレーキワイヤーの交換																		△	

メンテナンス

メンテナンス項目	作業前	作業後	毎週	50 時間ごと	100 時間ごと	200 時間ごと	250 時間ごと	400 時間ごと	500 時間ごと	800 時間ごと	1000 時間ごと	1500 時間ごと	3000 時間ごと	1 か月ごと	1 年ごと	2 年ごと	4 年ごと	必要に応じて	備考
走行ケーブルの交換																		△	
ブレーキパッドの交換																		△	

- ・ *1：点検整備は、お近くのバロネス販売店またはクボタ代理店に相談の上、その指示に従ってください。
- ・ 上記の項目（*2 印）は、排出ガス関係の重要部品として、クボタにより米国 EPA の「ノンロードディーゼルエンジンの排出ガス規制」に登録されています。
このエンジンのオーナーは、上記の規則に従って、エンジンの必要な保守を行う責任があります。
詳しくは、エンジンの保証条項をご覧ください。
- ・ *3：エンジンの取扱説明書を参照ください。
- ・ *4：バッテリーの取扱説明書を参照ください。
- ・ 消耗品については、保証値ではありません。
- ・ ステアリングシリンダー用ホースは、2 年ごとに交換してください。

調整値

ファンベルト			10 mm (0.39 in)	ベルトたわみ量
モアスタビライザー springs		#1 - 5	140.0 mm (5.51 in)	springs の全長
ストッパーナット位置	LH62	#1、4、5	15.0 mm (0.59 in)	
		#2、3	40.0 mm (1.57 in)	
	LH52	#1、4、5	15.0 mm (0.59 in)	
		#2、3	40.0 mm (1.57 in)	グラスキャッチャー装着時

メンテナンス

DPF

DPF について

DPF は排気ガス中の PM（すす）を捕集し、浄化するフィルターです。

PM（すす）が一定量堆積するとフィルター機能を回復させるために、自動または手動で DPF の再生作業が必要となります。

DPF 再生

危険

DPF の再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性がある場所では再生を行わないでください。

注意

バックラッピング中は、「DPF 自動再生禁止スイッチ」「DPF 駐車再生スイッチ」を操作しないでください。

重要

DPF 再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。
再生の中断や警告を無視して移動や刈り込み作業を継続すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。

重要

不必要な DPF の再生や再生の中断を繰り返し行わないでください。
エンジンオイルに微量の燃料が混ざることにより、オイルの質を低下させたり、エンジンオイルの測定レベルが上がる場合があります。

重要

DPF の再生は、エンジンが十分に暖まっているときに行ってください。

DPF 再生とは、DPF に捕集した PM（すす）をエンジン ECU が吸入空気量や燃料の噴射を制御することで、排気温度を高温にして燃焼させることです。

自動再生

危険

DPF の再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性がある場所では再生を行わないでください。

注意

通常は DPF 自動再生禁止スイッチを「自動再生モード」にしてください。
ただし、火災の可能性がある場所での作業は、DPF 自動再生禁止スイッチを「自動再生禁止モード」にしてください。

重要

DPF 再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。
再生の中断や、警告を無視して移動や刈り込み作業を継続すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。

自動再生とは、自動的に排気温度を上昇させる制御を行い、DPF の再生を行うことです。

- DPF 再生中、この機械は継続して移動や刈り込み作業をすることができます。
- この機械の操作でユーザーによる再生が可能です。（故障診断ツール不要）
- 自動再生禁止スイッチが「自動再生モード」のときのみ実行されます。
- PM 堆積レベルが「レベル 1」「レベル 2」のときに実行されます。
ただし、条件によっては「レベル 0」でも実行される場合があります。

重要

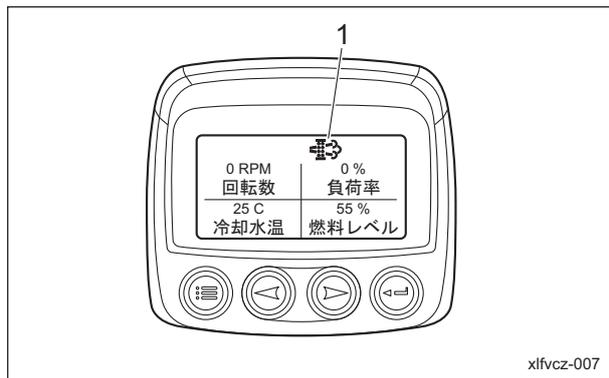
PM 堆積レベルが「レベル 1」のとき、自動再生開始から 30 分経過しても再生しきれなかった場合は、PM 堆積レベルが「レベル 2」になります。

自動再生は以下の手順で行ってください。

■ DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生モード」のとき：

1. 自動再生の条件がそろると自動再生が開始され、再生アイコンが点灯します。

2. 再生が完了すると再生アイコンは消灯します。

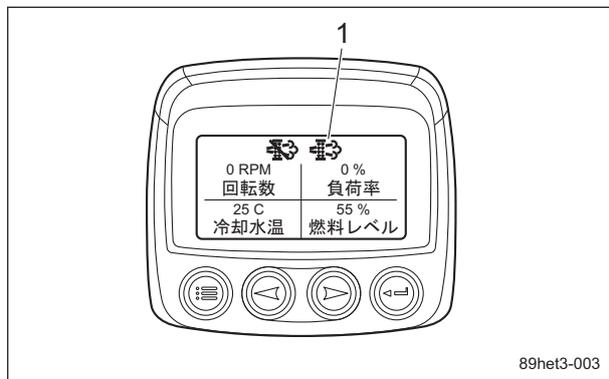


自動再生_001

1 再生アイコン

■DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生禁止モード」のとき：

- PM 堆積レベルが「レベル 1」「レベル 2」のときに再生アイコンが点滅します。
- 自動再生禁止スイッチを「自動再生モード」に切り替えてください。
- 自動再生の条件がそろると自動再生が開始され、再生アイコンが点滅から点灯に切り替わります。
- 再生が完了すると再生アイコンは消灯します。



自動再生_002

1 再生アイコン

駐車再生

⚠ 危険

DPF の再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性がある場所では再生を行わないでください。

重要

DPF 再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。

再生の中断や、警告を無視して移動や刈り込み作業を継続すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。

駐車再生とは、自動再生で PM 堆積量が規定値まで下がらないときに、この機械を安全な場所に駐車して強制的に DPF の再生を行うことです。

- DPF 再生中、この機械は継続して移動や刈り込み作業をすることができません。
- この機械の操作でユーザーによる再生が可能です。(故障診断ツール不要)
- 駐車再生の実行条件は以下のとおりです。
 - 駐車ブレーキがかかっている
 - 走行ペダルが中立である
 - スロットル開度が 0% (アイドル) 状態である
- PM 堆積レベルが「レベル 2」「レベル 3」のときに実行します。

重要

自動再生で再生しきれなかった場合は、再生アイコンが点滅して駐車再生が要求されます。

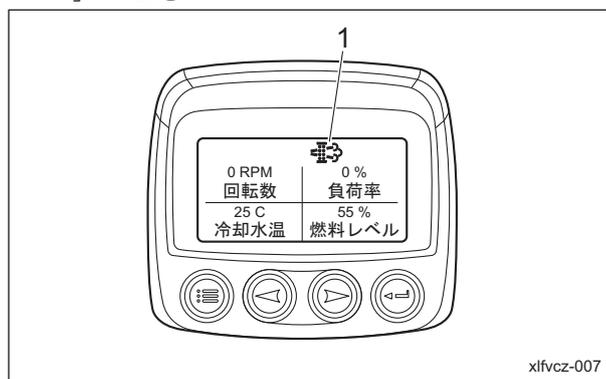
■「PM 堆積レベルが「レベル 2」のとき：

重要

PM 堆積レベルが「レベル 2」のとき、駐車再生要求を無視して移動や刈り込み作業を続けた場合、PM 堆積レベルが「レベル 3」になります。

駐車再生は以下の手順で行ってください。

- PM 堆積レベルが「レベル 2」のときに再生アイコンが点滅します。
DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生モード」のとき：

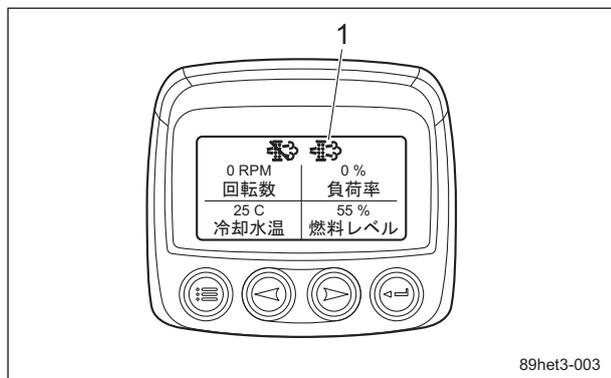


駐車再生_001

メンテナンス

1	再生アイコン
---	--------

DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生禁止モード」のとき：



駐車再生_002

1	再生アイコン
---	--------

- 移動や刈り込み作業を中断してください。
- この機械を安全な場所に駐車してください。
- 駐車ブレーキをかけてください。
- スロットル開度を0%（アイドリング）にしてください。
- DPF 駐車再生スイッチを押してください。
駐車再生が開始され、再生アイコンが点滅から点灯に切り替わります。
- 再生が完了すると再生アイコンは消灯します。
■ 「PM 堆積レベルが「レベル3」のとき：

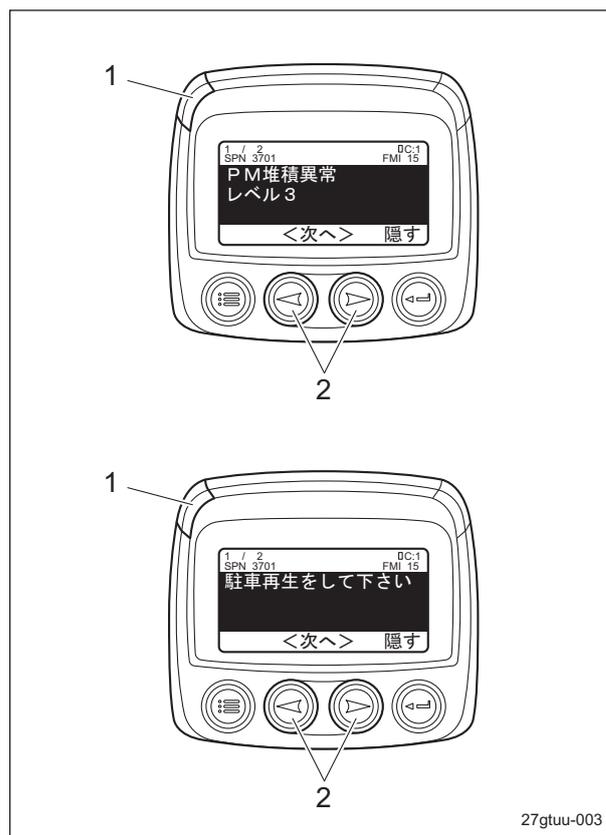
重要

PM 堆積レベルが「レベル3」のとき、駐車再生要求を無視して移動や刈り込み作業を続けた場合、PM 堆積レベルが「レベル4」になります。これ以上、移動や刈り込み作業を続けると、この機械の操作でユーザーによる再生が不可能になります。

重要

PM 堆積レベルが「レベル3」になると自動再生がされません。
速やかに駐車再生を行ってください。

- PM 堆積レベルが「レベル3」のときに以下の状態になります。
 - モニター画面に「PM 堆積異常レベル3」が表示されます。
矢印キーを押すと「駐車再生をしてください」の表示に変わります。
 - LED（黄色）が点灯します。
 - エンジン出力が50%に制限されます。



駐車再生_003

1	LED（黄色）
2	矢印キー

- 移動や刈り込み作業を中断してください。
- この機械を安全な場所に駐車してください。
- 駐車ブレーキをかけてください。
- スロットル開度を0%（アイドリング）にしてください。
- DPF 駐車再生スイッチを押してください。
駐車再生が開始され、再生アイコンが点滅から点灯に切り替わります。
- 再生が完了すると再生アイコンは消灯します。

手動再生

危険

DPF の再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性がある場所では再生を行わないでください。

重要

DPF 再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。
再生の中断や、警告を無視して移動や刈り込み作業を継続すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。

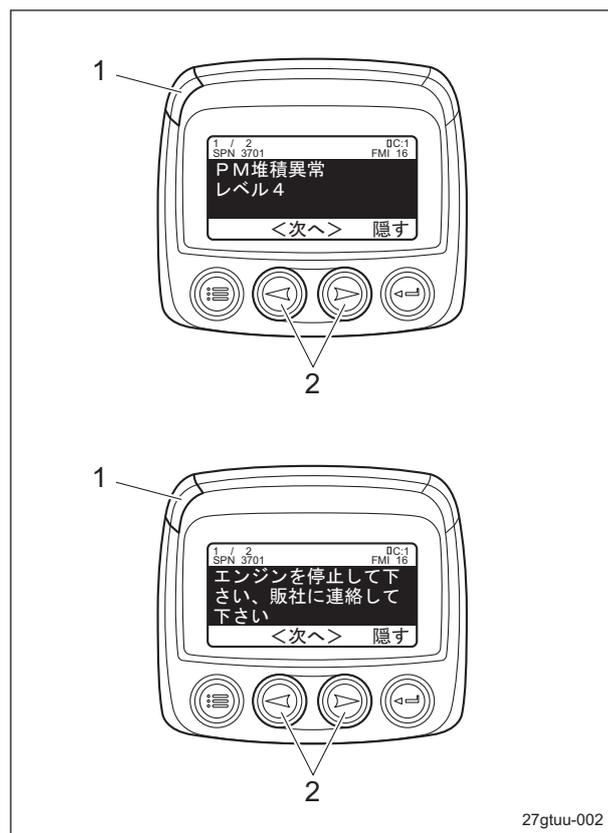
手動再生とは、多量の PM が堆積しており、通常の自動再生または駐車再生では再生できないため、専門知識をもった者のみが故障診断ツールを使って、DPF の再生を行うことです。PM 堆積レベルに関係なく実行できます。

- DPF 再生中、この機械は継続して移動や刈り込み作業をすることができません。
 - ユーザーによる再生が不可能です。(故障診断ツールが必要)
 - PM 堆積レベルが「レベル 4」のときに実行します。
 - PM 堆積レベルに関係なく以下のときに実行します。
 1. DPF を交換したとき
 2. ECU を交換したとき
- 「PM 堆積レベルが「レベル 4」のとき :

重要

PM 堆積レベルが「レベル 4」のとき、手動再生要求を無視して移動や刈り込み作業を続けた場合、PM 堆積レベルが「レベル 5」になります。これ以上、移動や刈り込み作業を続けるとエンジンや DPF に致命的なトラブルが生じます。

1. PM 堆積レベルが「レベル 4」のときに以下の状態になります。
 - モニター画面に「PM 堆積異常レベル 4」が表示されます。
矢印キーを押すと「エンジンを停止してください、販社に連絡してください」の表示に変わります。
 - LED（黄色）が点灯します。
 - エンジン出力が 50%に制限されます。



27gtuu-002

手動再生_001

1	LED（黄色）
2	矢印キー

2. 移動や刈り込み作業を中断してください。
3. この機械を安全な場所に駐車してください。
4. 駐車ブレーキをかけてください。
5. エンジンを停止してください。
6. 販売店に連絡して手動再生を依頼してください。

メンテナンス

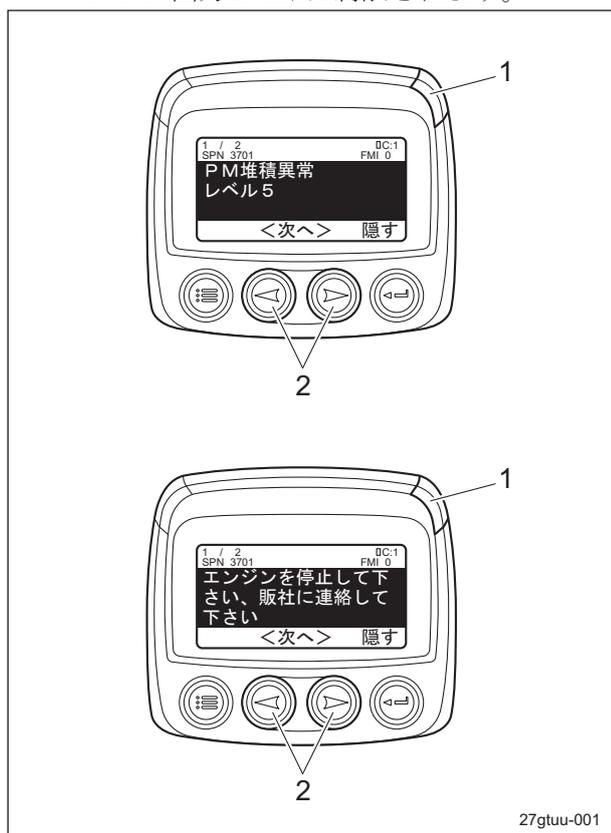
DPF 交換

DPF に過剰に PM が堆積したり、アッシュ（灰）が堆積した場合、再生は禁止されているため、DPF の交換が必要になります。

- この機械は継続して移動や刈り込み作業をすることができません。
- 再生が不可能です。
- PM 堆積レベルが「レベル 5」のとき、または「再生頻度過多」のときに交換します。

■PM 堆積レベルが「レベル 5」のとき：

1. PM 堆積レベルが「レベル 5」のときに以下の状態になります。
 - モニター画面に「PM 堆積異常レベル 5」が表示されます。
矢印キーを押すと「エンジンを停止してください、販売に連絡してください」の表示に変わります。
 - LED（赤色）が点灯します。
 - エンジン出力が 50%に制限されます。



DPF 交換_001

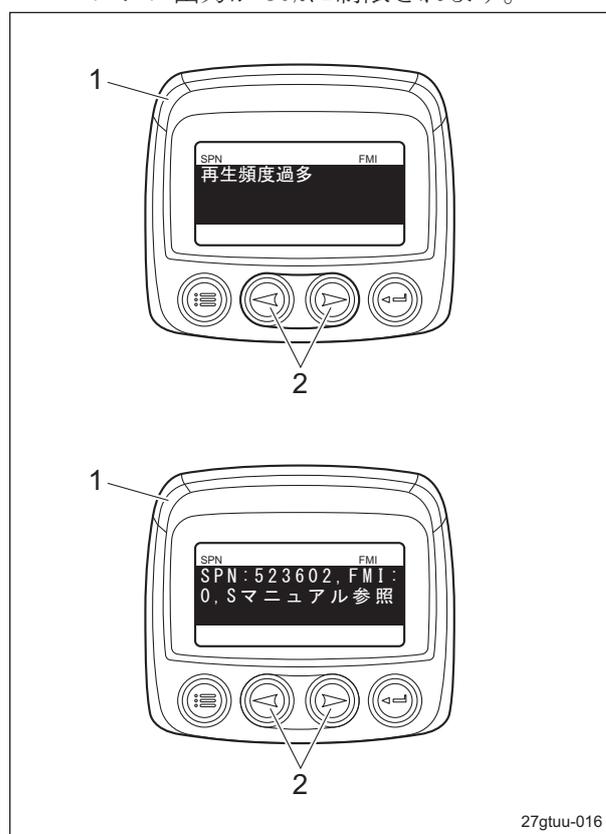
1	LED（赤色）
2	矢印キー

2. 移動や刈り込み作業を中断してください。
3. この機械を安全な場所に駐車してください。
4. 駐車ブレーキをかけてください。

5. エンジンを停止してください。
6. 販売店に連絡して DPF の交換を依頼してください。

■「再生頻度過多」のとき：

1. 「再生頻度過多」のときに以下の状態になります。
 - モニター画面に「再生頻度過多」が表示されます。
矢印キーを押すと矯正行動の表示に変わります。
 - LED（黄色）が点灯します。
 - エンジン出力が 50%に制限されます。



DPF 交換_002

1	LED（黄色）
2	矢印キー

2. 移動や刈り込み作業を中断してください。
3. この機械を安全な場所に駐車してください。
4. 駐車ブレーキをかけてください。
5. エンジンを停止してください。
6. 販売店に連絡して DPF の交換を依頼してください。

DPF 再生条件

⚠ 危険

DPF の再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性がある場所では再生を行わないでください。

重要

DPF の再生を中断すると、PM（すす）が除去しきれないため、次の再生がすぐに要求されることとなります。

重要

バッテリー電圧が不足していると DPF の再生ができません。

重要

DPF の再生は、冷却水温が 65°C 以上のときに行ってください。

- DPF の自動再生を開始するには、以下の 2 つの条件を満たさなければなりません。
 - DPF 自動再生禁止スイッチを「自動再生モード」に設定する。（自動再生禁止アイコンは消灯）
 - 冷却水温を 65° C 以上にする。
- DPF の駐車再生、手動再生を開始するには、以下の 4 つの条件を満たさなければなりません。
 - 駐車ブレーキをかける。
 - 走行ペダルを中立にする。
 - スロットル開度を 0 %（アイドリング）にする。
 - 冷却水温を 65° C 以上にする。
- DPF が再生している状態で、以下の条件にすると、再生が解除されます。
 - 再生開始の条件を破る。
 - エンジンキーを「OFF」の位置にする。

PM 堆積レベル

レベル 0

DPF の再生の必要はありません。

レベル 1

⚠ 危険

DPF の再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性がある場所では再生を行わないでください。

⚠ 注意

通常は DPF 自動再生禁止スイッチを「自動再生モード」にしてください。ただし、火災の可能性がある場所での作業は、DPF 自動再生禁止スイッチを「自動再生禁止モード」にしてください。

重要

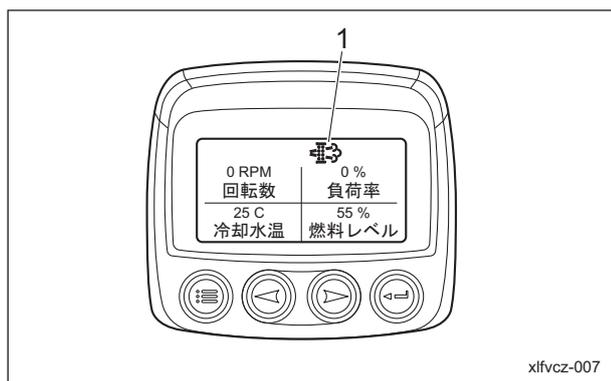
DPF 再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。再生の中断や、警告を無視して移動や刈り込み作業を継続すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。

重要

PM 堆積レベルが「レベル 1」のとき、自動再生開始から 30 分経過しても再生しきれなかった場合は、PM 堆積レベルが「レベル 2」になります。

- DPF 再生中、この機械は継続して移動や刈り込み作業をすることができます。
 - この機械の操作でユーザーによる再生が可能です。（故障診断ツール不要）
- DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生モード」のとき：
- 自動再生の条件がそろると自動再生が開始され、再生アイコンが点灯します。
 - 再生が完了すると再生アイコンは消灯します。

メンテナンス



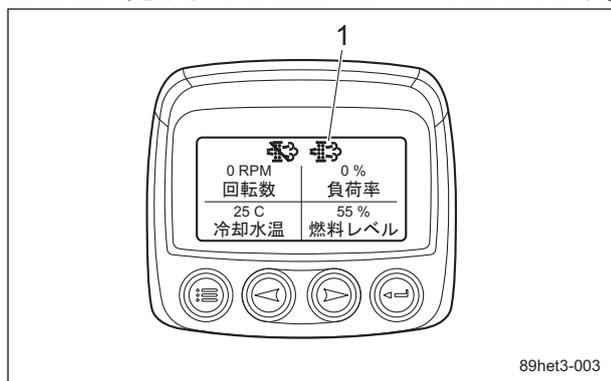
xlfvcz-007

レベル 1_001

1 再生アイコン

■DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生禁止モード」のとき：

1. 再生アイコンが点滅します。
2. 自動再生禁止スイッチを「自動再生モード」に切り替えてください。
3. 自動再生の条件がそろそろと自動再生が開始され、再生アイコンが点滅から点灯に切り替わります。
4. 再生が完了すると再生アイコンは消灯します。



89het3-003

レベル 1_002

1 再生アイコン

レベル 2

⚠ 危険

DPF の再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性がある場所では再生を行わないでください。

⚠ 注意

通常は DPF 自動再生禁止スイッチを「自動再生モード」にしてください。
ただし、火災の可能性がある場所での作業は、DPF 自動再生禁止スイッチを「自動再生禁止モード」にしてください。

重要

DPF 再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。
再生の中断や、警告を無視して移動や刈り込み作業を継続すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。

重要

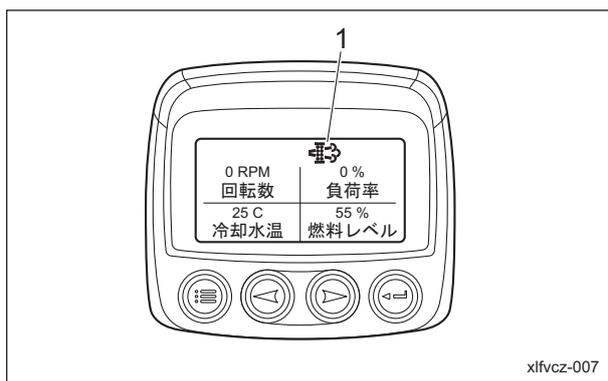
PM 堆積レベルが「レベル 2」のとき、駐車再生要求を無視して移動や刈り込み作業を続けた場合、PM 堆積レベルが「レベル 3」になります。

- DPF 自動再生中、この機械は継続して移動や刈り込み作業をすることができます。
- DPF 駐車再生中、この機械は継続して移動や刈り込み作業をすることができません。
- この機械の操作でユーザーによる再生が可能です。(故障診断ツール不要)

〈自動再生〉

■DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生モード」のとき：

1. 自動再生の条件がそろそろと自動再生が開始され、再生アイコンが点灯します。
2. 再生が完了すると再生アイコンは消灯します。

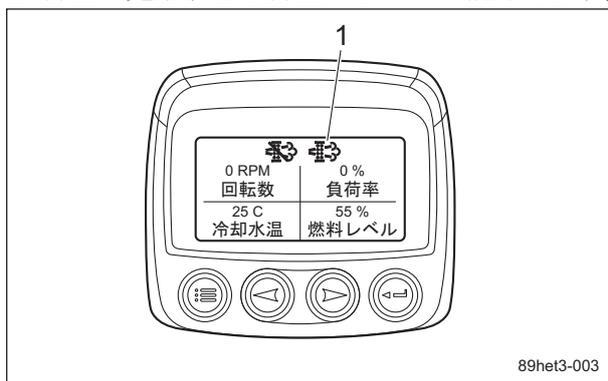


レベル 2_001

1 再生アイコン

■DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生禁止モード」のとき：

1. 再生アイコンが点滅します。
2. 自動再生禁止スイッチを「自動再生モード」に切り替えてください。
3. 自動再生の条件がそろそろと自動再生が開始され、再生アイコンが点滅から点灯に切り替わります。
4. 再生が完了すると再生アイコンは消灯します。

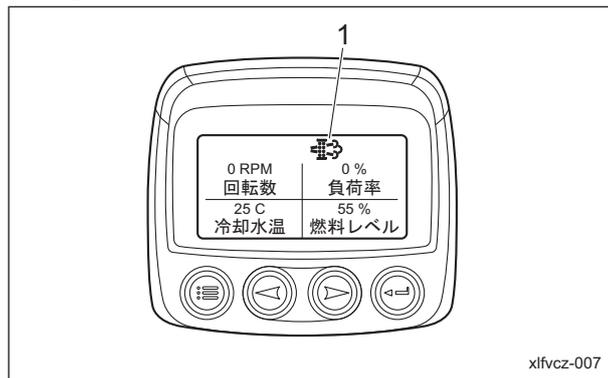


レベル 2_002

1 再生アイコン

〈駐車再生〉

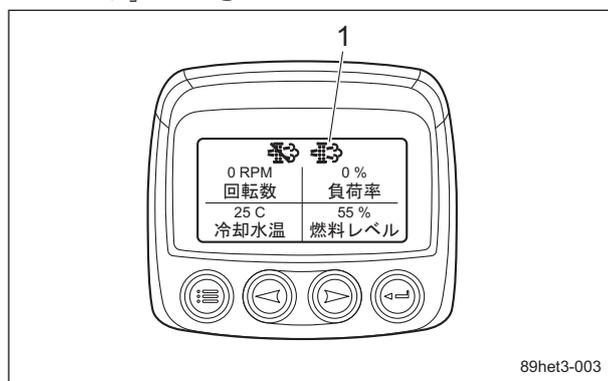
- ・ 駐車再生の実行条件は以下のとおりです。
 1. 駐車ブレーキがかかっている
 2. 走行ペダルが中立である
 3. スロットル開度が0%（アイドリング）状態である
- 1. 再生アイコンが点滅します。
DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生モード」のとき：



レベル 2_003

1 再生アイコン

DPF 自動再生禁止スイッチが「自動再生禁止モード」のとき：



レベル 2_004

1 再生アイコン

2. 移動や刈り込み作業を中断してください。
3. この機械を安全な場所に駐車してください。
4. 駐車ブレーキをかけてください。
5. スロットル開度を0%（アイドリング）にしてください。
6. DPF 駐車再生スイッチを押してください。
駐車再生が開始され、再生アイコンが点滅から点灯に切り替わります。
7. 再生が完了すると再生アイコンは消灯します。

メンテナンス

レベル 3

⚠ 危険

DPF の再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性のある場所では再生を行わないでください。

重要

DPF 再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。
再生の中断や、警告を無視して移動や刈り込み作業を継続すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。

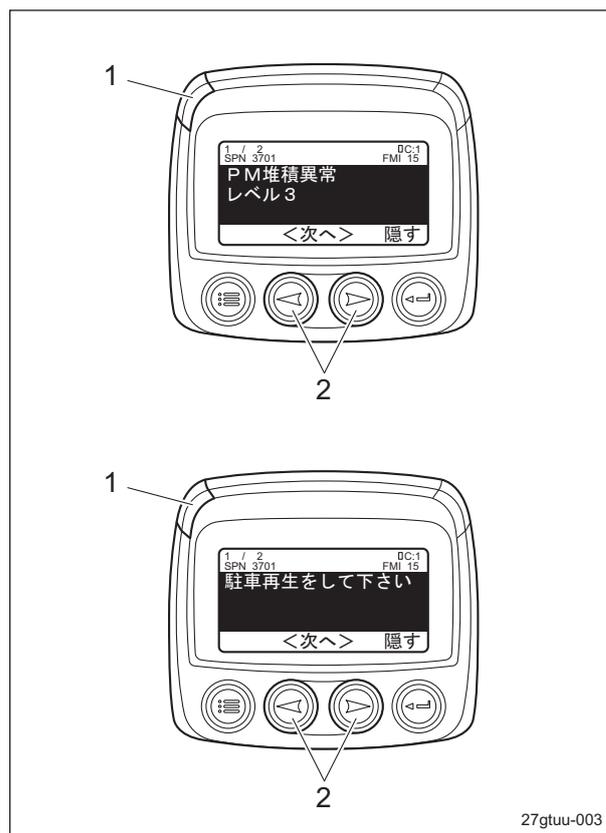
重要

PM 堆積レベルが「レベル 3」のとき、駐車再生要求を無視して移動や刈り込み作業を続けた場合、PM 堆積レベルが「レベル 4」になります。これ以上、移動や刈り込み作業を続けると、この機械の操作でユーザーによる再生が不可能になります。

重要

PM 堆積レベルが「レベル 3」になると自動再生がされません。
速やかに駐車再生を行ってください。

- DPF 再生中、この機械は継続して移動や刈り込み作業をすることができません。
 - この機械の操作でユーザーによる再生が可能です。(故障診断ツール不要)
1. PM 堆積レベルが「レベル 3」のときに以下の状態になります。



27gtuu-003

レベル 3_001

1	LED (黄色)
2	矢印キー

- モニター画面に「PM 堆積異常レベル 3」が表示されます。
矢印キーを押すと「駐車再生をしてください」の表示に変わります。
 - LED (黄色) が点灯します。
 - エンジン出力が 50%に制限されます。
2. 移動や刈り込み作業を中断してください。
 3. この機械を安全な場所に駐車してください。
 4. 駐車ブレーキをかけてください。
 5. スロットル開度を 0% (アイドリング) にしてください。
 6. DPF 駐車再生スイッチを押してください。
駐車再生が開始され、再生アイコンが点滅から点灯に切り替わります。
 7. 再生が完了すると再生アイコンは消灯します。

レベル 4

危険

DPF の再生中は排気口付近が高温になるため、火災の可能性がある場所では再生を行わないでください。

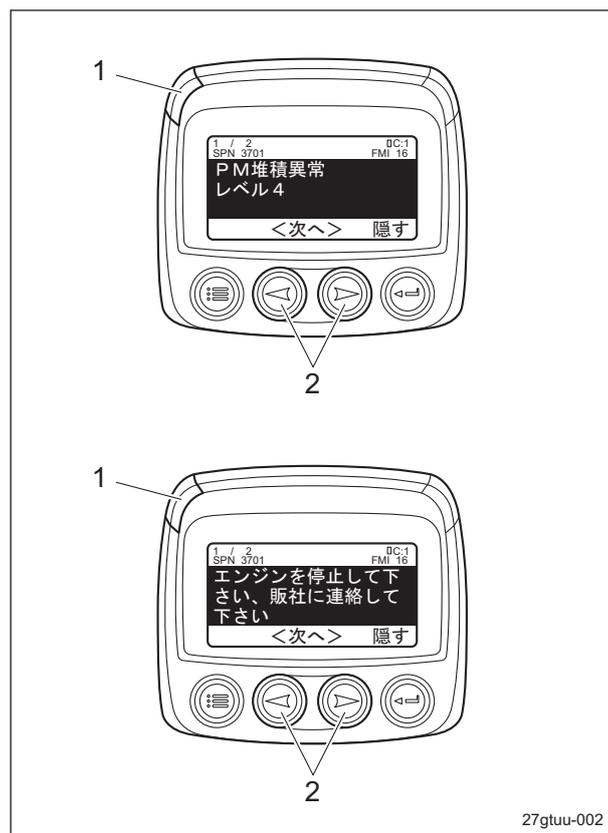
重要

DPF 再生が必要なレベルに達したときは、速やかに再生を行ってください。
再生の中断や、警告を無視して移動や刈り込み作業を継続すると、エンジンや DPF の故障の原因となります。

重要

PM 堆積レベルが「レベル 4」のとき、手動再生要求を無視して移動や刈り込み作業を続けた場合、PM 堆積レベルが「レベル 5」になります。これ以上、移動や刈り込み作業を続けるとエンジンや DPF に致命的なトラブルが生じます。

- DPF 再生中、この機械は継続して移動や刈り込み作業をすることができません。
 - ユーザーによる再生が不可能です。(故障診断ツールが必要)
1. PM 堆積レベルが「レベル 4」のときに以下の状態になります。



レベル 4_001

1	LED (黄色)
2	矢印キー

- モニター画面に「PM 堆積異常レベル 4」が表示されます。
矢印キーを押すと「エンジンを停止してください、販売に連絡してください」の表示に変わります。
 - LED (黄色) が点灯します。
 - エンジン出力が 50%に制限されます。
2. 移動や刈り込み作業を中断してください。
 3. この機械を安全な場所に駐車してください。
 4. 駐車ブレーキをかけてください。
 5. エンジンを停止してください。
 6. 販売店に連絡して手動再生を依頼してください。

メンテナンス

レベル 5

DPF に過剰に PM が堆積したり、アッシュ（灰）が堆積した場合、再生は禁止されているため、DPF の交換が必要になります。

- この機械は継続して移動や刈り込み作業をすることができません。
 - 再生が不可能です。
1. PM 堆積レベルが「レベル 5」のときに以下の状態になります。



レベル 5_001

1	LED（赤色）
2	矢印キー

- モニター画面に「PM 堆積異常レベル 5」が表示されます。
矢印キーを押すと「エンジンを停止してください、販社に連絡してください」の表示に変わります。
 - LED（赤色）が点灯します。
 - エンジン出力が 50%に制限されます。
2. 移動や刈り込み作業を中断してください。
 3. この機械を安全な場所に駐車してください。
 4. 駐車ブレーキをかけてください。
 5. エンジンを停止してください。
 6. 販売店に連絡して DPF の交換を依頼してください。

ジャッキアップ

ジャッキアップについて

警告

タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず輪止めなどをして、機械が動かないようにしてください。

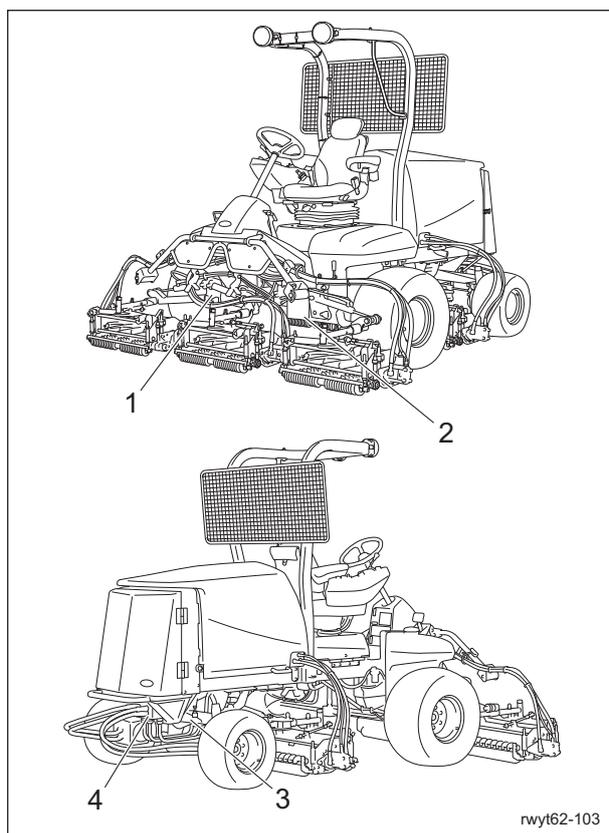
機械をコンクリートなどの堅い平らな床に確実に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作業の妨げになる障害物を取り除いてください。必要に応じ、適切なチェンブロックやホイスト、およびジャッキを使用してください。持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切なブロックを使用し、確実に支えてください。ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確実に支えられていない場合は、機械が動いたり、落ちたりするおそれがあります。人身事故の原因となります。

この機械をジャッキアップする場合は、ジャッキアップポイントに記載してある位置で行ってください。

指示された位置以外では、ジャッキアップしないでください。

フレームや部品が破損するおそれがあります。

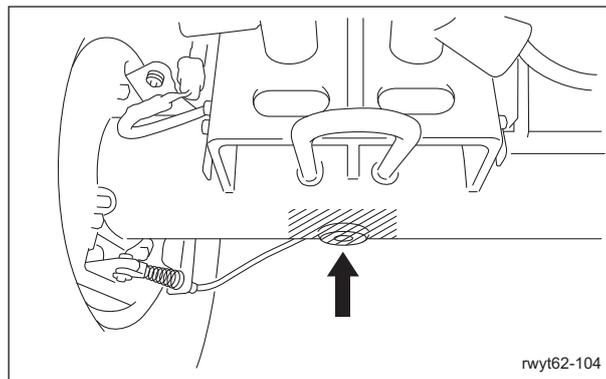
ジャッキアップポイント



ジャッキアップポイント_001

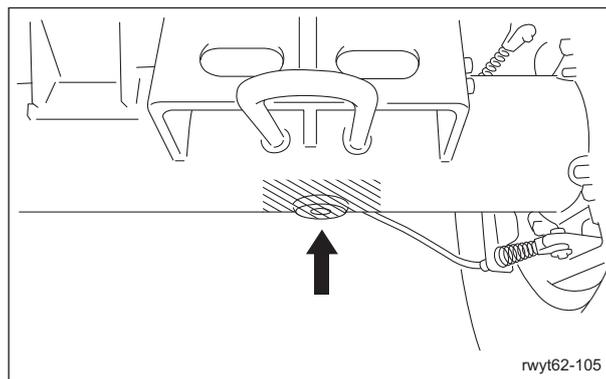
	ジャッキアップポイント
1	前部右側フレーム
2	前部左側フレーム
3	ピボット右側
4	ピボット左側

1. 前部右側フレーム



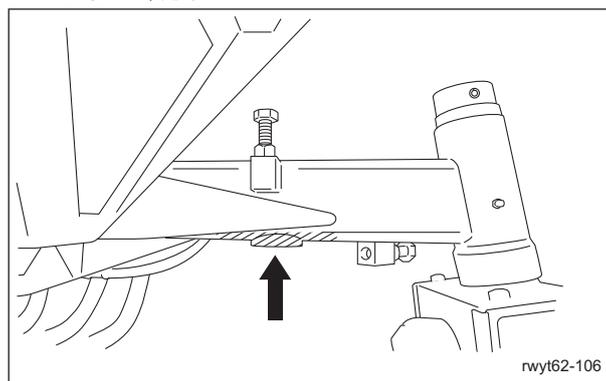
ジャッキアップポイント_002

2. 前部左側フレーム



ジャッキアップポイント_003

3. ピボット右側



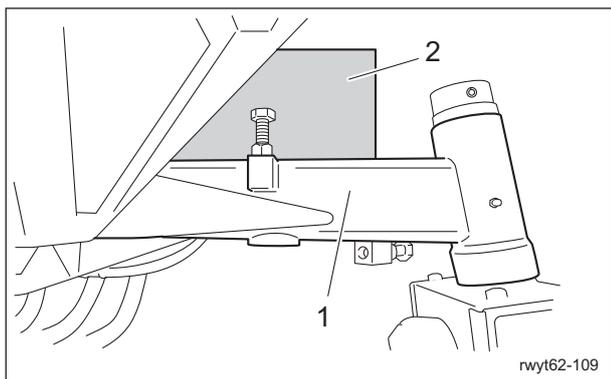
ジャッキアップポイント_004

ピボット右側でジャッキアップする場合は、ピボット右側とフレームの間に木片を置いてください。

参考：

高さが約 130 mm (5.12 in) の木片を使用してください。

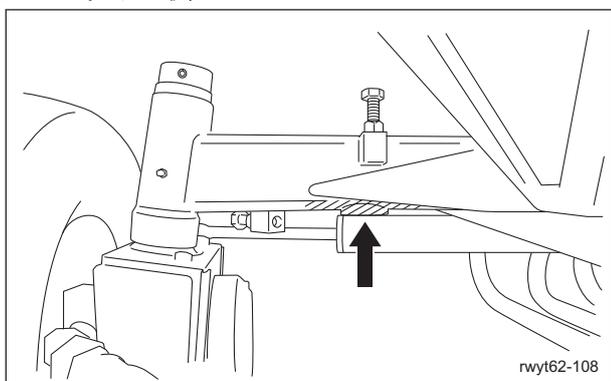
メンテナンス



ジャッキアップポイント_005

1	ピボット
2	木片

4. ピボット左側

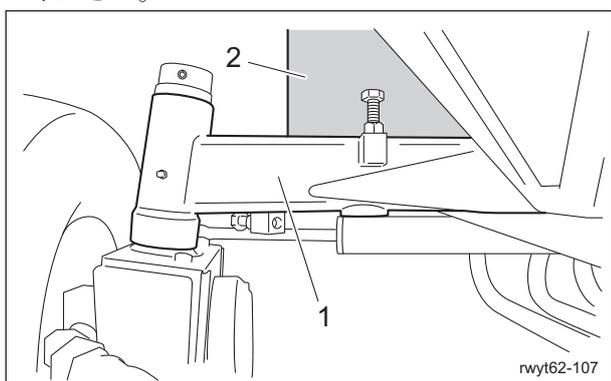


ジャッキアップポイント_006

ピボット左側でジャッキアップする場合は、ピボット左側とフレームの間に木片を置いてください。

参考：

高さが約 130 mm (5.12 in) の木片を使用してください。



ジャッキアップポイント_007

1	ピボット
2	木片

グリースアップ

グリースアップについて

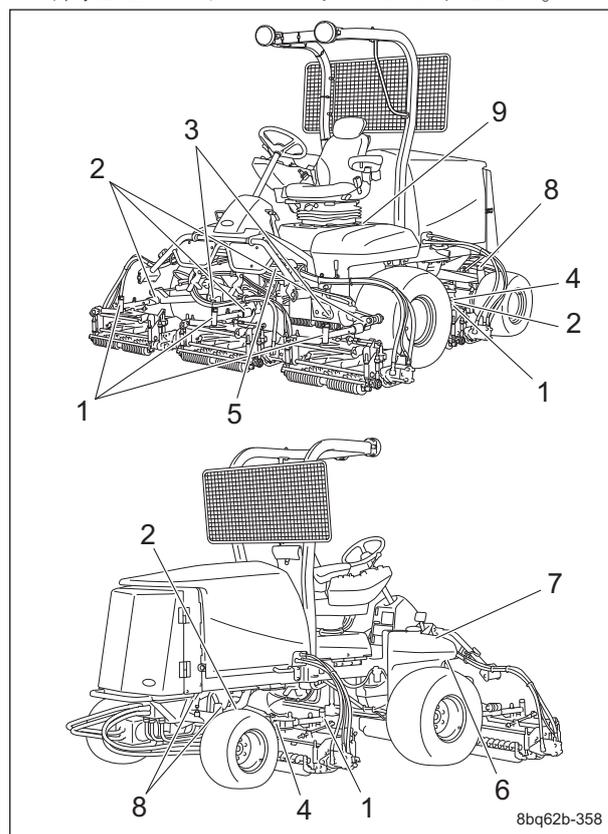
可動部がグリース切れにより、固着したり、破損したりする可能性がありますので、グリースアップの必要性があります。

メンテナンススケジュールに従って、ウレア系2号グリースでグリースアップしてください。その他指定のグリース、潤滑油を使用する場所は、「グリースアップ位置」に記載されています。指定のグリース、潤滑油でグリースアップしてください。

グリースアップ位置

次の場所にグリースニップルが取り付けられています。

50 時間ごとにグリースアップしてください。



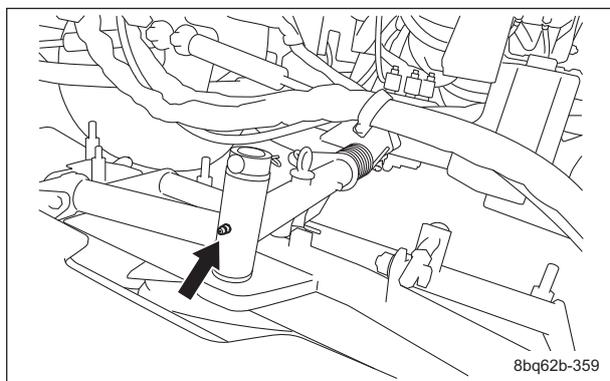
グリースアップ位置_001

	部位	注油箇所数
1	モアーム支点部	5
2	リフトアーム支点部	5
3	リフトアーム支点軸部	3
4	旋回金支点部	2
5	ブレーキペダル軸支点部	1
6	走行ペダル軸支点部	1
7	ペダルストッパー部	1
8	ピボット部	3
9	ジョイント部	1

1. モアーム支点部

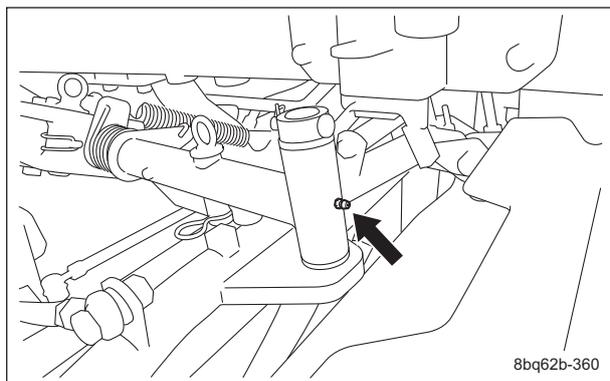
モアーム支点部に各 1 か所あります。

#1 モアユニット



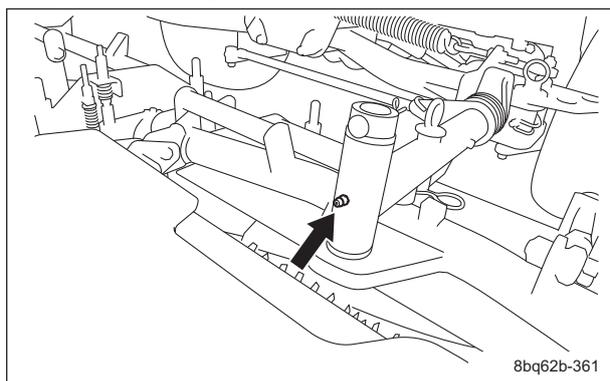
グリースアップ位置_002

#2 モアユニット



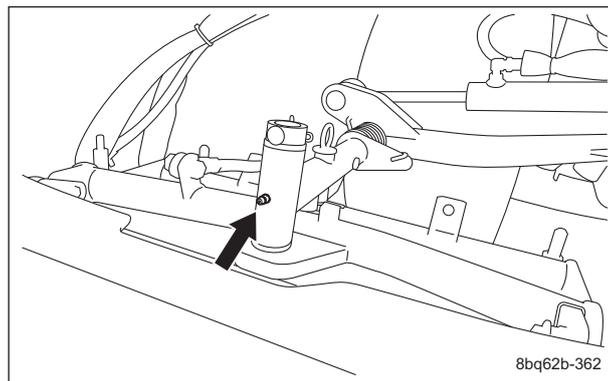
グリースアップ位置_003

#3 モアユニット



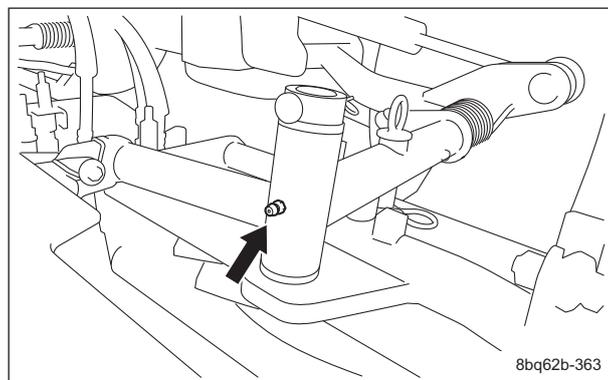
グリースアップ位置_004

#4 モアユニット



グリースアップ位置_005

#5 モアユニット

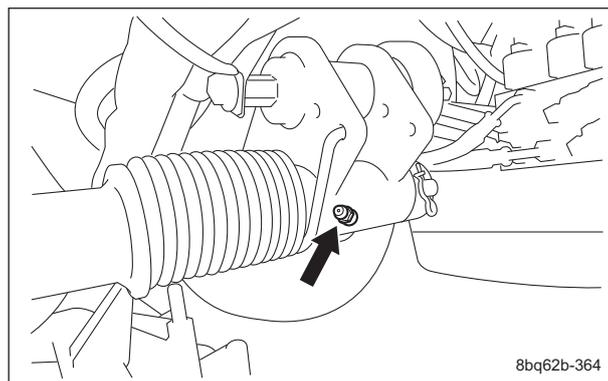


グリースアップ位置_006

2. リフトアーム支点部

モアユニットを連結しているリフトアーム支点部に各 1 か所あります。

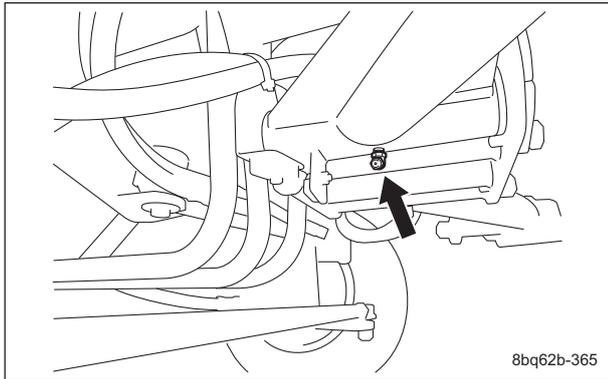
#1 モアユニット



グリースアップ位置_007

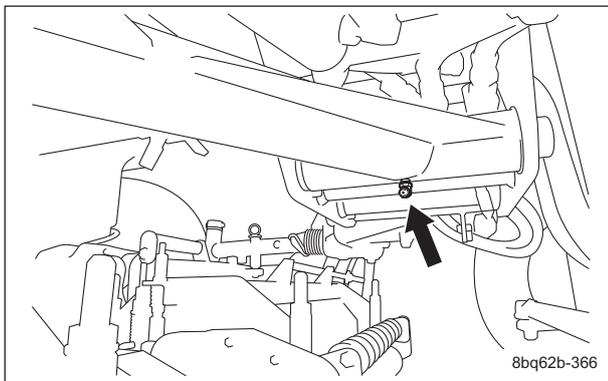
メンテナンス

#2 モアユニット



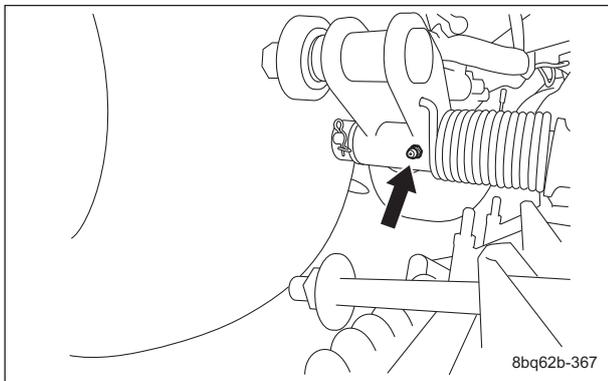
グリースアップ位置_008

#3 モアユニット



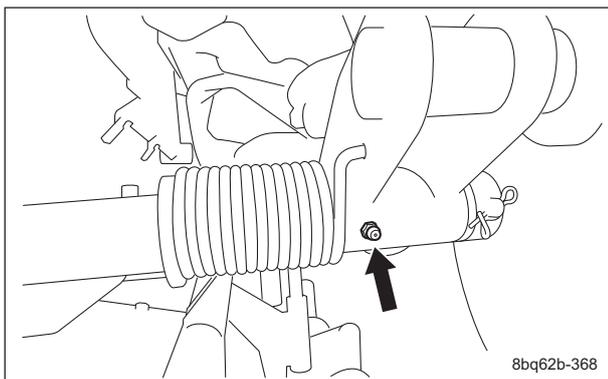
グリースアップ位置_009

#4 モアユニット



グリースアップ位置_010

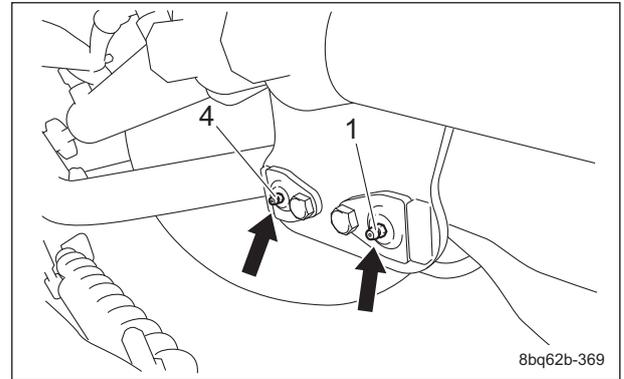
#5 モアユニット



グリースアップ位置_011

3. リフトアーム支点軸部
モアユニットを連結しているリフトアーム支点軸部に各1か所あります。

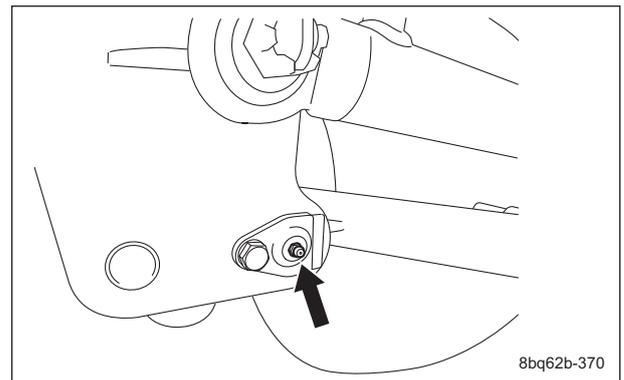
#1、#4 モアユニット



グリースアップ位置_012

1	#1 モアユニット
2	#4 モアユニット

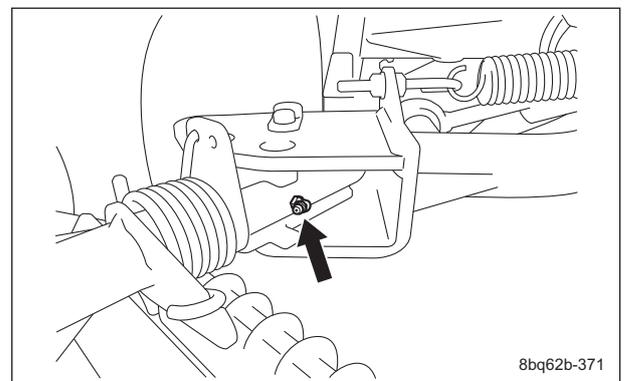
#5 モアユニット



グリースアップ位置_013

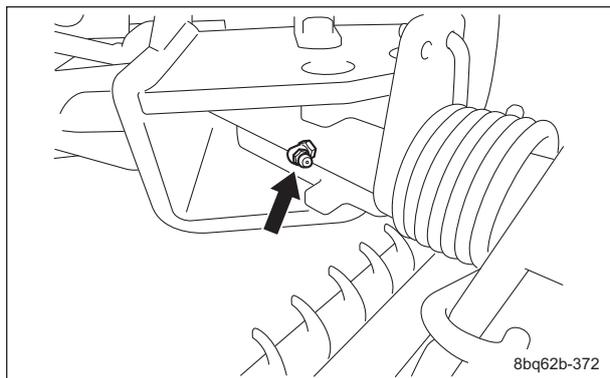
4. 旋回金支点部
モアユニットを連結している旋回金支点部に各1か所あります。

#2 モアユニット



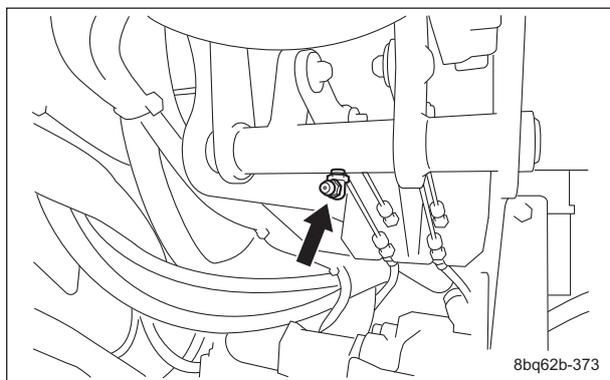
グリースアップ位置_014

#3 モアユニット



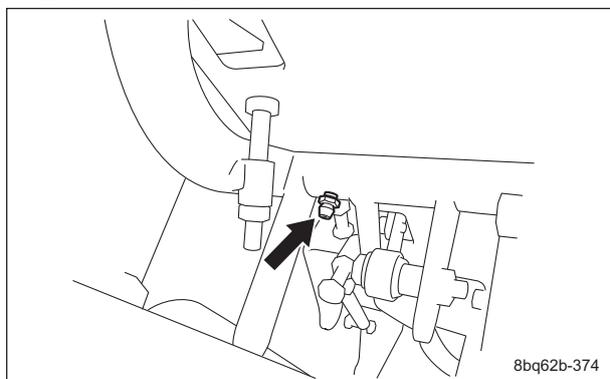
グリースアップ位置_015

5. ブレーキペダル軸支点部



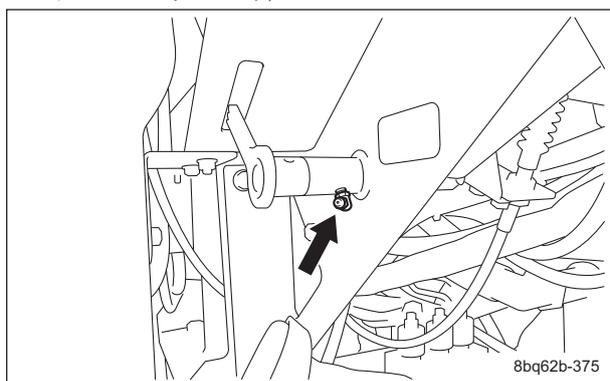
グリースアップ位置_016

6. 走行ペダル軸支点部



グリースアップ位置_017

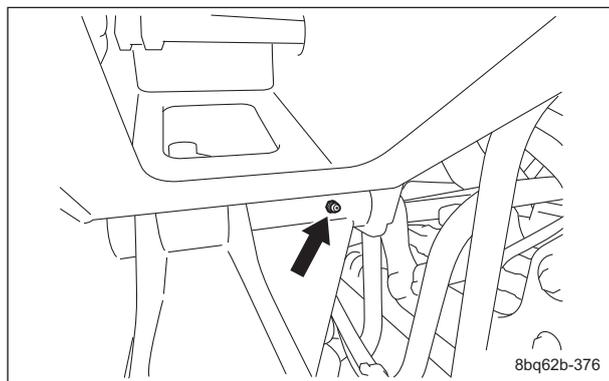
7. ペダルストッパー部



グリースアップ位置_018

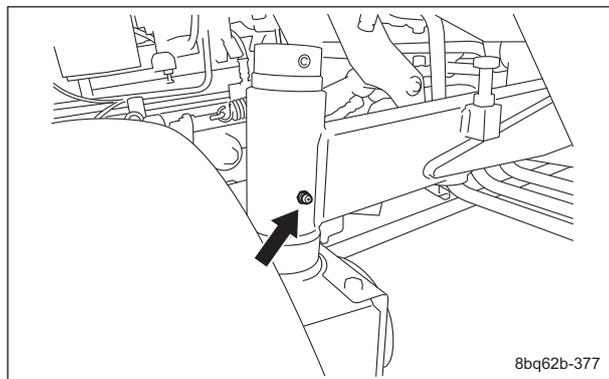
8. ピボット部

後輪中央



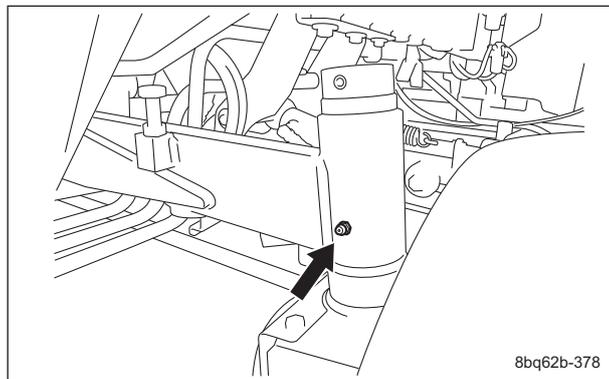
グリースアップ位置_019

後輪左側



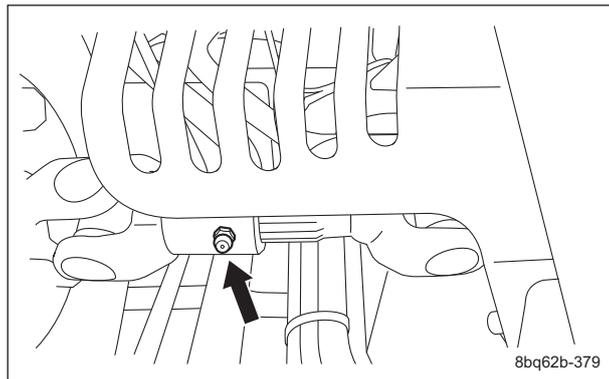
グリースアップ位置_020

後輪右側



グリースアップ位置_021

9. ジョイント部



グリースアップ位置_022

メンテナンス

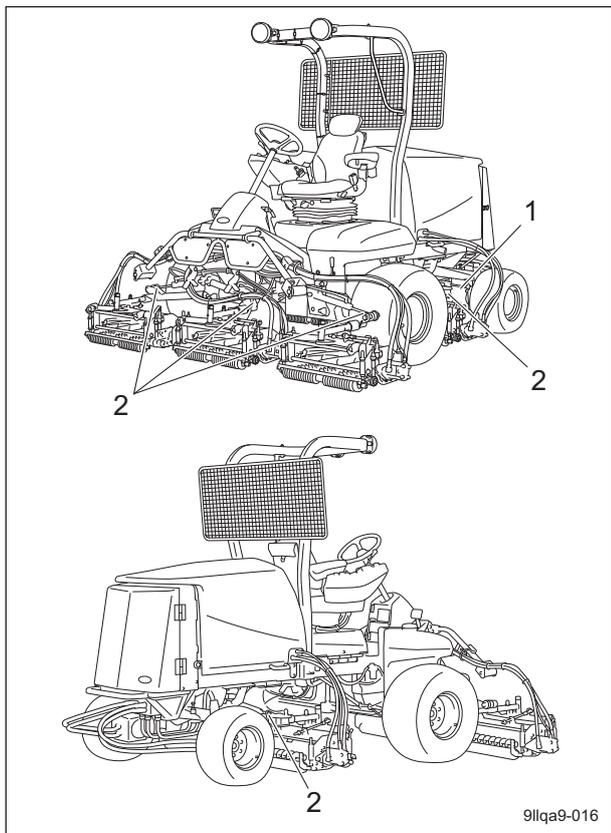
注油

注油について

可動部が固着したり、破損したりする可能性がありますので、潤滑剤を塗布する必要があります。潤滑剤を使用する場所は、「注油位置」に記載されています。潤滑剤を塗布してください。

注油位置

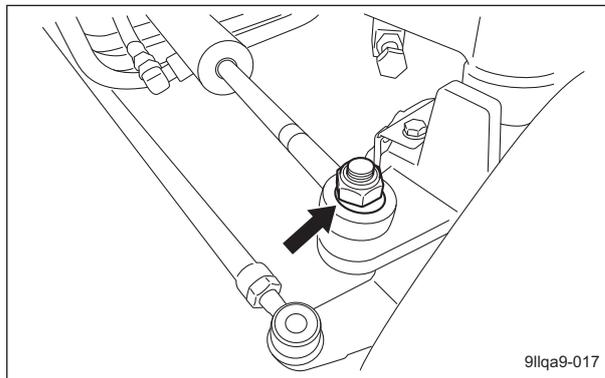
次の場所に 50 時間ごとに潤滑剤を塗布してください。



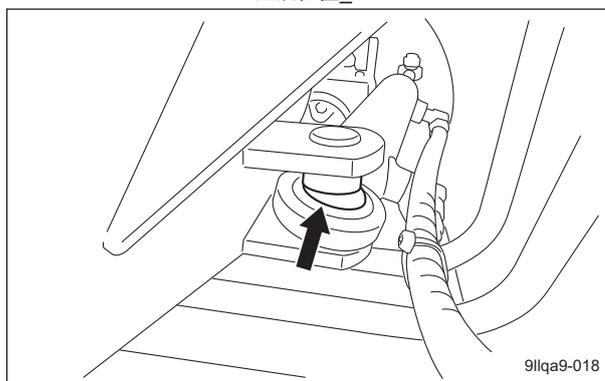
注油位置_001

	部位	注油箇所数
1	ステアリングシリンダー球面軸受部	2
2	モアシリンダー球面軸受部	10

1. ステアリングシリンダー球面軸受部
2 か所あります。



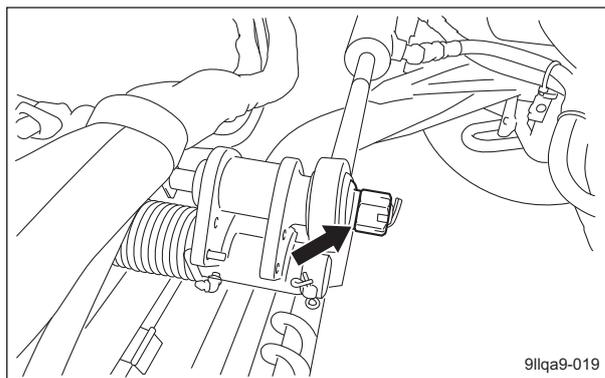
注油位置_002



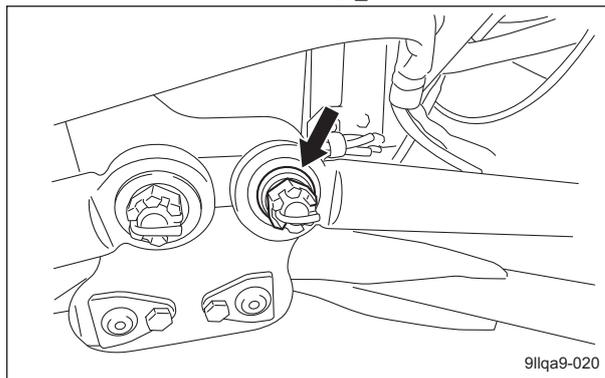
注油位置_003

2. モアシリンダー球面軸受部
モアシリンダーに各 2 か所あります。

#1 モアユニット

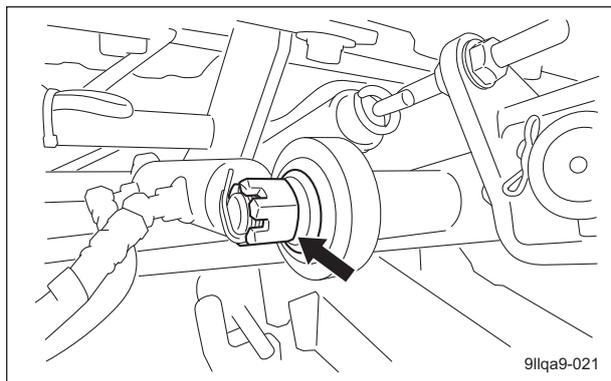


注油位置_004

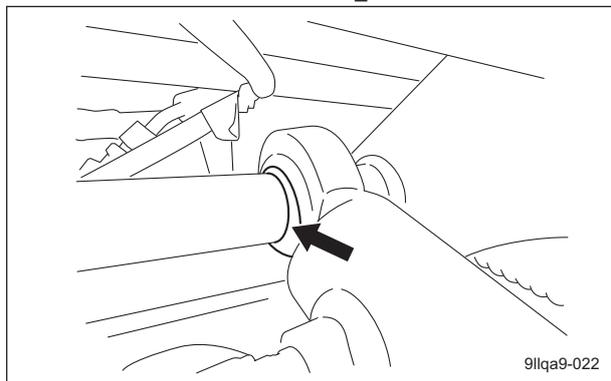


注油位置_005

#2 モアユニット

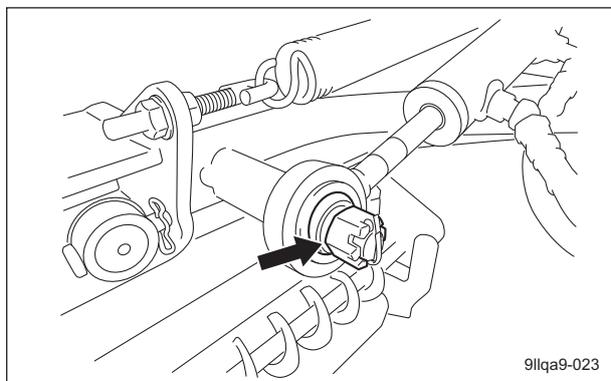


注油位置_006

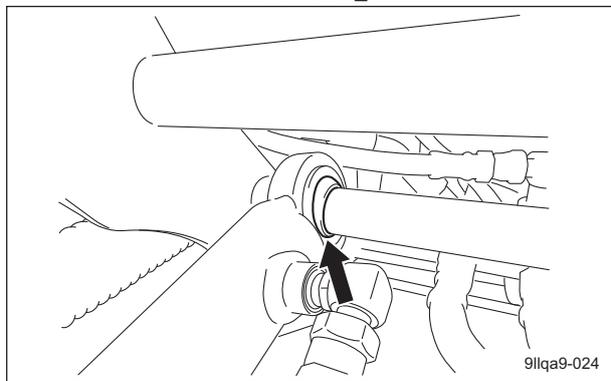


注油位置_007

#3 モアユニット

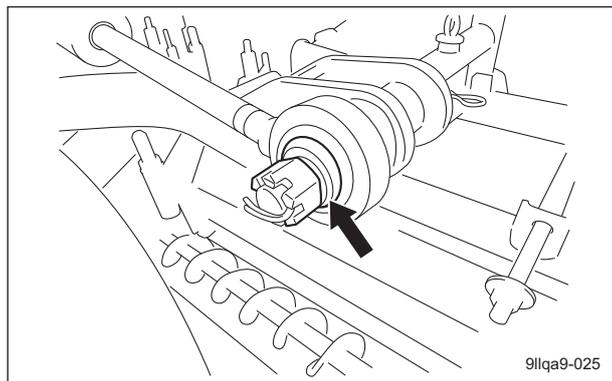


注油位置_008

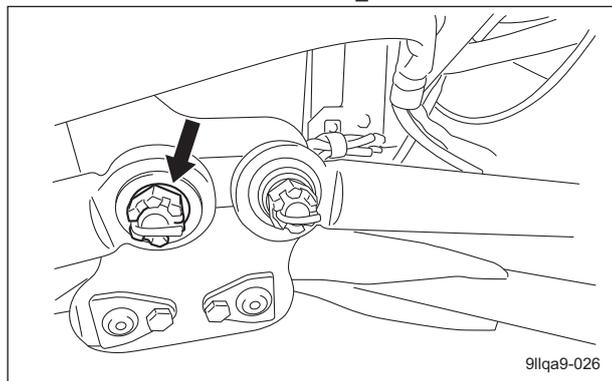


注油位置_009

#4 モアユニット

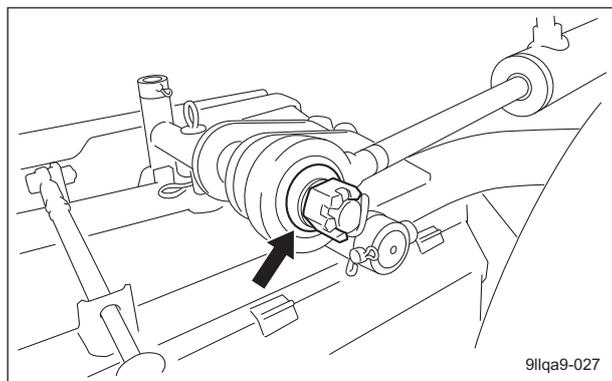


注油位置_010

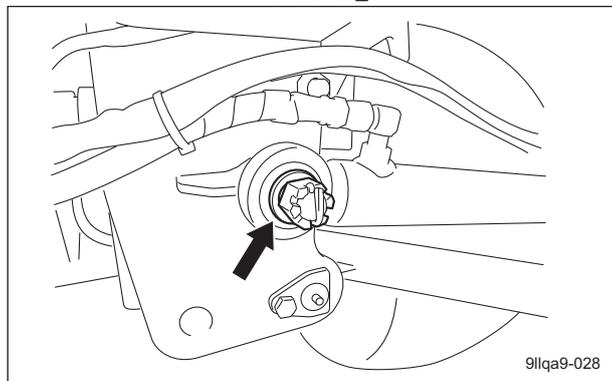


注油位置_011

#5 モアユニット



注油位置_012



注油位置_013

メンテナンス

メンテナンスの方法

#2、#3 モアユニットの旋回

⚠ 注意

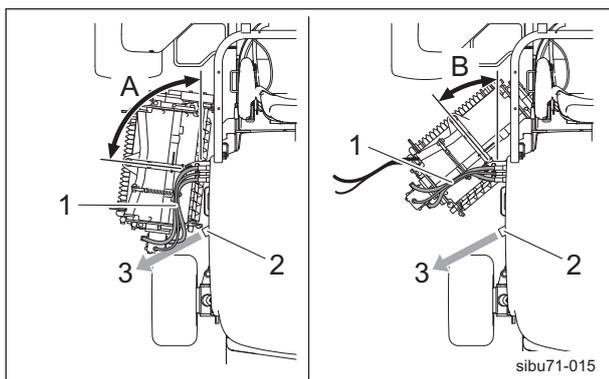
リールカッターとベッドナイフは共に刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分注意してください。

⚠ 注意

モアユニットの旋回を行う際は、排気ガスを吸わないように注意してください。

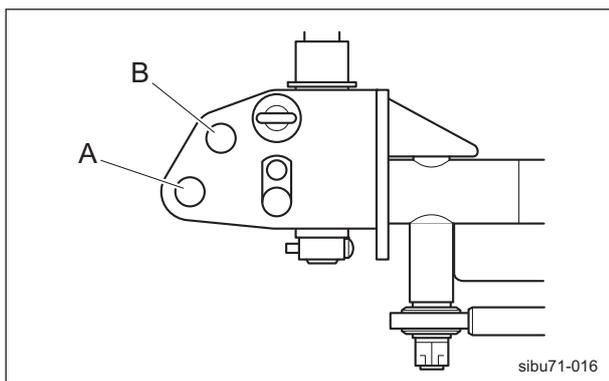
重要

バックラッピング時（エンジン運転状態）、#3 モアユニットを 45°より外側に旋回させないでください。
排気ガスが油圧ホースに当たり、損傷するおそれがあります。



#2、#3 モアユニットの旋回_001

1	油圧ホース
2	マフラー
3	排気ガス
A	モアユニット旋回角度 90°
B	モアユニット旋回角度 45°

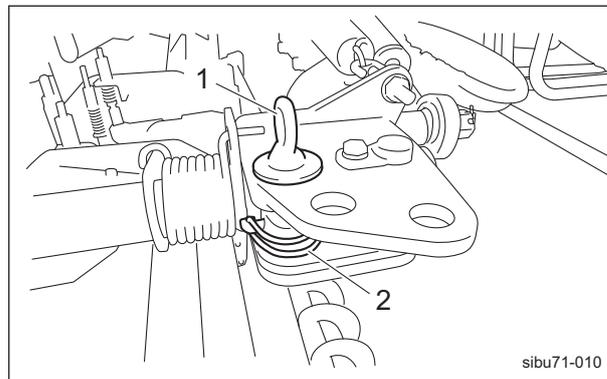


#2、#3 モアユニットの旋回_002

A	モアユニット旋回角度 90°
B	モアユニット旋回角度 45°

#2、#3 モアユニットを旋回させることにより、メンテナンスを容易に行うことができます。

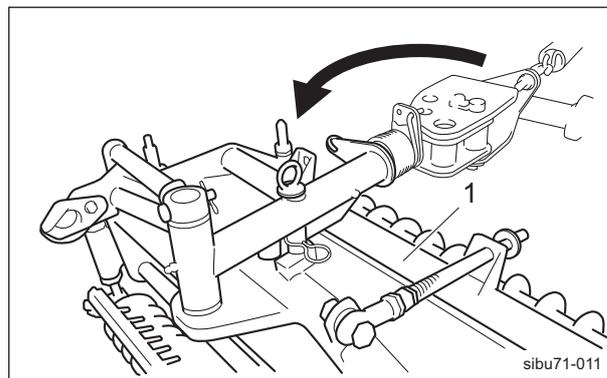
1. モアユニットを下げ、エンジンを停止します。
2. パイプピンを外し、握り付ピンを抜きます。



#2、#3 モアユニットの旋回_003

1	握り付ピン
2	パイプピン

3. モアユニットを車両本体外側に旋回させます。



#2、#3 モアユニットの旋回_004

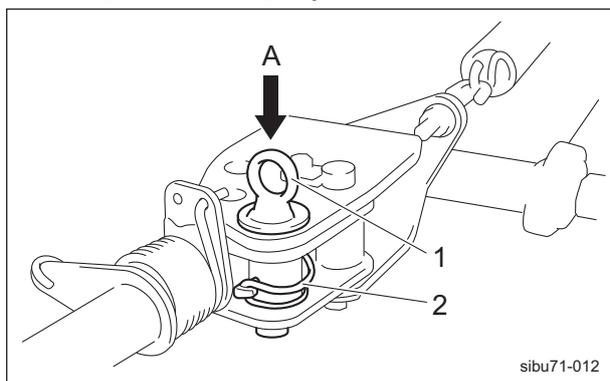
1	モアユニット
---	--------

4. 握り付ピンをメンテナンス固定用の穴に完全に差し込み、握り付ピンにパイプピンを取り付けます。

メンテナンス固定用の穴位置は、モアユニットの前後位置で異なります。

モアユニット位置：前方

メンテナンス固定用の穴は、後ろの穴 (A) を使用してください。

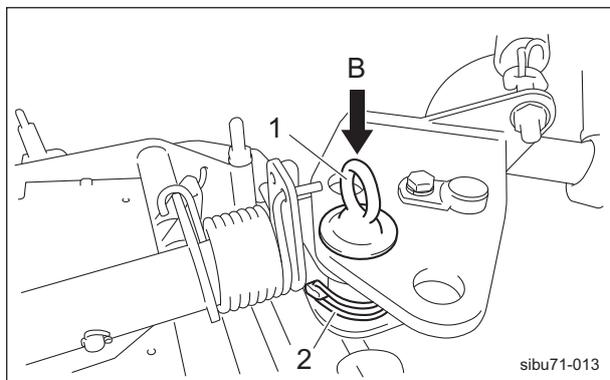


#2、#3 モアユニットの旋回_005

1	握り付ピン
2	パイプピン

モアユニット位置：後方

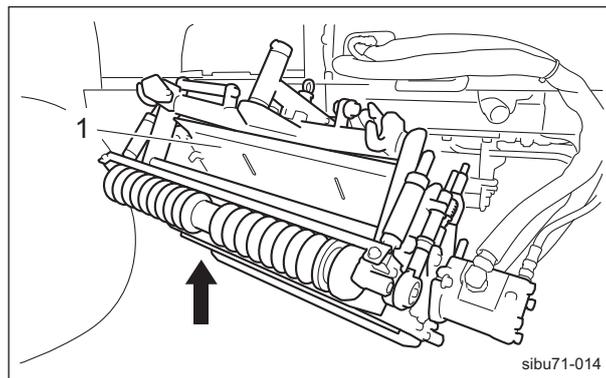
メンテナンス固定用の穴は、中央の穴 (B) を使用してください。



#2、#3 モアユニットの旋回_006

1	握り付ピン
2	パイプピン

5. エンジンを始動し、モアユニットを上げます。



#2、#3 モアユニットの旋回_007

1	モアユニット
---	--------

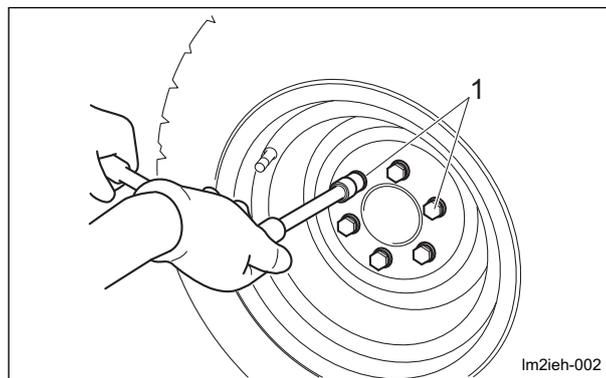
6. メンテナンス終了後は逆の手順で元の状態に戻してください。

タイヤの脱着

前輪タイヤ

前輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. ボルトを緩めます。



前輪タイヤ_001

1	調質ボルト
---	-------

2. 前部左右フレーム部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。

「ジャッキアップポイント」(Page 5-19)

3. ボルトを取り外します。
4. 取り付け座からタイヤを取り外します。

重要

ボルトを締め付ける際は、締め付け順(対角)に締め付けてください。

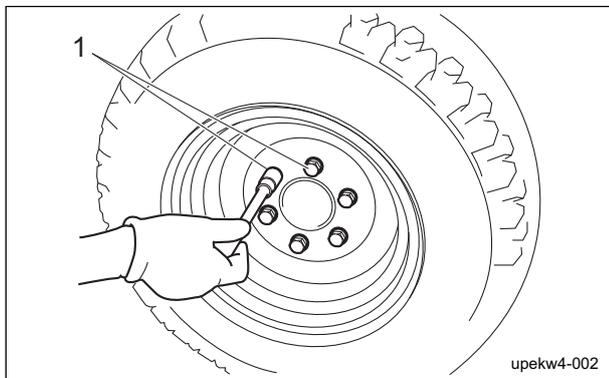
前輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

メンテナンス

後輪タイヤ

後輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. ボルトを緩めます。



後輪タイヤ_001

1	調質ボルト
---	-------

2. ピボット部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。
「ジャッキアップポイント」(Page 5-19)
3. ボルトを取り外します。
4. 取り付け座からタイヤを取り外します。

重要

ボルトを締め付ける際は、締め付け順（対角）に締め付けてください。

後輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

ベルトの張り調整

警告

ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。

重要

ベルトの張り具合の確認は、ベルトを数回転させた後に行ってください。

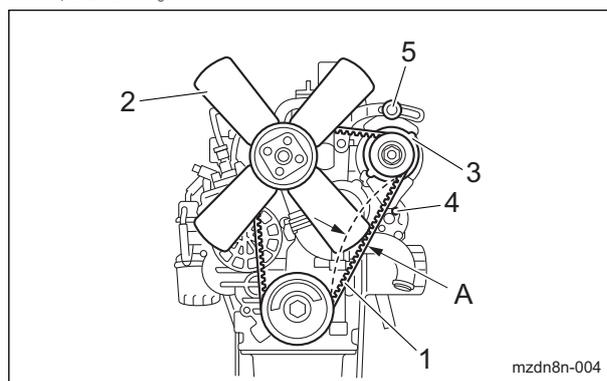
使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。

また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。

必要に応じて調整し、いつも適正な張り具合に保ってください。

ファンベルト

1. ベルトの中央部を指で押さえて、張り具合を確認してください。
2. ベルトの張りが適正でない場合は、オルタネーターを取り付けているボルト A、ボルト B を緩め、オルタネーターを動かして調整してください。



ファンベルト_001

1	ファンベルト
2	ブレード
3	オルタネーター
4	ボルト A
5	ボルト B
A	10 mm (0.39 in)

駐車ブレーキの調整

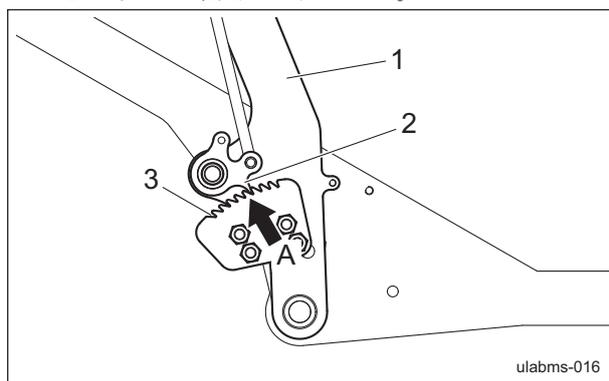
⚠ 注意

ブレーキワイヤーに亀裂、破損が無いことを確認してください。

重要

駐車ブレーキが斜面で効くこと、解除したときにブレーキを引きずっていないことを確認してください。
異常がある場合は、駐車ブレーキの調整を行ってください。

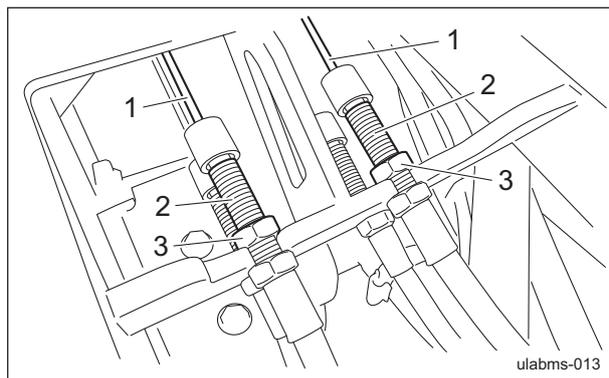
1. エンジンを停止してください。
2. ステップカバーを取り外してください。
3. 以下の手順で、駐車ブレーキを調整してください。
 - [1] ブレーキペダルを強く踏みながらロック金を踏んで、ブレーキペダルをロックし、ツメをノッチに掛けてください。



駐車ブレーキの調整_001

1	ブレーキペダル
2	ツメ
3	ノッチ
A	4-5ノッチ

- [2] ツメの位置が、上から4 - 5ノッチになるようにアジャストボルトで調節してください。



駐車ブレーキの調整_002

1	ブレーキワイヤー
2	アジャストボルト
3	ロックナット

メンテナンス

ブレーキの調整

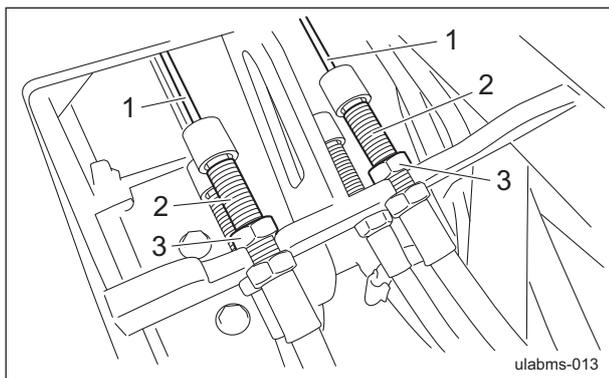
注意

ブレーキワイヤーが切れると、この機械は停止不能となります。
ブレーキワイヤーに亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。
ブレーキの効きが悪くなったら、ブレーキワイヤーの調整をしてください。

重要

ブレーキペダルの遊びは、できるだけ少なく、解除時にブレーキを引きすぎらない程度に調整してください。

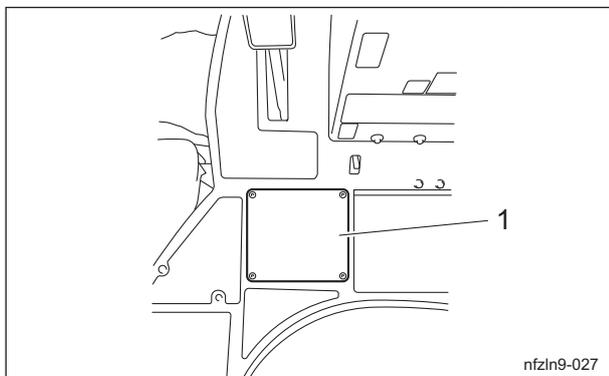
ブレーキの調整は、ブレーキワイヤーのアジャストボルトで行います。



ブレーキの調整_001

1	ブレーキワイヤー
2	アジャストボルト
3	ロックナット

1. エンジンを停止してください。
2. ステップカバーを取り外してください。

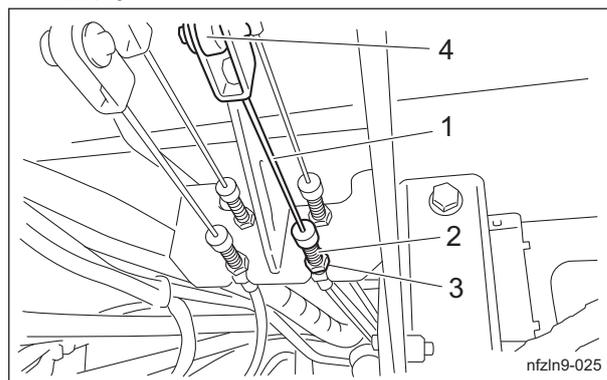


ブレーキの調整_002

1	ステップカバー
---	---------

3. ブレーキワイヤーのアジャストボルトの締め込みにより、ブレーキペダルの踏み代を調整してください。

- ブレーキペダルの遊びを大きくするとブレーキ力が弱まり、ブレーキペダルが軽くなります。
- ブレーキペダルの遊びを小さくするとブレーキ力が増し、ブレーキペダルが重くなります。



ブレーキの調整_003

1	ブレーキワイヤー
2	アジャストボルト
3	ロックナット
4	ブレーキペダル

4. エンジンを始動してください。
5. 機械を走行させて、以下の確認をしてください。
 - ブレーキ部が発熱していないことを確認してください。
 - 左右のブレーキの効きが等しいことを確認してください。

注意

左右のブレーキの効きが違うと、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

6. 左右のブレーキの効きが違う場合は、ブレーキワイヤーのアジャストボルトで微調整してください。

ブレーキの慣らし方法

ブレーキシューまたは、ブレーキパッドが消耗した場合は新品に交換してください。
交換直後、ブレーキの効きが弱い場合は、ブレーキの慣らし運転をしてください。
走行しながら、軽くブレーキ操作を行い、当たり面をすり合わせてください。

ピストンポンプの中立位置の調整

⚠ 注意

回転するタイヤに触れないように注意してください。

⚠ 注意

中立位置の調整を行う際は、この機械が動き出すおそれがあります。

ジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、すべてのタイヤが地上から離れるまで機械をジャッキアップしてください。

走行ペダルを踏んでいない状態で前進または後進する場合は、中立が出ていません。
以下の手順で調整してください。

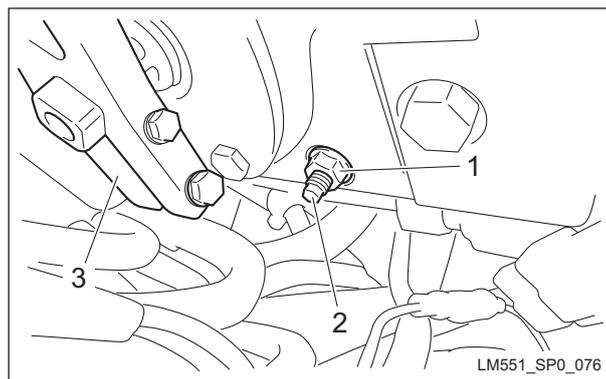
1. エンジンを停止します。
2. ジャッキアップポイントに確実にジャッキをかけ、機械をジャッキアップします。
「ジャッキアップポイント」(Page 5-19)
3. ジャッキスタンドとタイヤが接触していないことを確認してください。
4. シート下カバーを開けます。
5. エンジンを始動し、エンジン回転数を最高回転にします。
6. 中立位置を調整します。

参考：

ロックナットはサイズ 1/2 インチのスパナを使用し、トラクション調整カムはサイズ 1/4 インチのスパナを使用します。

以下の手順で、中立位置を調整してください。

- [1] ロックナットを緩めます。
- [2] すべてのタイヤが止まるまで、トラクション調整カムをゆっくり回転させます。
 - ・タイヤが前進方向に動くときは、トラクション調整カムを時計回りに回します。
 - ・タイヤが後進方向に動くときは、トラクション調整カムを反時計回りに回します。
 すべてのタイヤが止まる位置を見つけ、トラクション調整カムを保持しながら、ロックナットで固定してください。



ピストンポンプの中立位置の調整_001

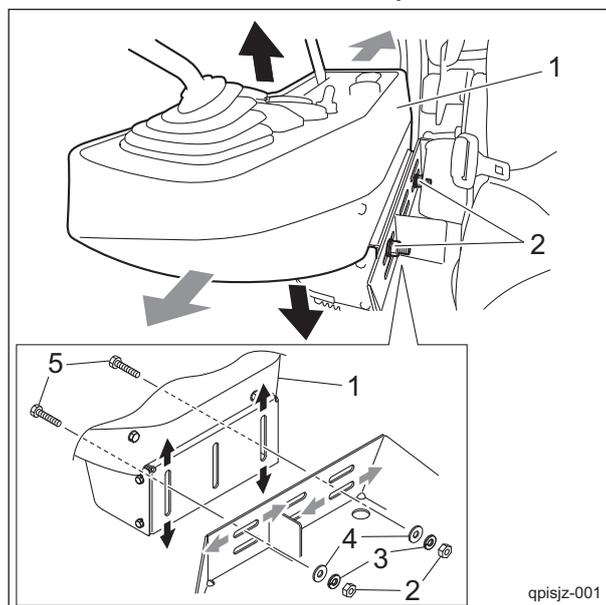
1	ロックナット
2	トラクション調整カム
3	カムレバー

7. タイヤが動かないことを確認してください。

コントロールアームの調整

コントロールアームは、上下、前後に調整できます。
オペレーターの作業姿勢に合わせて調整してください。

1. ナットを緩めてください。
2. コントロールアームを上下、前後にスライドさせて任意の位置にしてください。
3. ナットを締め付けてください。



コントロールアームの調整_001

1	コントロールアーム
2	ナット
3	S ワッシャー
4	ワッシャー
5	ボルト

メンテナンス

ストッパーの調整

重要

ストッパーは、モアユニットの種類によってストッパーの取り付け位置と取り付け方法が異なります。

ストッパーは、#2、#3 モアユニット回転時にモアアームがフレームに干渉するのを防ぐために取り付けられています。

適切な位置に取り付けてください。

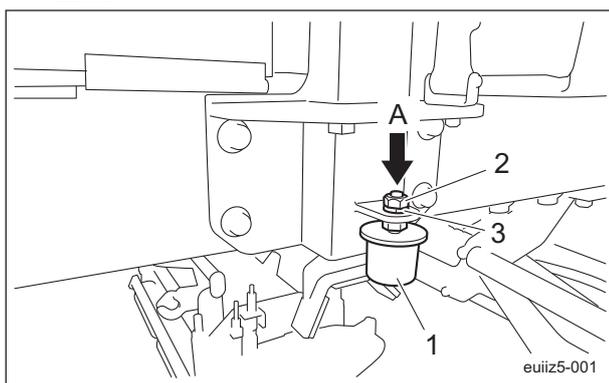
参考：

モアユニット LS66 装着の場合は、ストッパーは不要です。

モアユニットとストッパーの取り付け位置の関係は、以下のとおりです。

A：下側に装着の場合

- ・ LS62
- ・ LH52

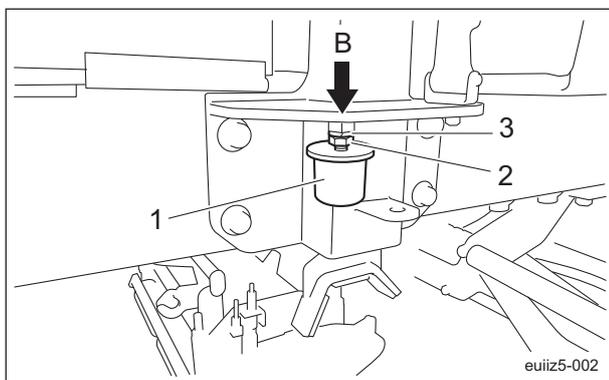


ストッパーの調整_001

1	ストッパー
2	ナット
3	S ワッシャー

B：上側に装着の場合

- ・ LH62



ストッパーの調整_002

1	ストッパー
2	ナット
3	S ワッシャー

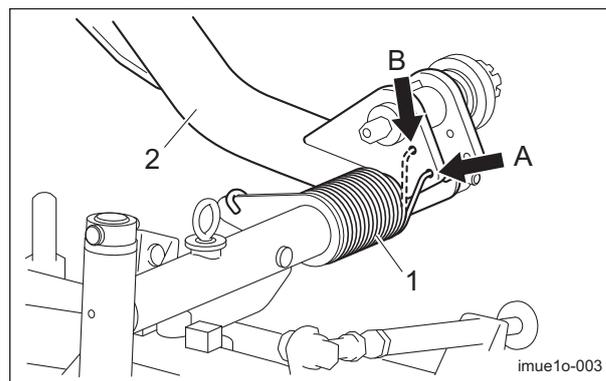
モアユニット水平スプリングの調整

ユニットの連結金には、コイルスプリングが取り付けられています。

モアユニットを水平状態に保ちます。

コイルスプリングは、リフトアーム側の穴位置で調整してください。

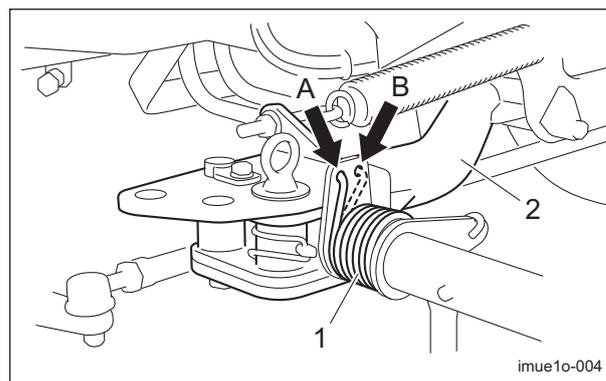
#1 モアユニット



モアユニット水平スプリングの調整_001

1	コイルスプリング
2	リフトアーム
A	22 in モアユニット
B	26 in モアユニット

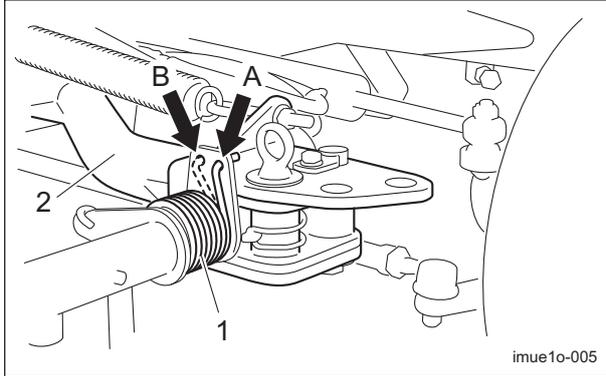
#2 モアユニット



モアユニット水平スプリングの調整_002

1	コイルスプリング
2	リフトアーム
A	22 in モアユニット
B	26 in モアユニット

#3 モアユニット

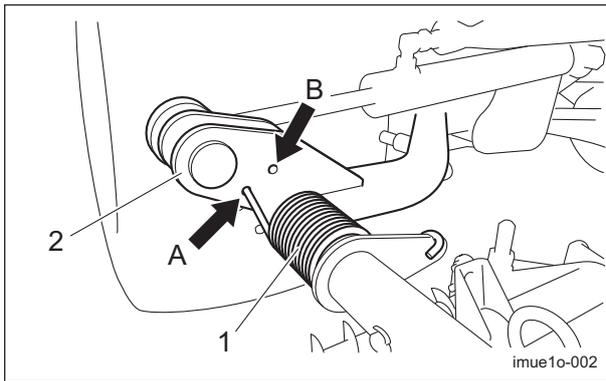


モアユニット水平スプリングの調整_003

1	コイルスプリング
2	リフトアーム
A	ばねの荷重が弱い (標準位置)
B	ばねの荷重が強い

#4 モアユニット

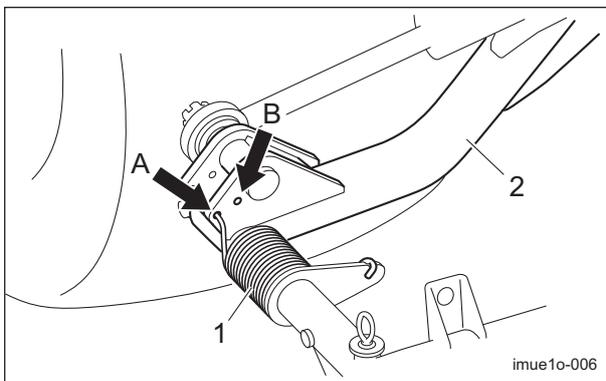
22 in モアユニット



モアユニット水平スプリングの調整_004

1	コイルスプリング
2	リフトアーム
A	ばねの荷重が弱い (標準位置)
B	ばねの荷重が強い

26 in モアユニット

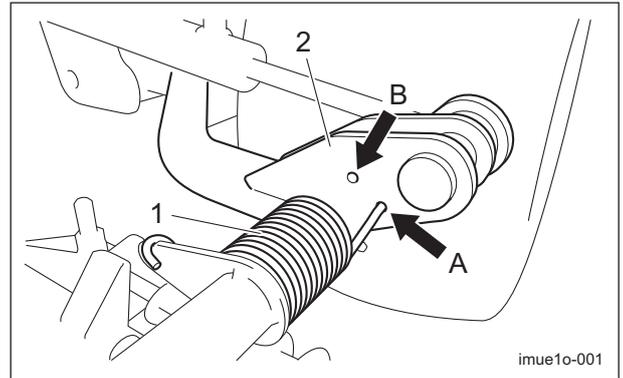


モアユニット水平スプリングの調整_005

1	コイルスプリング
2	リフトアーム
A	ばねの荷重が弱い (標準位置)
B	ばねの荷重が強い

#5 モアユニット

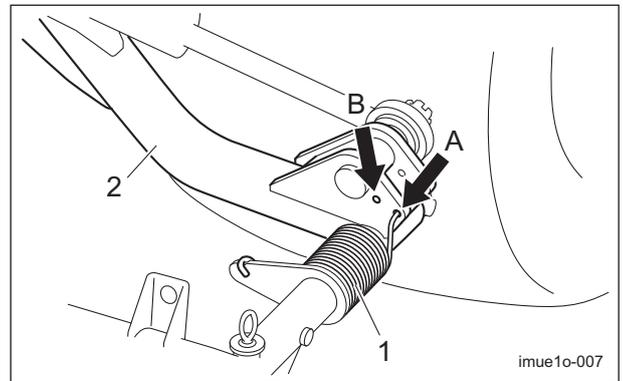
22 in モアユニット



モアユニット水平スプリングの調整_006

1	コイルスプリング
2	リフトアーム
A	ばねの荷重が弱い (標準位置)
B	ばねの荷重が強い

26 in モアユニット



モアユニット水平スプリングの調整_007

1	コイルスプリング
2	リフトアーム
A	ばねの荷重が弱い (標準位置)
B	ばねの荷重が強い

メンテナンス

#2、#3 モアユニット位置の調整

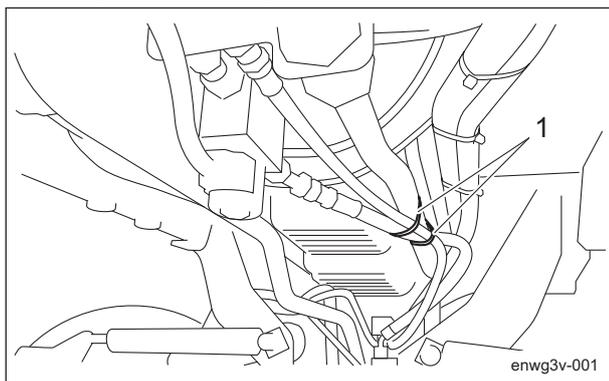
重要

グラスキャッチャーを装着する場合は、後位置に設定してください。

#2、#3 モアユニットは、位置を前後にスライドさせることができます。

スライド可能な距離は 200 mm (7.87 in) です。

1. 水平な場所ですべてのモアユニットを下ろしてください。
2. 昇降レバーを中立位置にしてください。
3. ブレーキペダルを強く踏みながらロック金を踏んで、ブレーキペダルをロックしてください。
4. エンジンを停止してください。
5. モアユニット昇降シリンダー用ホースのクランプを取り外してください。



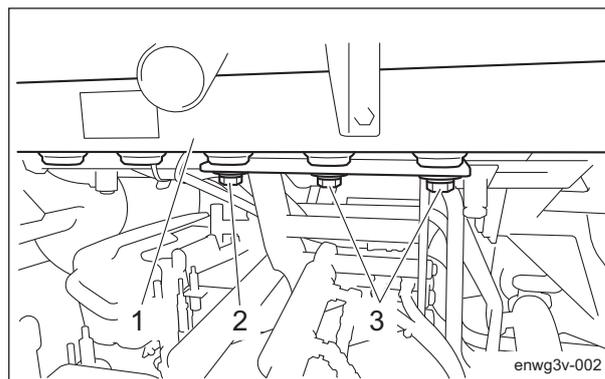
#2、#3 モアユニット位置の調整_001

1	クランプ
---	------

重要

#2、#3 モアユニットは、連結していますので同時にスライドしてください。

6. 以下の要領で、モアユニットをスライドさせてください。
 - ・ 前位置に設定する場合：
 - [1] #3 モアユニット側のボルト A を緩めてください。
 - [2] #3 モアユニット側のボルト B を取り外してください。

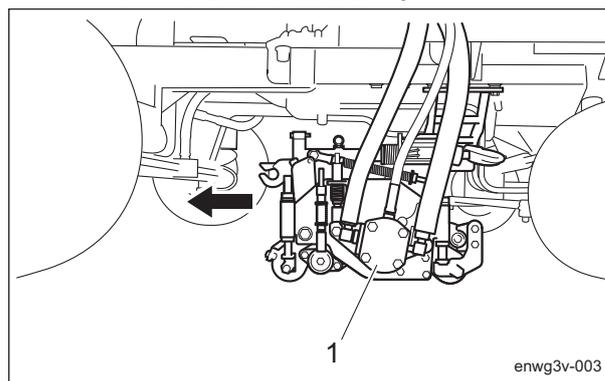


#2、#3 モアユニット位置の調整_002

1	フレーム
2	ボルト A
3	ボルト B

[3] #2 モアユニット側も同様にボルト A を緩め、ボルト B を取り外してください。

[4] #2、#3 モアユニットを後位置から前位置へスライドさせてください。



#2、#3 モアユニット位置の調整_003

1	モアユニット
---	--------

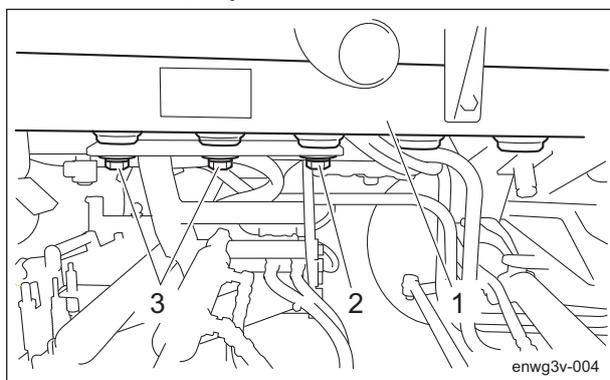
[5] #3 モアユニット側のボルト B を取り付けてください。

[6] #2 モアユニット側も同様にボルト B を取り付けてください。

[7] 両側のボルト A、ボルト B を締め付けてください。

・ 後位置に設定する場合：

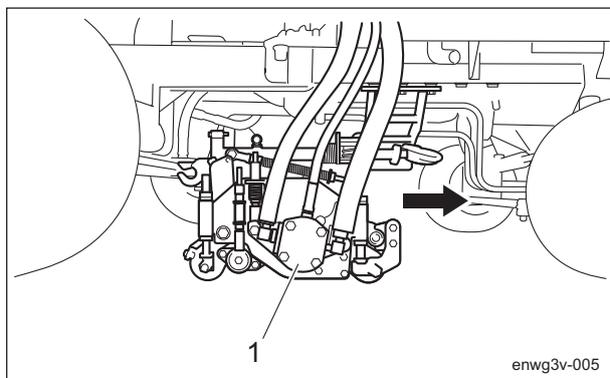
- [1] #3 モアユニット側のボルト A を緩めてください。
- [2] #3 モアユニット側のボルト B を取り外してください。



#2、#3 モアユニット位置の調整_004

1	フレーム
2	ボルト A
3	ボルト B

- [3] #2 モアユニット側も同様にボルト A を緩め、ボルト B を取り外してください。
- [4] #2、#3 モアユニットを前位置から後位置へスライドさせてください。



#2、#3 モアユニット位置の調整_005

1	モアユニット
---	--------

- [5] #3 モアユニット側のボルト B を取り付けてください。
 - [6] #2 モアユニット側も同様にボルト B を取り付けてください。
 - [7] 両側のボルト A、ボルト B を締め付けてください。
7. #2、#3 モアユニットのモアストッパーの調整をしてください。
「モアストッパーの調整（#2、#3 モアユニット）」（Page 5-36）
8. モアユニット昇降シリンダー用ホースを再度クランプで束ねてください。

モアストッパーの調整

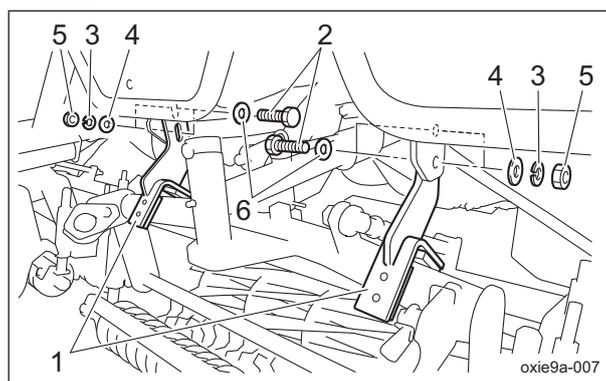
モアストッパーの調整（#1 モアユニット）

モアストッパーは、モアユニットがフレームに干渉するのを防ぐために取り付けられています。#1 モアユニットのモアストッパーは、使用するモアユニットの種類によってモアストッパーの取り付け向きが異なります。適切な向きに取り付けてください。

1. 左右のモアストッパーのナットを緩めてください。
2. 左右のモアストッパーを一番高い位置にして、仮に取り付けてください。
3. 水平な場所ですべてのモアユニットを上げてください。
4. ブレーキペダルを強く踏みながらロック金を踏んで、ブレーキペダルをロックしてください。
5. エンジンを停止してください。
6. 以下の手順で、モアストッパーの位置を調整してください。

- [1] 左右のモアストッパーのナットを緩めてください。
- [2] モアユニットを水平にして、モアアームがモアストッパーの中央に当たる位置で左右のモアストッパーのナットを締め付けてください。

LH62

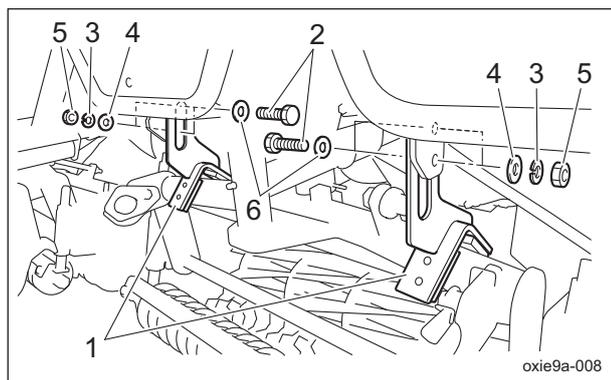


モアストッパーの調整（#1 モアユニット）_001

1	モアストッパー
2	ボルト
3	S ワッシャー
4	ワッシャー
5	ナット
6	座金

メンテナンス

LH52・LS62・LS66



モアストッパーの調整 (#1 モアユニット) _002

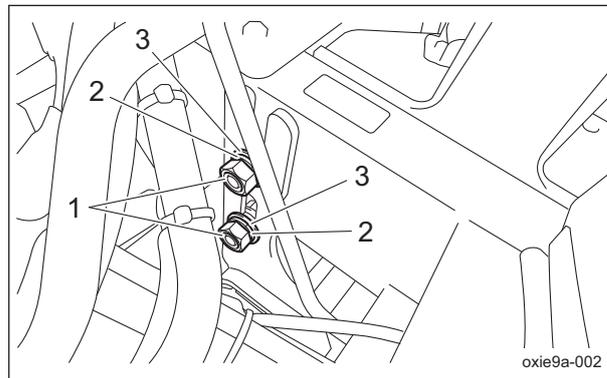
1	モアストッパー
2	ボルト
3	S ワッシャー
4	ワッシャー
5	ナット
6	座金

モアストッパーの調整 (#2、#3 モアユニット)

モアストッパーは、モアユニットがフレームに干渉するのを防ぐために取り付けられています。#2、#3 モアユニットのモアストッパーは、使用するモアユニットの種類によってモアストッパーの種類と取り付け向きが異なります。また、#2、#3 モアユニットのモアストッパーは、モアユニットの取り付け位置（前後）によって、モアストッパーの取り付け位置を調整する必要があります。適切な位置に取り付けてください。

1. 水平な場所ですべてのモアユニットを下ろしてください。
2. ブレーキペダルを強く踏みながらロック金を踏んで、ブレーキペダルをロックしてください。
3. エンジンを停止してください。
4. ボンネットを開けてください。
5. シート下カバーを開けてください。

6. モアストッパーのナットを取り外してください。

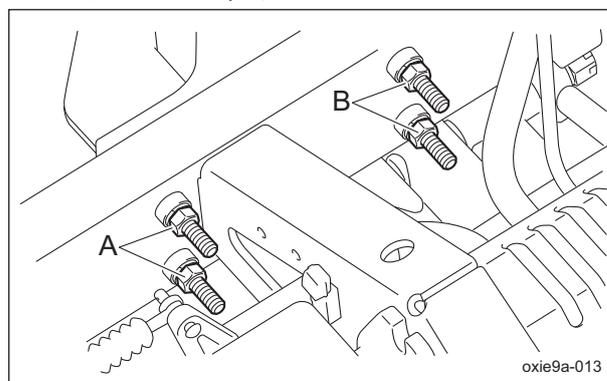


モアストッパーの調整 (#2、#3 モアユニット) _001

1	ナット
2	S ワッシャー
3	ワッシャー

7. モアストッパーの位置を調整してください。
 - ・モアユニットを前位置に設定する場合は、モアストッパーを「前位置」に取り付けます。
 - ・モアユニットを後位置に設定する場合は、モアストッパーを「後位置」に取り付けます。

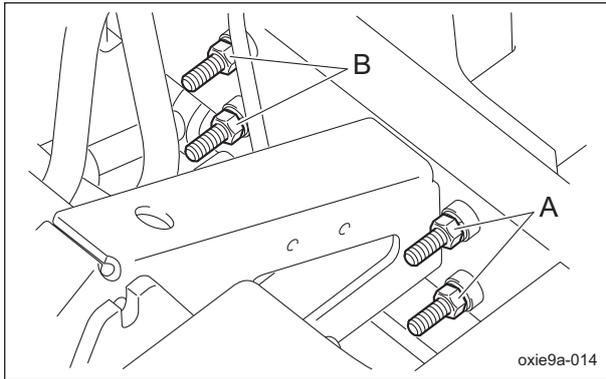
#2 モアユニット



モアストッパーの調整 (#2、#3 モアユニット) _002

A	モアストッパー前位置
B	モアストッパー後位置

#3 モアユニット



モアストッパーの調整 (#2、#3 モアユニット) _003

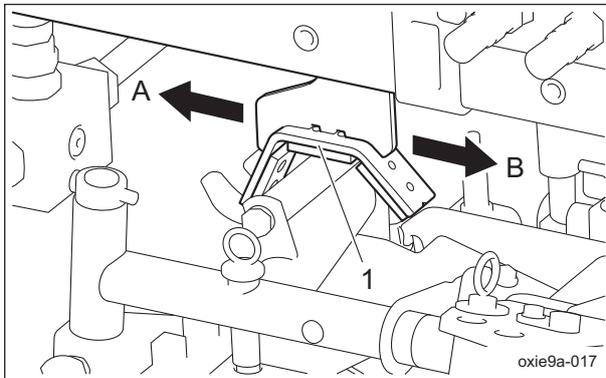
A	モアストッパー前位置
B	モアストッパー後位置

8. モアストッパーを仮に取り付けてください。
9. エンジンを始動してください。
10. すべてのモアユニットを上げてください。
11. モアユニットを水平にして、モアストッパーがモアアームに当たる位置で仮に取り付けたモアストッパーのナットを締め付けてください。

参考：

モアユニットの種類とモアストッパーの関係は、以下のとおりです。

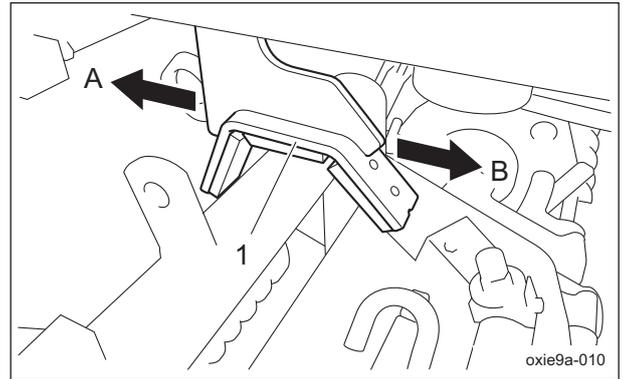
LH62



モアストッパーの調整 (#2、#3 モアユニット) _004

1	モアストッパー
A	フロント
B	リヤ

LH52・LS62



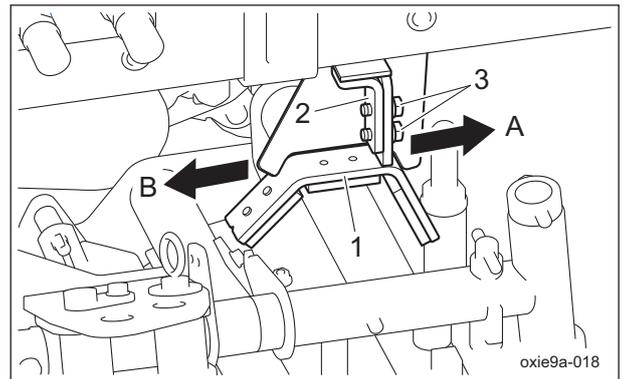
モアストッパーの調整 (#2、#3 モアユニット) _005

1	モアストッパー
A	フロント
B	リヤ

LS66

#2 モアユニット

モアストッパーを取り付けた後、ストッパー補強金 COMP をフレーム下面に押し当ててボルトで固定してください。



モアストッパーの調整 (#2、#3 モアユニット) _006

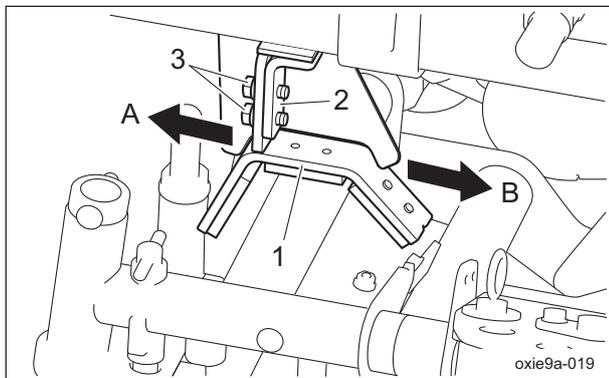
1	モアストッパー
2	ストッパー補助金 COMP
3	ボルト
A	フロント
B	リヤ

メンテナンス

LS66

#3 モアユニット

モアストッパーを取り付けた後、ストッパー補強金 COMP をフレーム下面に押し当ててボルトで固定してください。



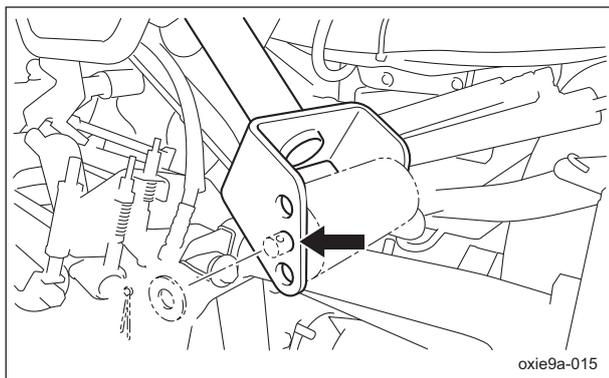
モアストッパーの調整 (#2、#3 モアユニット) _007

1	モアストッパー
2	ストッパー補強金 COMP
3	ボルト
A	フロント
B	リヤ

モアストッパーの調整 (#4、#5 モアユニット)

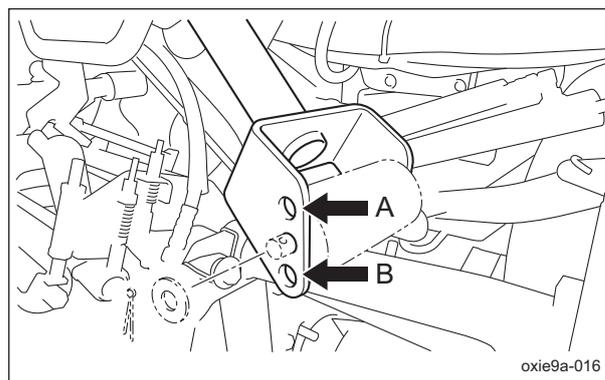
モアストッパーは、モアユニットがフレームに干渉するのを防ぐために取り付けられています。#4、#5 モアユニットのモアストッパーは、使用するモアユニットの種類によってモアストッパーの取り付け位置が異なります。適切な位置に取り付けてください。モアユニットの種類とモアストッパーの取り付け位置の関係は、以下のとおりです。

LH62



モアストッパーの調整 (#4、#5 モアユニット) _001

LH52・LS62

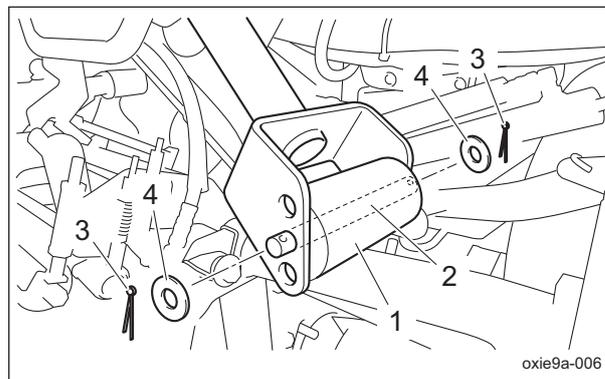


モアストッパーの調整 (#4、#5 モアユニット) _002

A	LS62
B	LH52

1. 水平な場所ですべてのモアユニットを下ろしてください。
2. ブレーキペダルを強く踏みながらロック金を踏んで、ブレーキペダルをロックしてください。
3. エンジンを停止してください。
4. 以下の手順で、モアストッパーの位置を調整してください。

- [1] 割ピンとワッシャーを取り外してください。
- [2] ローラー軸とゴムローラーを指定の位置に取り付けてください。
- [3] 割ピンとワッシャーを取り付けてください。



モアストッパーの調整 (#4、#5 モアユニット) _003

1	ゴムローラー
2	ローラー軸
3	割ピン
4	ワッシャー

LS66

モアユニット LS66 装着の場合は、調整の必要はありません。

冷却水の交換

注意

エンジン運転中および停止直後のラジエーター、冷却水には絶対に触れないでください。高温のため火傷をするおそれがあります。

注意

交換はエンジンが十分冷えてから、行ってください。

注意

ラジエーターキャップは、加圧式です。エンジンが過熱した状態でラジエーターキャップを取り外すと高温の蒸気が吹き出し、火傷をするおそれがあります。水温および、圧力が下がってからキャップを厚手の布などを当て、徐々に開けてください。

重要

冷却水を交換する場合は、冷却水を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

冷却水を交換する場合は、必ずきれいな水と不凍液（ロングライフクーラント）を混合し、ラジエーターとリザーブタンクに注入してください。

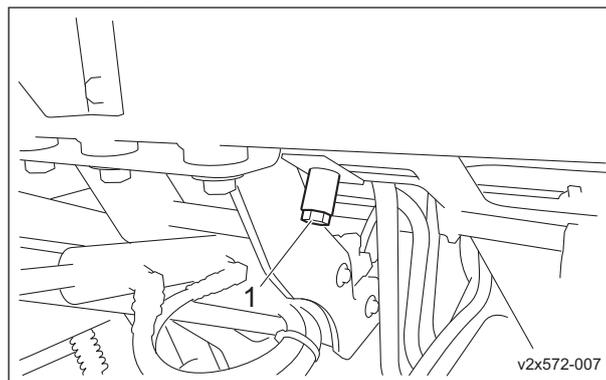
重要

ラジエーターキャップはしっかり閉めてください。キャップが緩んでいたり、不適切に取り付けられていると水が漏れてエンジンが過熱する可能性があります。

不凍液ときれいな水を混合する場合、不凍液の混合比は以下の「ロングライフクーラント（LLC）濃度と凍結温度の関係」を参考にしてください。ロングライフクーラント（LLC）濃度と凍結温度の関係

凍結温度	LLC 濃度（容量%）
-10 °C（14 °F）まで	20 %
-15 °C（5 °F）まで	30 %
-20 °C（-4 °F）まで	35 %
-25 °C（-13 °F）まで	40 %

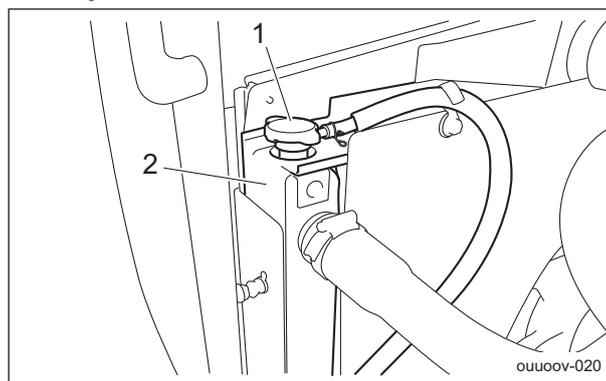
1. エンジンを停止し、ラジエーターを冷却してください。
2. ボンネットを開けてください。
3. 以下の要領で冷却水を排出します。
 - [1] 冷却水を受ける容器を置いてください。
 - [2] ラジエーターの排出プラグを取り外してください。



冷却水の交換_001

1 ラジエーター排出プラグ

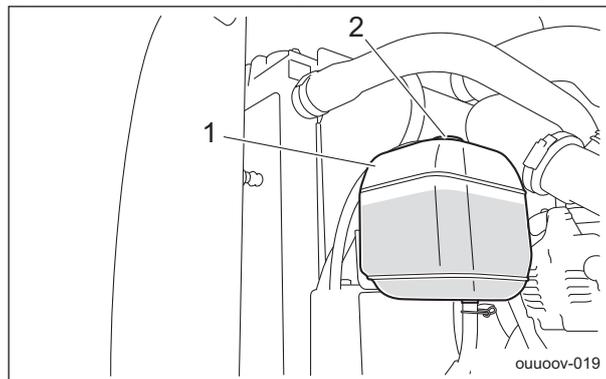
- [3] ラジエーターキャップを取り外してください。



冷却水の交換_002

1 ラジエーターキャップ
2 ラジエーター

- [4] リザーブタンクを取り外してください。



冷却水の交換_003

メンテナンス

1	リザーブタンク
2	リザーブタンクキャップ

- [5] リザーブタンクのキャップを開け、冷却水を排出してください。
- リザーブタンクを取り付けてください。
 - きれいな水でゴミやさびが出なくなるまで、ラジエーターを洗浄してください。
 - ラジエーター内の水をすべて排出してください。
 - 以下の要領で冷却水を満たします。
冷却水容量は、リザーブタンクを含み、10.0 dm³ (10.0 L) です。
 - 排出プラグを取り付けてください。
 - ラジエーターキャップの口元まできれいな水と不凍液をラジエーターに入れてください。
 - ラジエーターキャップを閉めてください。
 - リザーブタンクの「FULL」まできれいな水と不凍液を入れてください。
 - リザーブタンクのキャップを閉めてください。
 - エンジンを始動し、数分間運転して空気抜きをしてください。
 - エンジンを停止し、ラジエーターを冷却してください。
 - リザーブタンクの冷却水が「FULL」と「LOW」の間にあることを確認し、必要があれば補給してください。
 - ボンネットを閉めてください。

油圧作動油の交換

注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

作動油を交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

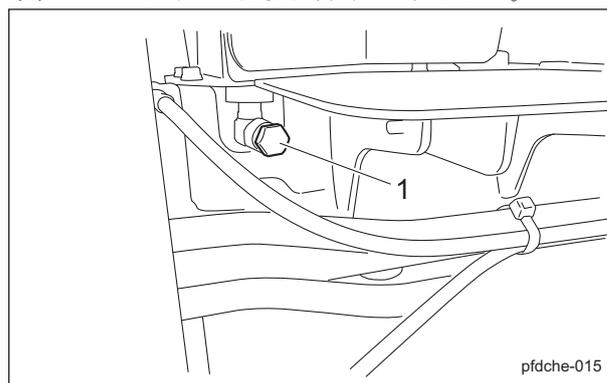
重要

作動油が乳化、または透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。

重要

作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

- 以下の要領で、古い作動油を抜き取ってください。
 - エンジンを始動し、作動油を温めてください。
 - 水平な場所で、モアユニットを下げ、エンジンを停止してください。
 - 油圧タンクのドレンプラグを外し、古い作動油を容器に抜き取ってください。
 - ドレンプラグを取り付けてください。

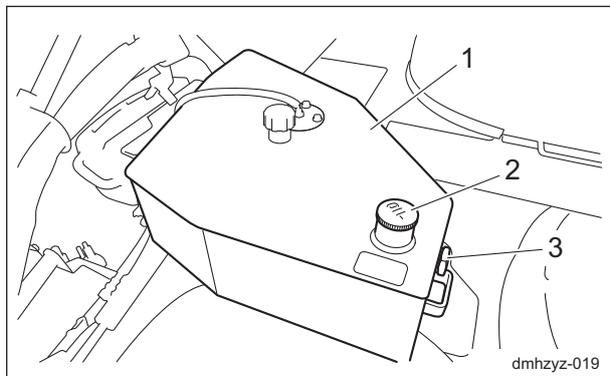


油圧作動油の交換_001

1	ドレンプラグ
---	--------

- タンクカバーを取り外してください。

3. タンクキャップを開け、注入口から新しい作動油を油面が油圧タンクの油量ゲージの中心になるまで入れてください。
油圧タンク容量は、約 30.3 dm³ (30.3 L) です。



油圧作動油の交換_002

1	油圧タンク
2	タンクキャップ
3	油量ゲージ

4. タンクキャップを確実に閉めてください。
5. エンジンを始動し、モアユニットを上げ下ろしし、左右にハンドルを切ってください。
前後進を数度繰り返してください。
6. 水平な場所でモアユニットを上げた状態で油面が、油量ゲージの中心にあるか確認し、必要があれば補給してください。
7. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。
8. タンクカバーを取り付けてください。

油圧オイルフィルターの交換

油圧オイルラインフィルターの交換

⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

油圧オイルフィルターを交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

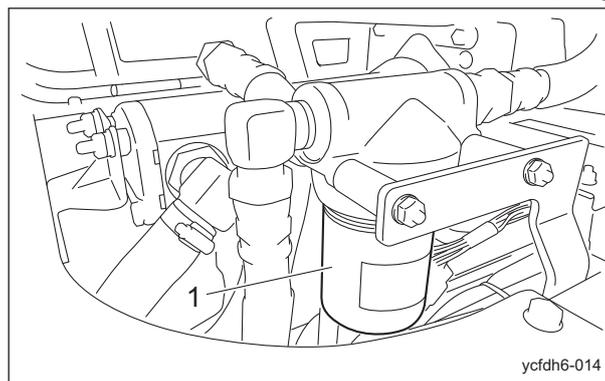
重要

作動油が乳化、または透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。

重要

作動油は、シェルテラス S2M46（相当品）を使用してください。

1. 水平な場所で、モアユニットを下げ、エンジンを停止してください。
2. フィルターケースを緩め、取り外してください。
参考：
24 mm のソケットレンチを使用してください。

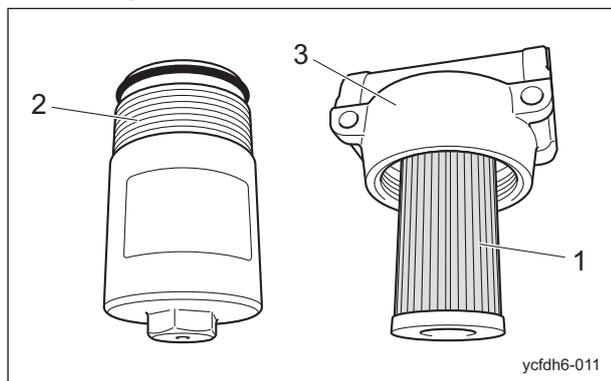


油圧オイルラインフィルターの交換_001

1	フィルターケース
---	----------

メンテナンス

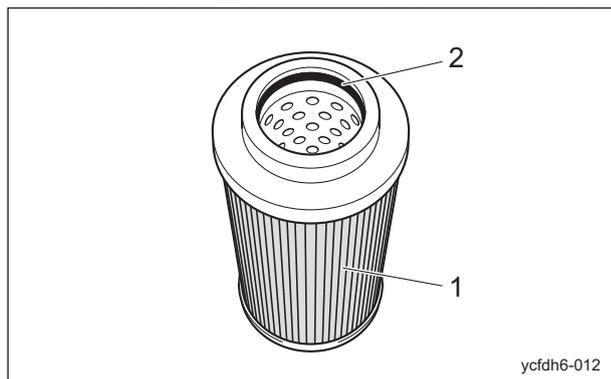
3. 古いフィルターカートリッジを取り外してください。



油圧オイルラインフィルターの交換_002

1	フィルターカートリッジ
2	フィルターケース
3	ボディ

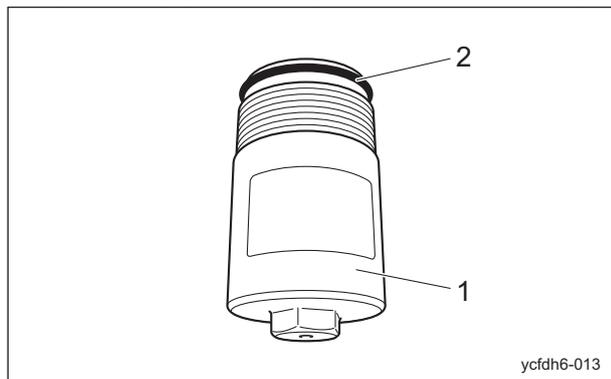
4. 新しいフィルターカートリッジのOリングに作動油を薄く塗布し、取り付けてください。



油圧オイルラインフィルターの交換_003

1	フィルターカートリッジ
2	Oリング

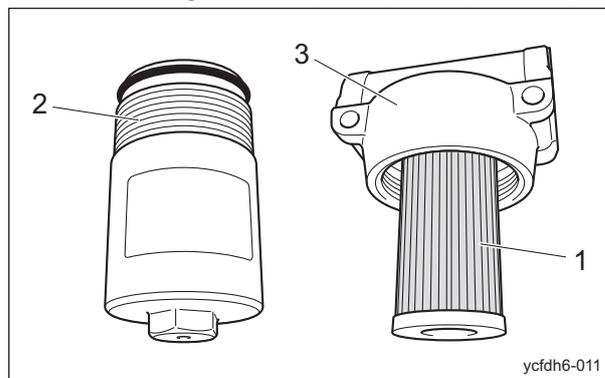
5. フィルターケースの内側をきれいに洗浄してください。
6. フィルターケースのOリングに損傷が無いか確認をし、作動油を薄く塗布してください。



油圧オイルラインフィルターの交換_004

1	フィルターケース
2	Oリング

7. フィルターケースをボディに取り付け、手で確実に締め付けた後、25 - 35 N・m (254.93 - 356.90 kgf-cm) で締め付けてください。



油圧オイルラインフィルターの交換_005

1	フィルターカートリッジ
2	フィルターケース
3	ボディ

8. 油圧作動油を規定量まで補給してください。
「油圧作動油の補給」(Page 4-5)
9. エンジンを始動し、作動油が温まった後、エンジンを停止してください。
10. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。

油圧サクションフィルターの交換

⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

油圧オイルフィルターを交換する場合は、作動油を容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

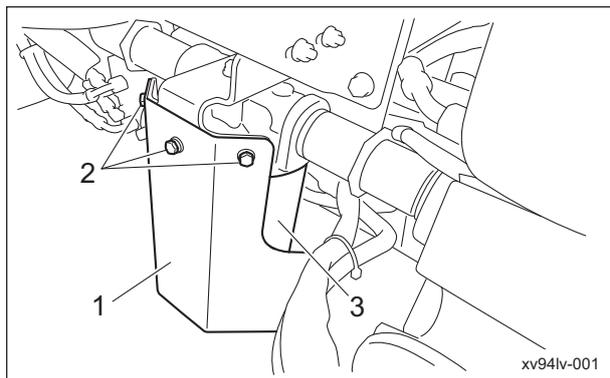
作動油が乳化、または透明度が少しでも悪くなった場合は、直ちに交換してください。

重要

作動油は、シェルテラス S2M46 (相当品) を使用してください。

1. 水平な場所で、モアユニットを下げ、エンジンを停止してください。

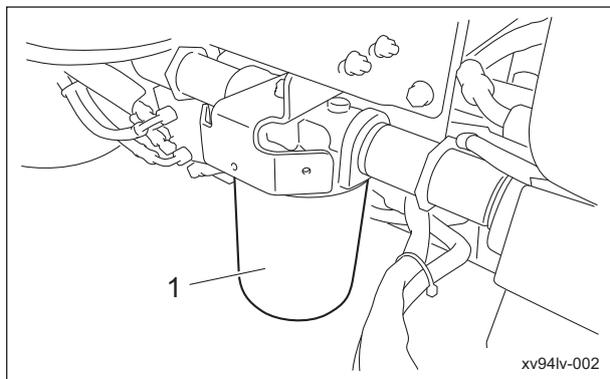
2. フィルター保護板を取り外してください。



油圧サクションフィルターの交換_001

1	フィルター保護板
2	ボルト
3	フィルターカートリッジ

3. 古いフィルターカートリッジを取り外してください。
4. 新しいフィルターカートリッジのパッキンに作動油を薄く塗布し、取り付けてください。
5. パッキンが取り付け面に当たるまでフィルターカートリッジを手で確実に締め付けてください。
その後、さらに1/2回転締め付けてください。



油圧サクションフィルターの交換_002

1	カートリッジフィルター
---	-------------

6. 油圧作動油を規定量まで補給してください。
「油圧作動油の補給」(Page 4-5)
7. エンジンを始動し、作動油が温まった後、エンジンを停止してください。
8. 機体の下を確認し、作動油漏れが無いことを確認してください。
9. フィルター保護板を取り付けてください。

エアクリーナーの交換

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。
エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

- エアクリーナーエレメントの交換時期は、以下のとおりです。
 - エアクリーナーエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。
 - 汚れの多い場合は、規定時間に達していても交換してください。
- エアクリーナーエレメントの交換は、エアクリーナーの清掃と同様の手順で行ってください。
「エアクリーナーの清掃」(Page 4-6)

エンジンオイルの交換

⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

エンジンオイルは、JASO 規格：DH-2 または、API 分類：CJ-4 で、使用環境（気温）に合わせたSAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

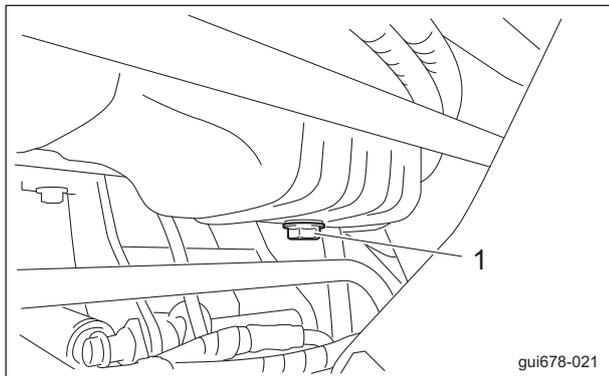
オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

- 以下の要領で、古いエンジンオイルを抜き取ってください。
 - エンジンを始動し、エンジンオイルを温めてください。
 - 水平な場所でエンジンを停止してください。

メンテナンス

- [3] ドレンプラグを外し、古いエンジンオイルを容器に抜き取ってください。

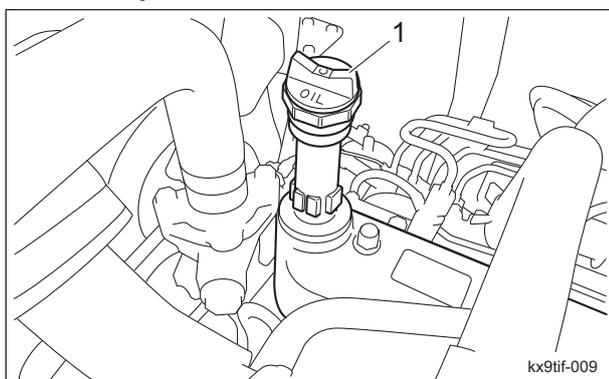


エンジンオイルの交換_001

1	ドレンプラグ
---	--------

- [4] ドレンプラグを再び取り付けてください。

2. オイルフィルターキャップを取り外し、新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限と下限の間になるまで入れてください。エンジンオイル量は、約 6.0 dm³ (6.0 L) です。
3. オイルフィルターキャップを確実に取り付けてください。



エンジンオイルの交換_002

1	オイルフィルターキャップ
---	--------------

4. 補給したエンジンオイルは、オイルパンに下がるまである程度時間を要します。補給してから 10 - 20 分後にオイルの量を再点検してください。
5. 機体の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。

エンジンオイルフィルターの交換

⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

エンジンオイルフィルターを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

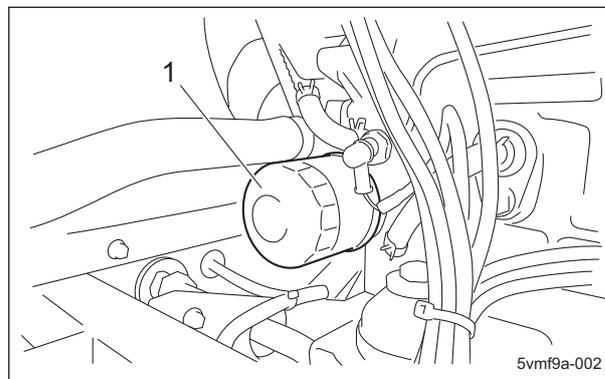
重要

エンジンオイルは、JASO 規格 : DH-2 または、API 分類 : CJ-4 で、使用環境 (気温) に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージとオイルフィルターキャップは、確実にねじ込んでください。

1. 古いフィルターカートリッジをフィルターレンチで取り外してください。



エンジンオイルフィルターの交換_001

1	フィルターカートリッジ
---	-------------

2. 新しいフィルターカートリッジのパッキンにエンジンオイルを薄く塗布してください。
3. フィルターカートリッジを手でねじ込み、シール面にパッキンが接触してから、フィルターレンチを使用せず手でしっかり締め付けてください。
4. エンジンオイルを規定量まで補給してください。
「エンジンオイルの補給」(Page 4-9)
5. エンジンを開始し、10 - 20 分後に停止してください。
6. フィルターカートリッジのシール面から油漏れが無いことを確認してください。

7. エンジンオイルの油量を確認してください。
少ない場合は、エンジンオイルを規定油面まで補給してください。

燃料フィルターの交換

重要

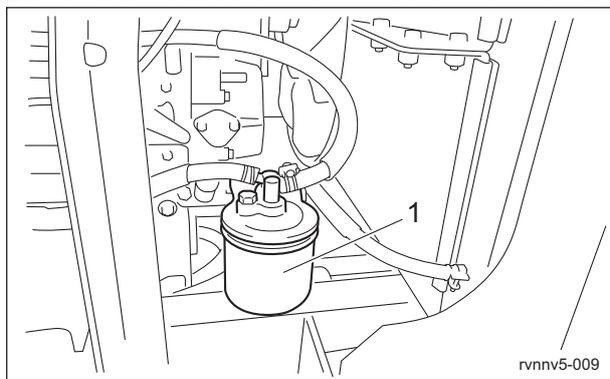
取り付けるときは、チリや埃が付着しないように注意してください。

燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料噴射ポンプや噴射ノズルが磨耗します。

燃料フィルターは、カートリッジ式ですので、分解、清掃はできません。

燃料フィルターは、埃やゴミがたまると燃料の流れが悪くなります。

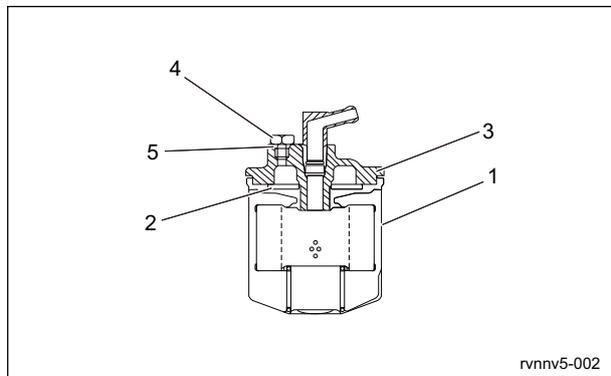
適切な時期に交換するように心掛けてください。



燃料フィルターの交換_001

1 燃料フィルター

- 以下の要領で交換をしてください。
 - フィルターレンチで、燃料フィルターのカートリッジを取り外してください。
 - 新しいカートリッジのパッキンに燃料を薄く塗布して、フィルターレンチを使用せずに手で十分締め付けてください。



燃料フィルターの交換_002

1	カートリッジ
2	パッキン
3	カバー
4	空気抜きプラグ
5	Oリング

- 交換後、エンジンキーを「ON」の位置にして燃料ポンプが作動すると、自動で空気抜きができます。

もし、自動で空気抜きができなかった場合は、手動で空気抜きを行ってください。

ヒューズの交換

ヒューズボックス

重要

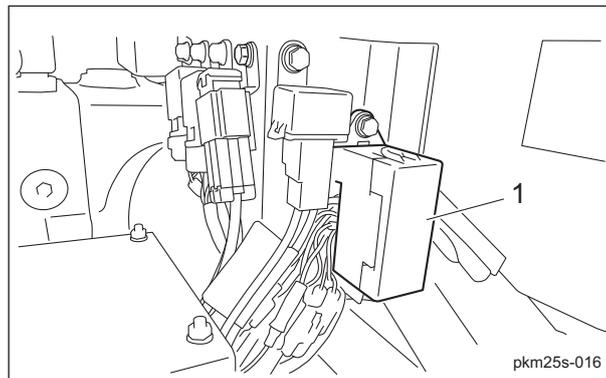
電気系統のメンテナンスを行う場合は、必ずバッテリーのマイナス配線を取り外してください。

重要

ヒューズが切れた場合は、電気回路内で短絡が生じている可能性があります。

端子の接続不良、配線、端子の損傷、配線の組み間違いなど、原因を調べてください。

ヒューズボックス内にスペアヒューズ、交換工具が付属されています。

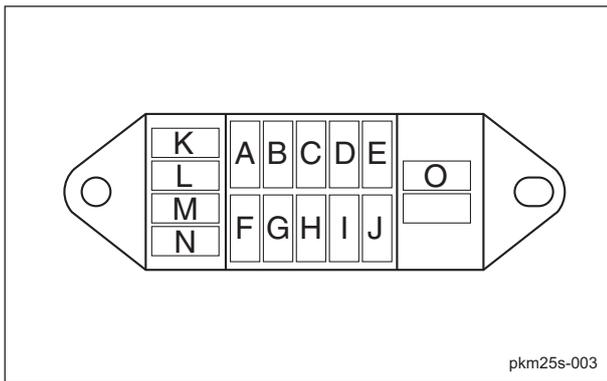


ヒューズボックス_001

1 ヒューズボックス

ヒューズは、自動車用ミニヒューズです。規定容量のものと交換してください。

メンテナンス



pkm25s-003

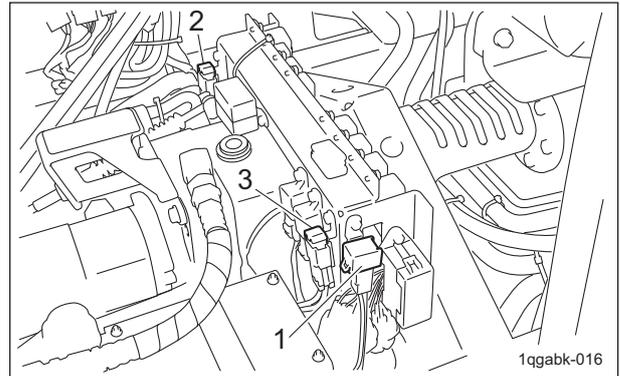
ヒューズボックス_002

A	5 A	タイマーユニット
B	5 A	サーモスタートランプ
C	5 A	燃料計、水温計、チャージランプ、オイルプレッシャー（エンジン油圧）ランプ、水温ブザー、作動油ブザー、アワーメーター
D	15 A	リレーボックスL、#4 近接センサー、#5 近接センサー、近接センサー（操作レバー）、近接センサー（走行ペダル踏み込み位置検出）、ディレイタイマー（#2・3 モアユニット下降）
E	15 A	リレーボックスR、近接スイッチ、ディレイタイマー（シート）、#2 近接センサー、リール正転・逆転スイッチ
F	-	（未使用）
G	5 A	タイマーユニット
H	5 A	オルターネーター
I	5 A	燃料ポンプ、リール回転スイッチ
J	5 A	ニュートラルセンサー、駐車ブレーキセンサー
K	5 A	スペア
L	5 A	
M	15 A	
N	15 A	
O		工具

ヒューズブルリンク

ヒューズブルリンクのヒューズ容量は、30 A、50 A、80 A です。

- ・ エンジン停止ソレノイド：30 A
- ・ ECU：50 A
- ・ バッテリー：80 A



1qgabk-016

ヒューズブルリンク_001

1	ヒューズブルリンク（30 A）
2	ヒューズブルリンク（50 A）
3	ヒューズブルリンク（80 A）

BARONESS[®]
Quality on Demand



株式会社 共 栄 社
〒442-8530 TEL (0533) 84-1221
愛知県豊川市美幸町1-26 FAX (0533) 84-1220